



IVA-D305J IVA-D305EU

DVD/CD/MP3/WMA MOBILE MEDIA STATION

RADIO/DVD/MMD/TV/AUX/SETUP

取扱説明書



MP3

WMA



お問い合わせはインフォメーションセンターへ

- インフォメーションセンター

<一般回線ご利用のお客様用>

TEL:0570-006636

※全国どこからでも市内通話料金でご利用頂けます。

<携帯電話等、移動体通信ご利用のお客様用>

TEL:048-662-6636

- 電話受付時間 9:30~17:30 (土日、祝日、弊社休業日を除く)
- 電話は混雑が予想されます。FAXでのお問い合わせをおすすめします。

FAX:048-662-6676

- アルパイン ホームページ <http://www.alpine.co.jp>



アルパイン株式会社

Designed by ALPINE Japan

Printed in China (Y-648)

68-05946Z96-B

安全にお使いいただくために

- ご使用の前に、この説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになった後も、説明書を手元に置いてご使用ください。説明書の指示を守らなかったことによる不具合に対して、当社は責任を負いかねます。
- この説明書は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

分解・改造をしないでください。
事故・火災・感電の原因になります。



禁止

電池・ネジなどの小物類は、幼児の手の届かないところに保管してください。飲み込んだ場合には、ただちに医師と相談してください。



ヒューズ交換は、規定容量（アンペア数）を守ってください。事故・火災の原因になります。



禁止



強制

DC12Vマイナスアース車以外に接続しないでください。事故・火災の原因になります。



強制

配線作業の前にはバッテリーのマイナス端子からアース線を外して、配線作業をしてください。感電・ケガの原因になります。



コードの被覆を切って、他の機器の電源を取らないでください。火災・感電の原因になります。



禁止

前方の視界を妨げる場所、ハンドル・変速レバーなど運転操作を妨げる場所、同乗者に危険をおよぼす場所には、取り付けしないでください。事故・ケガの原因になります。



禁止

取り付け・アース接続には、ハンドル・ブレーキ・タンクなどのボルトやナットを使わないでください。制動不能・火災の原因になります。



禁止

音や画面が出ない、異物が入った、煙が出る、変な臭いがしたときには、ただちに使用を中止して、お買い上げ店に相談してください。事故・火災・感電の原因になります。



禁止



強制

運転中は操作をしたり、画面を見たりしないでください。事故・ケガの原因になります。操作や画面を見る場合には、安全な場所に停車してください。



禁止

コード類は運転操作の妨げとならないように束ねてください。ハンドル・変速レバー・ブレーキペダルなどに巻き付くと、事故・故障の原因になります。



車体に穴をあける場合には、パイプ・タンク・電気配線などを傷つけないでください。事故・火災の原因になります。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

説明書に従って、正しく接続してください。火災・事故の原因になります。



禁止

コードをシートレールにはさんだり、突起部に当てたりしないでください。断線やショートにより、感電・火災の原因になります。



通風孔・放熱板をふさがないでください。火災・故障の原因になります。



禁止

付属部品を指定通りに使い、しっかりと取り付けてください。事故・故障の原因になります。



禁止

水のかかるところ、湿気やホコリの多いところには取り付けしないでください。火災・故障の原因になります。



禁止

取り付け・配線には、専門技術と経験が必要です。お買い上げ店に依頼してください。



車外の音が聞こえる音量でお使いください。事故・故障または聴力障害の原因になります。



車以外には使わないでください。感電・ケガの原因になります。



禁止

ディスク挿入口や可動ディスプレイのすきまには、指や異物を入れないでください。ケガ・故障の原因になります。



禁止

取り扱い上のご注意(共通)

本機の近くでは携帯電話や無線機を使わない

雑音や誤動作の原因になる場合があります。電話や無線機は、本機から離れてご使用になることをお勧めします。

また、リモコンスターター、カーセキュリティも誤動作の原因になる場合があります。

無理な力を加えない

製品は、精密な部品を用いて精密に組み立てられています。初期の性能を維持するためにやさしく丁寧な取り扱いをお願いいたします。

本機は国内で使う

本機は国内でのみお使いいただけます。外国ではお使いになれません。

製品のお手入れ

お手入れは乾いた布が堅く絞った布で拭いてください。ベンジンやシンナーなどの化学薬品は絶対に使わないでください。

極端な温度では使わない

車内の温度が極端に高い(炎天下駐車)ときや低い(厳冬期駐車)ときは、常温になってからお使いください。

結露にご注意

寒い車内を急に暖めると、信号読み取り装置のレンズに露がつき誤動作の原因になります。このようなときは、一時間ほどディスクを取り出しておくで正常に動作します。

音飛びについて

路面状況の悪いところを走行しているときに音飛びを起こすことがありますが、プレーヤーには影響ありません。車のサスペンションを通常より硬めにしていたり、サスペンションが壊れている場合は、音飛びする頻度が高くなります。

レンズクリーナーについて

レンズクリーナーは必ずアルパイン専用の「KAE-125C」(別売)を使用してください。

「KAE-125C」以外のレンズクリーナーを使用すると、レンズの破損や故障の原因となります。

モニターのお手入れ

- モニターが汚れたら柔らかい布でふいてください。
- 汚れがひどい場合は水で薄めた中性洗剤を柔らかい布に含ませ、よくしぼってからふきとってください。
- 「水」や「水で薄めた中性洗剤」は直接モニターにかけないでください。液体が内部に入り「シミ」や「故障」の原因になります。
- モニター表面は傷つきやすいため、硬いものでふいたり、こすったりしないでください。
- ベンジン、アルコール、シンナーは使用しないでください。変色、変質の原因になります。

取り扱い上のご注意(ディスク)

●特殊な形状のディスクは使わない

必ず円形のものをお使いください。円形以外のディスクを使用すると故障の原因になります。

●ディスクのお手入れ

柔らかいきれいな布で中心から外に向かってやさしく拭き取ってください。

●新品のバリに注意

ディスクの側面やセンターホール面にバリ(突起)があると勝手にイジェクトします。このような場合は、ボールペンなどで縁をなぞって突起を取り除いてください。

本機で再生できるディスクについて

● 再生できるディスク

本機では次のディスクが再生できます。

	マーク (ロゴ)	記録内容	ディスクの大きさ
DVD ビデオ		音声 + 映像 (動画)	12cm*
			8cm
ビデオ CD		音声 + 映像 (動画)	12cm
			8cm
音楽** CD		音声	12cm
			8cm (CDシングル)

* DVD二層ディスクに対応しています。

** ディスクレーベル面に「CDロゴ」上記マークの入ったものなどJIS規格に合致したディスクをご使用ください。
CD-R/CD-RWを含む。

● 再生できないディスク

DVD-ROM、DVD-RAM、DVD + R、DVD + RW、CD-ROM (MP3/WMA ファイルを除く)、フォトCD、ナビゲーション専用ディスクなど。

CD規格外ディスクを使用された場合には安定した再生や最良な音質の保証は致しかねます。

また、本機は音楽専用機器で録音した音楽専用のCD-R (CD-Recordable) / CD-RW (CD-ReWritable)、MP3/WMA ファイル形式のCD-R / CD-RWの再生が可能です。

次のようなディスクは、再生できないことがあります。
指紋やキズが付いている / 車内や製品内に長時間放置した / データ書き込み状態が不安定 / データ書き込みに失敗し再録音した場合など。

MP3/WMAファイルは本機対応のフォーマットで記憶したディスクを使用してください。詳しくは86～87ページを参照してください。

● コンパクトディスク (CD/CD-R/CD-RW) の取り扱い

故障や動作不良を起こさないために次の点を守ってお使いください。
盤面にさわらない / 直射日光下に置かない / ラベルを貼らない / ホコリやごみが付いたら拭きとる / バリが無いことを確認する / 市販のアクセサリを使わない。

特にCD-R/CD-RWは以下の点について十分に注意してください。

車内や製品内に長時間放置しない。特に直射日光下には絶対放置しない。高温多湿の環境に弱いため、ディスクが劣化し再生不能となる場合があります。

● CD-R/CD-RW をご使用のお客様へ

- CD-R/CD-RW が再生できない場合は、クローズセッション (ファイナライズ処理) を行っているかどうか、確認してください。
- 行われていない場合は、クローズセッション (ファイナライズ処理) を行い、再度、お試しください。

● DVD-R/DVD-RW ディスクのご使用について

- 本機は、DVD-Videoモードで記録されたディスクのみ対応しております。DVD-VRモードで記録されたディスクの再生はできません。
- ファイナライズ処理 (再生専用DVDプレーヤーで再生可能にするための処理) がされていないディスクは再生できませんのでご注意ください。
- ディスクの書き込みに使用した機器の仕様によっては再生できない場合があります。(本機には違法コピー検出機能を有しております。違法コピーを検出した際は再生を行いません。正しい方式で記録されないPCソフトで記録した場合、本機では違法コピーと検出する場合があります)
- 録画に使用したDVDレコーダやDVD-R/DVD-RWディスクの特性、傷、汚れ、またはDVDプレーヤーのピックアップレンズの汚れ、結露などにより再生できない場合があります。
- DVD-R/DVD-RWディスクの取り扱いにあたっては、ディスクの使用上の注意を必ずお守りください。
- DVD-R/DVD-RWディスクのレーベル面や記録面にシール、シート、テープなどを貼らないでください。
- DVD-R/DVD-RWディスクは通常のDVDに比べ高温多湿環境や直射日光に弱く、一部のディスクや長時間車室内に放置したディスクは再生できない場合があります。

● **DVD リージョン番号（再生可能な地域番号）について**
このDVDヘッドユニットのリージョン番号は2です。DVDビデオディスクに表示されている地域番号が下記のようなリージョン番号を含んでいないまたは、が表示されていないディスクは再生できません。なお、リージョン番号の設定を変更することはできません。



● **ビデオ CD について**

本機は、プレイバックコントロール（PBC）付き対応ビデオ CD（バージョン 2.0）に対応しています。

PBC とはディスクに記録されているメニュー画面を見ながら、見たい画面や情報を対話形式で楽しむことができることを言います。

● **ディスクに関する用語について**

タイトル

DVDビデオディスクに記録されている映像や曲などを区切るいちばん大きな単位です。

チャプター

タイトルの内容を場面や曲ごとにさらに小さく区切った単位です。

※ 本機は、米国特許権及びその他の知的所有権によって保護された著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用にはマクロビジョンの許諾が必要であり、マクロビジョンが特別に許諾する場合を除いては、一般家庭その他における限られた視聴用以外に使用してはならないこととされています。改造または分解は禁止されています。

※ ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。DOLBY、ドルビー、PRO LOGICおよびダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

※ DTS および DTS 2.0+Digital Out は米国 Digital Theater System, Inc. の登録商標です。

※ Windows Media™ および Windows® ロゴは、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

※ Apple, iPodは、米国および他の国々で登録されたApple Computer, Inc. の商標です。

※ MPEG Layer-3 オーディオコーディング技術は、Fraunhofer IIS および Thomson から実施許諾されています。

※ 本製品の供給は、収益を発生する放送システム、ストリーミングアプリケーション、その他のコンテンツ配信システム、または物理的媒体で、本製品で創作されたコンテンツを配信する権利を暗示するものでもありません。当該使用には、独立したライセンスが必要です。詳細に関しては、<http://mp3licensing.com> にアクセスして下さい。

目次

⚠ 安全にお使いいただくために

警告／注意	3
本機で再生できるディスクについて	5
目次	7

🖱 基本操作

本体キーの名称	10
リセットする	10
電源の ON/OFF	11
モニター（メインディスプレイ）を立ち上げる／収納する	11
モニター（メインディスプレイ）をフラットにする	11
音量を調整する	12
ミュートの ON/OFF	12
画面の見かた	12
タッチスイッチの操作について	12
ソースの呼び出し	12
ショートカット画面	13
10 キー入力画面表示	13

CD 操作

CD（ディスク）を聴く	14
曲順を変えて聴く M.I.X.（ミックス）	14
繰り返し聴く REPEAT（リピート）	14

MP3/WMA 操作

MP3/WMA を聴く	15
フォルダを選択する	15
曲順を変えて聴く M.I.X.（ミックス）	15
繰り返し聴く REPEAT（リピート）	16

DVD／ビデオ CD 操作

DVD／ビデオ CD を再生する	17
メニュー画面が表示されたら	18
トップメニュー画面を表示する（DVD のみ）	18
メニュー画面を表示する（DVD のみ）	18
メニュー操作モード画面を表示する（DVD のみ）	19
PBC 機能の ON/OFF 設定（ビデオ CD のみ）	19
再生中止（PRE STOP）	19
再生停止	19
早送り／早戻し	19
チャプター／トラックの頭出し	19
静止（一時停止）する	19
コマ送り／戻し再生	20
スローモーション再生	20
タイトル番号で頭出し（DVD のみ）	20
チャプター／トラック番号で直接頭出し	20
チャプター／トラック／タイトルリピート再生	21
音声言語切りかえ	21
アングル切りかえ（DVD のみ）	21
サブタイトル（字幕言語）切りかえ（DVD のみ）	22
DVD／ビデオ CD の使用状態を表示する	22

ラジオ操作

ラジオを聴く	23
自動的に放送局を記憶する	23
放送局を記憶する	23
記憶した放送局を受信する	23

TV 操作

自動的にチャンネルを記憶する	24
放送局を記憶する	24
記憶した放送局を呼び出す	24
放送局を選ぶ	24

便利な機能

オーディオ調整	25
バランス調整	25
フェダー調整	25
サブウーハーレベル調整	25
NAV. LEVEL 調整	25
DEFEAT の ON/OFF	25
バランス／フェダーをダイレクトに調整する	25
道路交通情報を受信する TRF（トラフィックインフォメーション）	25
サーチ機能	25
内蔵 CD モード	26
内蔵 MP3/WMA / 外部 MP3 対応 DVD プレーヤー / チェンジャーモード	26
リアエンター機能	26
リモコン受光部を切りかえるには	26
音声はそのまま映像ソースのみを切りかえる （サイマル機能）	27
サイマル機能を解除するには	27
表示モードを切りかえる	27
バックライトを OFF にする（BLACK OUT 機能）	27

モニター（メインディスプレイ）機能設定

モニター（メインディスプレイ）設定	28
モニター（メインディスプレイ）の角度調整	28
モニター（メインディスプレイ）前後方向の調整	28
エンジンキー連動でモニター（メインディスプレイ）の 自動開閉を行う	28

セットアップ操作

DVD セットアップ	29
言語設定を変更する	29
メニュー言語の設定	29
音声言語の設定	29
字幕言語の設定	30
カントリーコード設定を変更する	30
視聴規制（パレンタルロック）を設定する	30

PARENTAL の規制レベル設定	30	映像画質を調整する	46
パスワードを変更する	30	VISUAL EQ を記憶する	46
デジタル出力設定を変更する	31	Data Download	47
ダウンミックスモードの設定	32	SOUND SETUP/BACKGROUND の	
TV スクリーン設定を変更する	32	ダウンロードについて	47
GENERAL セットアップ	33	SOUND SETUP データのダウンロード	47
時計を表示する	33	MY BACKGROUND データのダウンロード	48
時刻を設定する	33	外部オーディオプロセッサの操作 (オプション)	49
デモンストレーション機能	33	ドルビーサラウンドの調整手順	49
操作音の切りかえ	33	スピーカーの設定をする	49
スクロールの設定	34	外部オーディオプロセッサの MX モードを設定する	50
TUNER (FM) 音質の設定	34	X-OVER の調整	51
音声多重機能を使う (二重音声放送)	34	手動で時間補正を行う (TCR)	52
MP3/WMA 再生データの設定	34	位相切りかえ	52
照光ボタンの夜間減光調整	34	グラフィック EQ の調整	53
SYSTEM セットアップ	34	パラメトリック EQ の調整	54
外部割り込みモードの設定	35	Bass Sound コントロールの設定	55
外部割り込みアイコン表示の設定	35	Bass Compressor の設定	55
ナビゲーションモードを設定する	35	Bass Focus の設定	55
ナビゲーション音声の割り込み設定	35	スピーカーセットアップ	55
CD 録音速度の設定	35	ドルビーデジタルを設定する	56
AUX モードを設定する	35	音像を調整する	56
外部入力に表示名をつける	36	リアに低域音声をミキシングする	56
外部入力音声レベルの調整	36	迫力のある大音量再生を楽しむには	56
外部モニター出力の設定	36	スピーカーレベルを調整する	57
リアカメラの設定	36	DVD レベルを調整する	57
VISUAL タッチスイッチの設定	36	設定した内容を記憶する	57
照光ボタンの色をかえる (IVA-D305EU のみ)	36	記憶した内容を呼び出す	57
外部オーディオプロセッサの光デジタル		PRO LOGIC II を使う	58
入力切りかえ設定	36	CENTER WIDTH CONT を選ぶ	58
DISPLAY セットアップ	37	リニア PCM の設定	59
バックライトの明るさを設定する	37		
バックライトの最低レベルを調整する	37		
背景画面を切りかえる (バックグラウンド)	37		
オートバックグラウンドの設定	38		
フォントタイプの設定	38		
フォントバック表示色を切りかえる	38		
タッチパネル操作振動の ON/OFF	38		
タッチパネルの調整	38		

i-Personalize™

Media Xpander 機能	39
MX モードの設定	39
Bass Engine 機能	40
Bass Engine の設定	40
Bass MAX EQ モードを選ぶ (メーカー設定)	40
パラメトリック EQ の調整と記憶 / 呼び出し	40
タイムコレクション (時間補正) について	41
タイムコレクションの調整と記憶 / 呼び出し	42
Bass Focus の調整と記憶 / 呼び出し	43
ハイパスフィルターの調整と記憶 / 呼び出し	44
サブウーハーの ON/OFF	44
VISUAL EQ™	45
VISUAL EQ 設定機能	45
VISUAL EQ モードを選ぶ (メーカー設定)	45
映像の明るさを調整する	45
映像の色の濃さを調整する	45
映像の色あいを調整する	45
映像コントラストを調整する	46

HDD/MD/MS プレーヤー操作 (オプション)

HDD/MD/ "MG メモリースティック" の曲を聴く	59
------------------------------------	----

ナビゲーション画面に切りかえる (オプション)

ナビゲーションモードにする	60
---------------------	----

AUX 操作 (オプション)

AUX (外部入力) モードにする	60
-------------------------	----

地上デジタルテレビ操作 (オプション)

地上デジタルテレビモードにする	61
チャンネルを選ぶ	61
登録したチャンネルを呼び出す	61
番組情報を見る (EPG)	61
メニュー画面を表示する	61
メニュー操作モードを表示する	61

チェンジャー操作（オプション）

チェンジャーでCD/MDを聴く	62
-----------------------	----

iPod® 操作（オプション）

iPod®の曲を聴く	63
聴きたい曲を探す	64
Playlist（プレイリスト）から探す	64
アーティスト名から探す	64
アルバム名から探す	64
曲順を変えて聴く シャッフル（M.I.X. ミックス）	65
繰り返し聴く REPEAT（リピート）	65

サブディスプレイ表示について

サブディスプレイ表示について	66
サブディスプレイに時計表示させる	66
サブディスプレイの時刻設定	66

✂ 取り付けと接続

取り付けと接続	67
---------------	----

その他

用語解説	83
言語コード表	84
DVDについて	85
MP3/WMAについて	86
周波数帯域と音質について	88
故障かな？と思ったら	89
規格	92
保証について	93
お問い合わせ窓口	94
索引	95

オプションとは？

当社別売の拡張オーディオ製品（チェンジャー、オーディオプロセッサーなど）と組み合わせた場合に、本機から操作することができます。別売製品と組み合わせた際にお読みください。

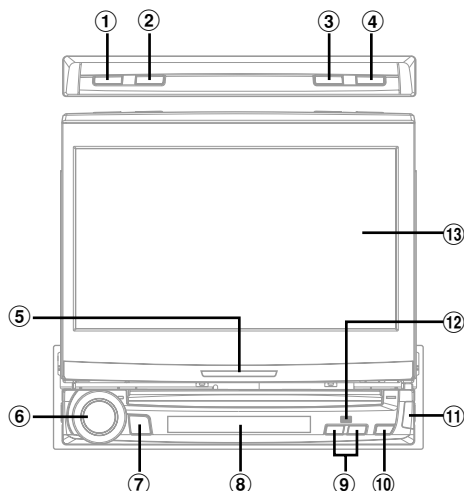
説明ページを検索するために

本書は説明ページを検索するために「索引」を用意しました。「索引」については、95ページ～97ページを参照してください。



基本操作

本体キーの名称



① BAND/TRF ボタン

ラジオ：バンドを切りかえる。

映像ソース（ナビ画面以外）：表示モード切りかえ。
2秒以上押しで、TRF ON/OFFを切りかえる。チェンジャー切りかえ（拡張BOX接続時）。メディア切りかえ（MD/MS/HDD製品接続時）。（「TRF（トラフィックインフォメーション）」25ページ参照）

② NAV. POS. ボタン

ナビゲーションモード*時、現在地を呼び出す。
（但し、ナビゲーション映像のサイマル状態時では、現在地は呼び出せません）

* NVA-HD55Sシリーズのナビゲーションシステム接続時。

③ FLAT/SUB DISP. ボタン

立ち上げたモニター（メインディスプレイ）をフラット（水平）にする。（モニター（メインディスプレイ）の角度調整は11ページ参照）

2秒以上押しで、サブディスプレイ表示を切りかえる。（時計 ↔ 各モードの通常表示）

④ OPEN/CLOSE ボタン

モニター（メインディスプレイ）の立ち上げ／収納をする。

⑤ アクションインジケータ

下記以外は常時点灯しています。

- ・モニター（メインディスプレイ）を収納するときに点滅する。
- ・Dimmer（モニター（メインディスプレイ）の明るさ）の設定がON時は消灯し、AUTO時は車内の明るさに連動して消灯になる。
- ・バックライト（BLACK OUT機能）の設定がOFF時は、ゆっくりと点滅する。

⑥ ロータリーエンコーダー / AUDIO MODE / MUTE

左右に回して音量を調整する。

押すと AUDIO 調整画面を表示する。

2秒以上押しで、ミュート ON/OFF を切りかえる。

⑦ SOURCE/POWER ボタン

電源を ON にする。2秒以上押しで OFF にする。

ソース選択画面を呼び出す。

⑧ サブディスプレイ

（「サブディスプレイ表示について」66ページ参照）

⑨ ◀◀/▶▶ ボタン

ラジオのプリセット UP/DOWN。ディスクのトラック、ファイル、チャプターの UP/DOWN。

押し続けると、早戻し／早送りをする。

⑩ ▲ ボタン

ディスクを取り出す。

⑪ △ ボタン

リセットする時に使用する。（「リセットする」同ページ参照）

⑫ リモコン受光部

別売のリモコンで操作するときにはリモコン受光部に向けて2m以内で使用する。

⑬ モニター（メインディスプレイ）

本書での本体スイッチ表示について

- 本体のスイッチを押すときは、「○○○」（「SOURCE/POWER」など）でスイッチ名称を表示しています。

本書でのタッチスイッチ（タッチパネル上のスイッチ）表示について

- タッチスイッチにタッチするときは、「○○○」（「SOURCE」など）でスイッチ名称を表示しています。
- 本書では、タッチスイッチと本体スイッチが同じ機能をする場合は、タッチスイッチをメインに説明しています。

モニター（メインディスプレイ）について

- モニター（メインディスプレイ）が閉じた（収納）状態でラジオやオーディオを聞くことができます。
- モニター（メインディスプレイ）立ち上げ／収納の際に水平になっているときは、画面の表示は消えています。



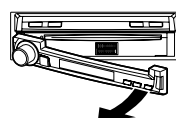
リセットする

初めて使うときや、チェンジャー等を取り付けたり車のバッテリーを交換したときは、リセットしましょう。

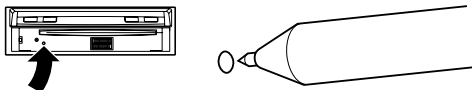
1. イグニッションキー（エンジンキー）を OFF にする。

2. 「△」を押す。

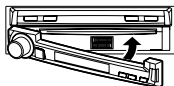
パネルの右端をつかんで、静かに手前に取り外す。



3. リセットスイッチをペン先などで押す。



4. パネルの左側を押さえながら、右端をまっすぐ、そのままゆっくりカチッと音がするまで押し込む。



- リセットすると、時刻など記憶した内容が消去されます。もう一度、登録し直してください。
- モニター(メインディスプレイ)が立ち上がっている状態でリセットを行い、イグニッションをACCにすると、モニター(メインディスプレイ)は自動的に収納されます。
- 取り外したパネル(特に裏側端子部)が暖かくなっていても故障ではありません。
- 取り外したパネルを取り付ける前にコネクター端子に汚れやほこりがないこと、取り外したパネルとメインユニットの間に異物がないことを確認してください。

電源のON/OFF

1. イグニッションキー(エンジンキー)をACCまたはONにする。
2. 「SOURCE/POWER」を押す。
システム電源がONになる。
3. 電源を切るときは、「SOURCE/POWER」を2秒以上押す。
システム電源がOFFになる。



- 電源は「▲」、「OPEN/CLOSE」、「FLAT」以外のどのスイッチを押してもONになります。
- 動きのない画面を長時間表示させないでください。同じ画像を長時間表示しているとその画像が他の画面に残ってしまふことがあります。
- 電源を入れた直後は、画面が暗く見にくいことがあります。数分たちますと正常表示になります。
- 走行中は、一部の操作しかできません。(SETUP、i-Personalizeモードなどの操作は、車を停止させてから行ってください。)
- 「PICTURE OFF FOR YOUR SAFETY」とメッセージが表示されたら、車を停止(パーキングブレーキを引いた状態)させてから、DVDなどの映像を楽しんだり、操作を行ってください。
- モニター(メインディスプレイ)が閉じた状態でも、別売りリモコンからの操作は、ご使用できます(一部操作除く)。
- 使用環境によっては、一時的に音量が下がる場合がありますが故障ではありません。
- 製品を長い時間使用していると、製品は徐々に熱くなってきます。温度上昇は異常ではありませんが、煙が出たり変な臭いがした場合は直ちに使用を中止し、お買い上げ店または、サービスセンターにご相談ください。

モニター(メインディスプレイ)を立ち上げる/収納する

1. 「OPEN/CLOSE」を押す。

ブザー音3回とともに、モニター(メインディスプレイ)が自動的に立ち上がる。

「OPEN/CLOSE」を押す。

ブザー音3回とともにモニター(メインディスプレイ)が収納する。



注意

モニター(メインディスプレイ)の開閉は、決して手動では行わないでください。故障の原因になります。



- TILT(モニター(メインディスプレイ)の角度調整)については、28ページをご覧ください。
- モニター(メインディスプレイ)を立ち上げたときに障害物があったときは、ブザー音が鳴りその場で止まります。その時は障害物を取り除き、再度「OPEN/CLOSE」を押すとモニター(メインディスプレイ)は収納されます。
- モニター(メインディスプレイ)を手で無理に引っ張ったり押し戻したりしないでください。故障の原因となります。
- モニター(メインディスプレイ)立ち上げ工場出荷時角度は90°です。車種によっては、立ち上げ時にモニター(メインディスプレイ)背面が車側に当たる場合がありますので、ご注意ください。次回立ち上げ時からは、調整した角度を記憶します。「モニター(メインディスプレイ)の角度調整」(同ページ)で調整してください。なお、調節後の角度は、車のバッテリー電源をはずしても記憶しています。

モニター(メインディスプレイ)をフラットにする

立ち上げたモニター(メインディスプレイ)の影になってしまふ車側のエアコン操作などをしたいときに便利な機能です。

1. 「FLAT」を押す。

モニター(メインディスプレイ)はフラット(水平)な状態になる。

2. 再度「FLAT」を押すと、モニター(メインディスプレイ)の角度はもとに戻る。



- フラット(水平な)動作を開始してから約10秒後にモニター(メインディスプレイ)はもとの角度に戻ります。
- モニター(メインディスプレイ)がFLAT(水平な)状態のときに、モニター(メインディスプレイ)の背面に物を置くなど無理な力を加えますと故障の原因となります。

音量を調整する

1. 「ロータリーエンコーダー」を左右に回して、音量を調整する。

VOLUME : 0 ~ 35

ミュートのON/OFF

1. 「ロータリーエンコーダー」を2秒以上押す。
瞬時に音量が下がる。
2. 解除するには、再度「ロータリーエンコーダー」を2秒以上押す。

画面の見かた

タッチスイッチの操作について

本機は、PULSETOUCH™ 機能を備えております。

PULSETOUCH™機能とは…?

- 本機のモニター(メインディスプレイ)パネルをタッチすると、モニター(メインディスプレイ)パネル表面が振動し指先に伝わります。モニター(メインディスプレイ)パネルをタッチしたときのクリック感やキーエリア認識をより高めた機能です。



- モニター(メインディスプレイ)保護のため、タッチスイッチは指の腹で軽くタッチしてください。
- スイッチの反応がないときは、一度画面から手を離してから再度タッチしてください。
- 同時に2個以上タッチすると誤動作につながります。

本書でのタッチスイッチ表示について

- タッチスイッチにタッチするときは、[OOO]([SOURCE]など)でスイッチ名称を表示しています。

本書での本体スイッチ表示について

- 本体のスイッチを押すときは、「OOO」([SOURCE/POWER]など)でスイッチ名称を表示しています。
- 本書では、タッチスイッチと本体スイッチが同じ機能をする場合は、タッチスイッチをメインに説明しています。



ソースの呼び出し

ここでは、ラジオモード画面の移りかわりを例にソースの呼び出しかたを説明します。

1. 表示されているメイン画面上の[SOURCE]にタッチする。
ソース選択画面が表示される。

<ソース選択画面表示例>



選択できるソースモードが表示される。
(接続、各設定により表示されるソースモードの種類は異なります)

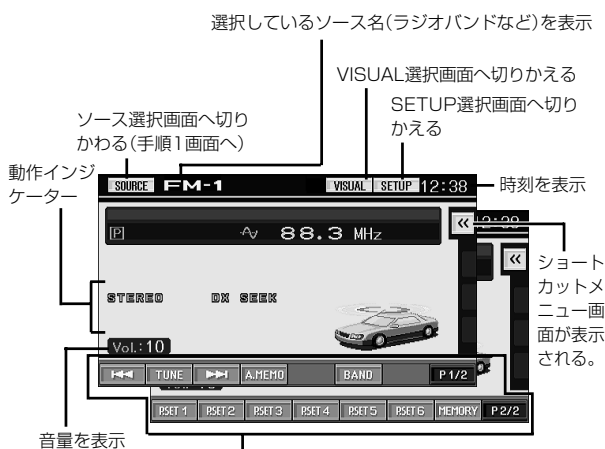
Memo

- 別売のAi-NET対応のDVDプレイヤーまたはDVDチェンジャーと接続した場合[AUX]は、[DVD]または[DVD CHG.]と表示します。
どちらも接続していないときは、「外部入力に表示名をつける」(36ページ)で表示名をつけた名称がソース名として表示されます。
- [OTHER SETUP]と[i-Personalize]の選択は、車を停止(パーキングブレーキを引いた状態)させてから行ってください。

2. [RADIO] にタッチする。

ラジオモードメイン画面に切りかわる。

<ラジオモードメイン画面表示例>



ファンクションガイド:

各ソースによって、ファンクションガイドの表示は異なります。[P1/2]*または[P1/3]*をタッチすると、ファンクションガイドの内容が切りかわり、さらに多くの操作が可能になります。

* 接続する製品によって表示が異なる場合があります。

3. 他のソースに移るときはメインソース画面の[SOURCE]にタッチする。

- VISUAL選択画面に移るときは、[VISUAL]にタッチする。
「VISUALタッチスイッチの設定」(36ページ)を「VISUAL」に設定してください。
- SETUP選択画面に移るときは、[SETUP]をタッチする。

映像モードのとき、各操作から5秒経過すると、映像のみの画面に切りかわります。ソース選択画面を表示させるには、モニター(メインディスプレイ)パネルにタッチし、表示された[CONTROL]にタッチします。切りかわったメインソース画面の[SOURCE]にタッチすると、ソース選択画面に切りかわります。



<ショートカット画面表示例>

[>>]をタッチすると、ショートカットメニュー画面は閉じる。



このエリアにタッチすると、ショートカットメニュー画面は閉じる。

各モードをタッチすると各セッ
トアップ画面が表示される。

<セッアップ画面表示例>

[>>]をタッチすると、ショートカットメニュー画面は閉じる。



操作キーをタッチして
お好みで設定する。

このエリアにタッチすると、ショート
カットメニュー画面は閉じる。

別なモードにタッチす
ると、タッチしたモード
のセッアップ画面
に切りかわる。

ショートカット画面

各メインソース画面にMedia Xpander、Bass MAX EQ、Visual EQやDOLBY PLIIのセッアップがショートカット画面に表示され、ダイレクトに設定することができます。

1. メインソース画面右端の[<<]にタッチする。

ショートカットメニュー画面が表示される(DEFEAT ON時には表示されない(25ページ参照)。但し、Visual EQはDEFEAT ON/OFFに関係なく表示される。)
設定したいメニューにタッチする。

MX (Media Xpander):

(39ページ参照) 現在表示されている音声ソースのMXモードが設定できる。

Bass Max EQ: お好みのモードが設定できる。(外
(40ページ参照) 部オーディオプロセッサ接続時は、本機能の設定はできません。オーディオプロセッサ側で設定を行ってください。)

Visual EQ: 映像ソースモード時に設定できる。
(45ページ参照)

DOLBY PLII: 外部オーディオプロセッサ接続時
(58ページ参照) に表示される。

10キー入力画面表示

DVDモード時のタイトル、チャプターなどの頭出しや、DVDセッアップ項目の暗証番号入力などで使う場合に、10キー入力画面が表示されます。

1. 各メインソース画面の[10KEY]にタッチする。

2. 希望の数字にタッチする。

<10キー入力画面表示例>

10キー入力画面表示中でもこのエ
リアの操作キーは受け付けます。



10キー入力画面表示中にこの
エリアにタッチすると10キー
入力画面は閉じる。

10キーパレット
入力画面は閉じる。

入力表示スペース
10キー入力画
面を閉じる
入力中の番号を
全消去する
1つ前の番号を
消去する
入力した番号を設
定する

3. [ENT]にタッチして設定する。

< CD メイン画面表示例 >



- ① [SOURCE]スイッチ：12ページ参照
 ② [VISUAL] スイッチ：VISUAL選択画面を表示します。
 ③ [SETUP] スイッチ：SETUP選択画面を表示します。
 ④ [◀]スイッチ：13ページ参照
 ⑤ [▶]スイッチ：25ページ参照
 A 上段にトラックテキスト*1を表示します。
 下段には、ディスクテキスト*1を表示します。
 B ディスクNo.*2/トラックNo./演奏経過時間を表示します。
 *1：CDテキスト対応ディスク再生時
 *2：CDチェンジャー接続時のみ

CD 操作

CD (ディスク) を聴く

- 1 ラベル面を上にしてディスクを挿入する。
 演奏が始まる。



- CDを再生するときは、ソース選択画面で[DVD PLAYER]にタッチすると、DVD PLAYERモードになり、演奏が始まります。
- 当社のCDチェンジャーを接続した場合、本機から操作することができます。(CDチェンジャーを使っているディスクの選びかたは62ページに記載しています。)
- シングルCD(8cm CD)はそのまま使用できますので、アダプター無しで挿入してください。
- ディスクによっては、演奏が始まるまで時間がかかる場合があります。

- 2 「ロータリーエンコーダー」を回して、音量(0~35)を調整する。
- 3 [◀◀] または [▶▶] にタッチして、聞きたい曲を選ぶ。
- 演奏中の曲の頭出し [◀◀] にタッチする。
 - 早戻し [◀◀] にタッチし続ける。
 - 次の曲の頭出し [▶▶] にタッチする。
 - 早送り [▶▶] にタッチし続ける。
- 4 演奏を一時中止するには [▶/||] にタッチする。
 再度 [▶/||] にタッチすると、演奏が開始する。
- 5 ディスクを取り出すときは、「▲」を押す。
 ディスクは必ず取り出す。



- 「▲」を押して、ディスクを取り出さないまま、約15秒経過するとディスクは自動的に本機に挿入されます。この場合、一時停止状態になるので、[▶/||]にタッチして演奏を開始してください。

曲順を変えて聴く M.I.X. (ミックス)

曲を順不同に演奏させることができます。

- 1 [∞] にタッチして、< M.I.X. インジケーター > を点灯させる。
 順不同に曲を演奏する。



(*M.I.X. ALL対応チェンジャーモード時)

- 2 解除するには、再度 [∞] にタッチする。



- チェンジャー接続時
 - ・ 「M.I.X.」を指定すれば、ディスクの曲を順不同に全曲演奏し、次のディスクへと移動していきます。
 - ・ 「M.I.X. ALL」を指定すれば、1曲ずつディスクをかえながら演奏します。(M.I.X. ALL 対応チェンジャーのみ)
- M.I.X.演奏中に、1曲リピートはできません。

繰り返し聴く REPEAT (リピート)

気に入った曲や覚えたい曲を繰り返し演奏させることができます。

- 1 演奏中に、[↺] にタッチして、< RPT インジケーター > を点灯させる。
 選んだ曲を繰り返し演奏する。

<モニター (メインディスプレイ) 表示>



(*チェンジャーモード時)

- 2 解除するときは、再度 [↺] にタッチする。



- チェンジャー接続時
 - 「RPT DISC」を指定すれば、そのディスクを繰り返し演奏させることができます。
- M.I.X.演奏中に、1曲リピートはできません。

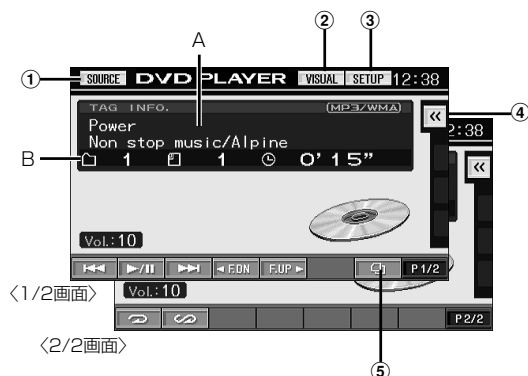
- [◻] にタッチすると、サーチモードになります。操作については、「サーチ機能」(25ページ)をご覧ください。但し、CD/MDチェンジャーモード時には、サーチモード機能はありません。
- テキストとは、あらかじめCDに入力されている文字の表示ができることを言います。



マークがついているものにはテキストが入っています。
 文字を正確に表示できない場合もあります。



< MP3/WMA 画面表示例 >



- ① [SOURCE] スイッチ：12ページ参照
 ② [VISUAL] スイッチ：VISUAL選択画面を表示します。
 ③ [SETUP] スイッチ：SETUP選択画面を表示します。
 ④ [◀] スイッチ：13ページ参照
 ⑤ [▶] スイッチ：25ページ参照
- A 上段にファイル名を表示後、ID3タグ情報があれば曲名を表示します。
 下段には、フォルダ名表示後、ID3タグ情報があればアルバム名／アーティスト名が表示されます。
 B ディスクNo.*1／フォルダNo.／ファイルNo.／演奏経過時間を表示します。
 *1：MP3対応CDチェンジャー接続時のみ

MP3/WMA 操作

MP3/WMA を聴く

本機で再生できるMP3/WMAは、本機対応のフォーマットで記録されたディスクのみです。詳しくは、「MP3/WMAについて」(86～87ページ)を参照してください。なお、WMA形式のDRM(著作権保護機能Digital Rights Management)システムのWMAファイルは、本機では再生できません。

1 MP3/WMAファイルが収録されたディスクをラベル面を上にして挿入する。

MP3/WMA ファイルを検索し、演奏が始まる。

MP3/WMAのディスクは、演奏が始まるまで時間がかかる場合があります。



- MP3/WMAを再生するときは、ソース選択画面で[DVD PLAYER]にタッチすると、DVD PLAYERモードになり演奏が始まります。

2 「ロータリーエンコーダー」を回転させて、音量(0～35)を調整する。

3 [◀◀] または [▶▶] にタッチして、聴きたい曲(ファイル)を選ぶ。

- 演奏中の曲の頭出し [◀◀] にタッチする。
- 早戻し [◀◀] にタッチし続ける。
- 次の曲の頭出し [▶▶] にタッチする。
- 早送り [▶▶] にタッチし続ける。

4 演奏を一時停止するときは、[▶/||] にタッチする。
再度 [▶/||] にタッチすると、演奏が再開する。5 ディスクを取り出すときは、「▲」を押す。
ディスクは必ず取り出す。

- 「▲」を押して、ディスクを取り出さないまま、約15秒経過するとディスクは自動的に本機に挿入されます。この場合、一時停止状態になるので、[▶/||]にタッチして演奏を開始してください。
- 本機でMP3/WMA再生時は、モニター(メインディスプレイ)右上に「MP3/WMA」と表示します。
- 本機はCDオーディオデータとMP3/WMAデータが混在するディスクでも再生が可能です。
- CDオーディオデータ再生時のトラック表示はディスクに記憶されているトラック番号になります。
- 作成したライティングソフト／MP3変換ソフトによっては、再生できない場合があります。その際は他のソフトでお試してください。
- 「MP3/WMA再生データの設定」は34ページに記載しています。
- VBR(Variable Bit Rate)で記録されたファイルを再生したとき、正確な再生時間を表示できない場合があります。

フォルダを選択する

1 [◀F. DN] または [F. UP▶] にタッチして、前後のフォルダを選ぶ。

曲順を変えて聴く M.I.X. (ミックス)

曲を順不同に演奏させることができます。

1 [P1/2]* にタッチする。

ファンクションガイドが切りかわる。

* 接続する製品によって表示が異なる場合があります。

2 [∞] にタッチして、< M.I.X. インジケーター >を点灯させる。

順不同に曲を演奏する。

<モニター(メインディスプレイ)表示>



M.I.X. FLDR：フォルダ内のみを対象に順不同に演奏する。

M.I.X.：ディスク内の曲を順不同に演奏する。チェンジャーモード時はディスク内の曲を順不同に全曲演奏し、次のディスクへと移動していく。

3 解除するには、再度 [∞] にタッチする。

繰り返し聴く REPEAT (リピート)

気に入った曲や覚えたい曲を繰り返し演奏させることができます。

1 [P1/2]* にタッチする。

ファンクションガイドが切りかわる。

* 接続する製品によって表示が異なる場合があります。

2 演奏中に、[] にタッチして、<RPT インジケーター>を点灯させる。

選んだ曲を繰り返し演奏する。

<モニター (メインディスプレイ) 表示>



(*チェンジャーモード時)

RPT: 1 曲のみを繰り返し演奏する。

RPT FLDR: フォルダ内の曲のみを対象に繰り返し演奏する。

RPT DISC: そのディスクを繰り返し演奏する。

3 解除するときは、再度 [] にタッチする。

- [] にタッチすると、サーチモードになります。
操作については、「サーチ機能」(25ページ)をご覧ください。



< DVD メイン画面表示例 >



<2/2画面>

- ① [SOURCE]スイッチ：12ページ参照
 - ② [VISUAL] スイッチ：VISUAL選択画面を表示します。
 - ③ [SETUP] スイッチ：SETUP選択画面を表示します。
 - ④ [◀]スイッチ：13ページ参照
 - A 再生しているディスク(DVD VIDEOまたはVIDEO CD)を表示します。
 - B DVDはタイトルNo./チャプターNo./チャプター再生時間を表示します。ビデオCDはPBC OFF時にトラックNo./トラック再生時間を表示します。
- ・ ディスクや再生画面によっては、操作できない場合があります。

DVD / ビデオ CD 操作

● プレイポジションメモリ機能:

再生中に電源またはイグニッションキーをOFFにしたり、ソースを切りかえても次に電源をONすると続きから再生します。

DVD/ ビデオ CD を再生する



- 注意**
- DVDの場合、ディスクによって各種操作を禁止しているものもあり、これらのディスクでは操作を受け付けられない場合もあります。
 - ディスクによっては本書で説明している操作とは異なる場合があります。ディスクの説明書もあわせてご覧ください。
 - ディスクに指紋が付くと再生しない場合があります。再生しない場合は、ディスクを取り出し、きれいにふき取ってからご使用ください。
 - 再生中に電源またはイグニッションキーをOFFにしたり、ソースを切りかえたりしても、次に電源をONすると続きから再生します。ディスクを切りかえた場合はプレイポジションメモリは解除されます。
 - ディスクまたは再生状態によっては、その操作を受け付けられない場合があります。その時はモニター画面に⊙マークを表示します。
 - ナビゲーション用の地図ディスクは、絶対に挿入しないでください。故障の原因になります。

- 1 文字やイラストが書いてある面を上にしてディスクを挿入する。
再生が始まる。

- 2 ディスクを取り出すときは、「▲」を押す。
ディスクは必ず取り出す。

DVD/ビデオCDモードのとき、各操作から5秒経過すると、操作画面からDVD/ビデオCD画面に切りかわります。再度、操作画面を表示させるには、モニター(メインディスプレイ)パネルにタッチしてください。



- 両面ディスクのDVDは、自動でウラ面を再生しません。ディスクを取り出しウラ返しに入れ直してください。
- 別売のDVD/ビデオCD/CDプレイヤーまたは、DVDチェンジャー製品と接続した場合、本機から操作ができます(一部操作除く)。また、ファンクションガイドの[P1/2]などの表示は、接続する製品によって異なる場合があります。
- 「DVDセットアップ」項目(29～32ページ)もあわせてご覧ください。
- DVDチェンジャーまたはDVDプレイヤーと組み合わせたときには、本機側のリモート出力コードと組み合わせる側のリモート入力コードを必ず接続してください。接続しないと正常にタッチ操作ができません。
- 別売のAi-NET対応DVDプレイヤーを接続した場合のソース名は、「外部入力に表示名をつける」(36ページ)で、「EXT.DVD」を選択すると、ソース選択画面上に「EXT.DVD」と表示されます。
- ビデオCD再生時に、1つ前の画面に戻るときは、ファンクションガイドの[P1/2]にタッチ後、「◀」にタッチする。但し、ディスクによっては異なる動作になります。
- 「▲」を押して、ディスクを取り出さないまま、約15秒経過するとディスクは自動的に本機に挿入されます。この場合、停止状態になるので、「▶/II」にタッチすると再生が始まります。
- 「PICTURE OFF FOR YOUR SAFETY」とメッセージが表示されたら、車を停止(パーキングブレーキを引いた状態)させてから、DVDなどの映像を楽しんだり、操作を行ってください。

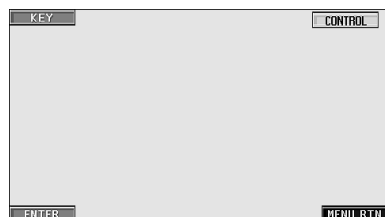
メニュー画面が表示されたら

DVDやプレイバックコントロール(PBC)付きビデオCDでは、自動的にメニュー画面が表示される場合があります。この時は次の操作を行い再生させてください。

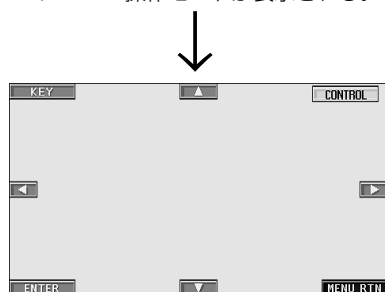
① ダイレクトメニュー操作 (DVDのみ)

DVDメニュー項目に直接タッチする。
・ ディスクによっては操作できない場合があります。

② メニュー操作 (DVDのみ)



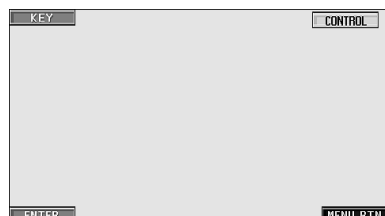
1. [KEY]にタッチする。
メニュー操作モードが表示される。



[MENU RTN]にタッチすると1つ前の表示に戻る。

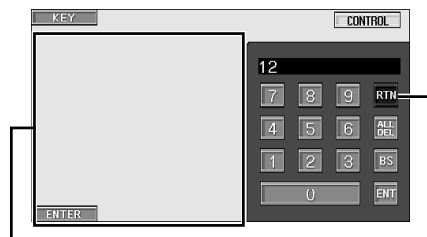
2. [▲]、[▼]、[◀]、[▶]にタッチして、メニュー項目を選ぶ。
3. [ENTER]にタッチして選んだ項目を決定する。

③ 10キー入力操作 (DVD)



[MENU RTN]にタッチすると1つ前の表示に戻る。

1. [KEY]にタッチする。
メニュー操作モードが表示される。
2. 再度[KEY]にタッチする。
10キー入力モード画面が表示される。



10キー入力画面表示中にこのエリアにタッチすると10キー入力画面は閉じる。

[RTN]にタッチすると10キー入力画面は閉じる。

3. 希望の数字にタッチして入力する。
4. 10キー入力モードの[ENT]にタッチして決定する。

③ 10キー入力操作 (ビデオCD)

PBCがOFFになっている場合は、メニュー画面は表示されません。その場合はPBCをONにしてください。([PBC機能のON/OFF設定] (19ページ) 参照)

1. ビデオCDモード時、[P1/2]にタッチする。
ファンクションガイドが切りかわる。
2. [10KEY]にタッチする。
10キー入力画面が表示される。
3. 希望の数字にタッチして入力する。
4. [ENT]にタッチして決定する。

トップメニュー画面を表示する (DVDのみ)

複数のタイトルを持つDVDビデオでは、トップメニュー画面が表示されます。

- 1 DVDモードメイン画面上の[TOP MENU]にタッチする。
トップメニュー画面が表示される。
→ 「メニュー画面が表示されたら」(同ページ)を参照して操作を行う。

メニュー画面を表示する (DVDのみ)

複数のメニューを持つDVDでは、本編以外にチャプターリストや特典映像が選択できるメニュー画面が表示されます。

- 1 DVDモードメイン画面上の[MENU]にタッチする。
メニュー画面が表示される。
→ 「メニュー画面が表示されたら」(同ページ)を参照して操作を行う。

メニュー操作モード画面を表示する (DVD のみ)

- 1 DVD モードメイン画面上の[P1/2]にタッチする。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 2 [MENU CONT]にタッチする。
メニュー操作モード画面に切りかわる。
→ 各操作については、「メニュー画面が表示されたら
(18 ページ) を参照。

PBC 機能の ON/OFF 設定 (ビデオ CD のみ)

PBC (プレイバックコントロール) 付きビデオ CD の ON/OFF 設定の切りかえをします。

- 1 ビデオ CD モードメイン画面上の[PBC]にタッチする。
タッチするたびに ON/OFF 設定が切りかわる。

再生中止 (PRE STOP)

再生中に停止ボタンを押すと止まり、その位置を記憶します。

- 1 再生中に [■] をタッチする。
「PRE STOP」と表示される。
- 2 PRE STOP 中に [▶/II] をタッチする。
再生中止した位置から再生される。



- ディスクによってはPRE STOPしたとき、再生中止位置を正しく記憶できない場合があります。

再生停止

- 1 再生中に [■] を 2 回タッチする。または [■] を 2 秒以上タッチする。
「STOP」と表示される。



- 停止中に [▶/II] をタッチすると始めから再生されます。

早送り／早戻し

- 1 再生中に [◀◀] (早戻し) または [▶▶] (早送り) をタッチし続けると、2 倍速早送り／早戻しになり、さらにその状態で 5 秒以上タッチし続けると 8 倍速で早送り／早戻しができる。
- 2 通常再生に戻すには [◀◀] または [▶▶] から指をはなす。



- 早送り／早戻し中は音声出力されません。
- DVD 及びプレイバックコントロール(PBC)付きビデオ CD では早送り／早戻し中にメニュー画面に戻ることがあります。

チャプター／トラックの頭出し

- 1 再生中に [◀◀] または [▶▶] をタッチする。
タッチするたびにチャプター／トラックが切りかわる。
選んだチャプター／トラックの再生が始まる。
- ▶▶ 一つ後のチャプター／トラックの頭から再生。
◀◀ 現在のチャプター／トラックの頭から再生。



- DVD によっては、チャプターがないものもあります。
- PBC を OFF にしてから操作してください。
(「PBC 機能の ON/OFF 設定」(同ページ) 参照)

補足説明

チャプターとは、DVD に記憶されている映像や曲の区切り。
トラックとは、ビデオ CD や CD に記憶されている映像や曲の区切り (1 曲分)。

静止 (一時停止) する

- 1 再生中に [▶/II] をタッチする。
- 2 再度、再生するには [▶/II] をタッチする。



- 静止中は音声は再生されません。
- 一時静止画 (ポーズ) の状態から再生を開始すると画像や音声が一瞬止まる場合がありますが故障ではありません。

コマ送り／戻し再生

- 1 一時停止中に [▶▶] または [◀◀] をタッチする。
タッチするたびに1コマずつコマ送り／戻し再生する。
- 2 通常再生に戻すには [▶/II] をタッチする。



- コマ送り／戻し再生中は音声は再生されません。
- ビデオCDでは、コマ戻し再生はできません。

スローモーション再生

- 1 一時停止中に [▶▶] または [◀◀] をタッチし続けると、1/8倍速でスローモーション再生になる。さらにその状態で5秒タッチし続けると1/2倍速にスローモーションの速度がかわる。
- 2 [▶▶] または [◀◀] から指をはなすと一時停止になるので、[▶/II] をタッチして再生させる。



- スローモーション再生中は音声は再生されません。
- スライドショーを再生中はスロー再生はできません。
- 1/2倍速、1/8倍速はおおよその速さです。ディスクによっても異なります。
- ビデオCDでは、バックスローモーション再生はできません。

タイトル番号で頭出し (DVDのみ)

DVDに記憶されているタイトルから簡単に頭出しできます。

- 1 再生停止中に[P1/2]をタッチする。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 2 [10KEY]にタッチする。
10キー入力モード画面が表示される。
- 3 再生させたいタイトル番号にタッチして入力する。
→ 10キー入力操作については(18ページ)参照。
- 4 [ENT]にタッチして決定する。
選んだタイトル番号から再生が始まる。



- PRE STOPの状態ではチャプター/トラック番号の頭出しになります。
- タイトル番号が記憶されていないディスクでは頭出しはできません。

チャプター／トラック番号で直接頭出し

ディスクに記憶されているチャプター／トラックを簡単に頭出しできます。

- 1 再生停止時以外のときに、[P1/2]にタッチする。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 2 [10KEY]にタッチする。
10キー入力モード画面が表示される。
- 3 再生させたいチャプターまたはトラック番号にタッチして入力する。
→ 10キー入力操作については(18ページ)参照。
- 4 [ENT]にタッチして決定する。
選んだチャプターまたはトラックから再生が始まる。



- チャプターやトラックが記憶されていないディスクでは頭出しはできません。
- PBC(プレイバックコントロール)付きビデオCDでは、トラック番号の直接頭出しは使用できません。PBCをOFFにしてから操作してください。([PBC機能のON/OFF設定](19ページ)参照)

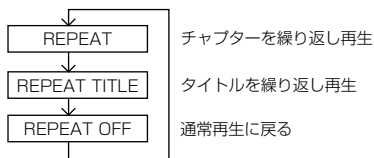
チャプター／トラック／タイトル リピート再生

ディスクのタイトルやチャプター、トラックを選び繰り返し再生できます。

DVD

- 1 再生中に[P1/2]をタッチする。
ファンクションガイドが切りかわる。

- 2 [↶] をタッチする。
タッチすることによりリピートの種類が変わる。
〈モニター（メインディスプレイ）表示〉



・接続する製品によって表示が異なる場合があります。

Memo ● [↶] に2秒以上タッチすると、強制的に REPEAT OFF になります。

ビデオ CD

- 1 再生中に[P1/2]をタッチする。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 2 再生中に [↶] をタッチする。
タッチすることによりリピートの種類が変わる。
〈モニター（メインディスプレイ）表示〉



・接続する製品によって表示が異なる場合があります。

*チェンジャーモード時のみ表示します。

Memo

- PBC (プレイバックコントロール) 付きビデオ CD ではトラックリピート／ディスクリピートは使用できません。
PBC を OFF にしてから行ってください。 (「PBC 機能の ON/OFF 設定」(19 ページ) 参照)
- ディスクによってはリピートの種類が切りかえられない場合があります。
- DVD チェンジャー/DVD プレイヤー接続時でのビデオ CD モードでは、手順 1 の操作は必要ありません。

音声言語切りかえ

複数の音声または音声言語が記録されている DVD では、再生中に音声言語を切りかえることができます。

- 1 再生中に[P1/2]にタッチする。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 2 [AUDIO] にタッチする。
タッチすることによりディスクに記録されている音声の切りかわる。

Memo

- 電源投入時／ディスク交換時は初期設定で設定されている言語になります。その言語がディスクにないときは、ディスクで決められている言語になります。
- ディスクによっては再生中の切りかえができない場合があります。そのときはディスクメニューから音声を選んでください。
- 音声変更まで多少時間がかかる場合があります。

- 多重音声記録されているビデオ CD

- 1 再生中に[P1/2]にタッチする。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 2 [AUDIO] にタッチする。
タッチすることにより L チャンネル、R チャンネル音声の組み合わせが変わる。
〈モニター（メインディスプレイ）表示〉

→ AUDIO L/R → AUDIO L/L → AUDIO R/R

アングル切りかえ (DVD のみ)

複数のアングルで撮影された映像が記録されている DVD では、再生中にアングル (角度) を切りかえることができます。

- 1 再生中に[P1/2]をタッチする。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 2 [ANGLE] にタッチする。
タッチすることによりディスクに記録されているアングルが切りかわる。

Memo

- アングル変更までに多少時間がかかる場合があります。
- ディスクによって異なりますがアングル切りかえには2種類あります。
 - ・シームレス: つぎめなくスムーズにアングルが切りかわる。
 - ・ノンシームレス: アングル切りかえ時、一瞬静止画となりその後アングルが切りかわる。

サブタイトル（字幕言語）切りかえ （DVD のみ）

複数の字幕言語が記録されているDVDでは、再生中に字幕言語の切りかえや非表示にすることができます。

1 再生中に[P1/2]をタッチする。

ファンクションガイドが切りかわる。

2 [SUBT.]にタッチする。

タッチすることによりディスクに記録されている字幕言語が切りかわる。また字幕を OFF にする。



Memo

- 字幕言語変更までに多少時間がかかる場合があります。
- ディスクによっては再生中の切りかえができない場合があります。そのときはディスクメニューから選んでください。
- 電源投入時／ディスク交換時は初期設定で設定されている言語になります。その言語がディスクにないときは、ディスクで決められている言語になります。但し、ディスクによっては、異なる場合があります。
- ディスクによってはOFFに設定しても、サブタイトルが表示される場合があります。但し、ディスクによっては、異なる場合があります。

● ディスクメニューからの切りかえ
ディスクによって異なりますが、音声言語、アングル、サブタイトルをディスクメニューから切りかえることができます。

1 [MENU]または[TOP MENU]にタッチして、メニューを表示させる。

2 項目を選び、設定する。
（「メニュー画面が表示されたら」（18ページ）参照）

● [WIDE]にタッチすると、表示モードが切りかわります。操作については「表示モードを切りかえる」（27ページ）をご覧ください。



DVD/ビデオ CD の使用状態を表示 する

再生中のDVDビデオディスクの状態（タイトル番号、チャプター番号など）または再生中のビデオCDの状態（トラック番号など）を画面に表示して確認することができます。

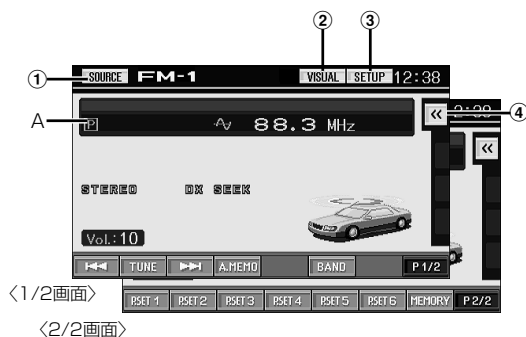
1 再生中に、画面にタッチする。

操作メニュー画面が表示される。

2 5秒以内に[CONTROL]にタッチする。

5秒間、再生状態が表示される。

<ラジオメイン画面表示例>



- ① [SOURCE]スイッチ：12ページ参照
 ② [VISUAL] スイッチ：VISUAL選択画面を表示します。
 ③ [SETUP] スイッチ：SETUP選択画面を表示します。
 ④ [◀◀]スイッチ：13ページ参照
 A プリセットNo./周波数を表示します。

ラジオ操作

ラジオを聴く

- 1 メインソース画面上の[SOURCE]にタッチする。
ソース選択画面が表示される。
- 2 [RADIO]にタッチする。
ラジオモードメイン画面に切りかわる。
ラジオモードにするとアンテナが伸びる。(パワーアンテナ装着車のみ)
- 3 [BAND]にタッチして、バンドを選ぶ。
 → FM-1 → FM-2 → AM →
- 4 [TUNE]にタッチしてチューニングモードを選ぶ。
[TUNE]をタッチするごとに[◀◀]、[▶▶]表示がかわる。

◀◀	▶▶	DX SEEK (ディスタンスモード)
◀◀	▶▶	SEEK (ローカルモード)
◀◀	▶▶	(マニュアルモード)
- 5 [◀◀ (または ◀◀)], [▶▶ (または ▶▶)]にタッチして、聴きたい放送局 (周波数) をさがす。
また、タッチし続けると連続で変化します。



Memo

- 初期設定はディスタンスモードに設定されています。
 - ・ ディスタンスモードのとき
受信可能な放送局を自動的に受信します。(自動選局)
 - ・ ローカルモードのとき
電波の強い放送局だけを自動的に受信します。(自動選局)
 - ・ マニュアルモードのとき
1段階ずつ周波数がかわります。(手動選局)
- モニター(メインディスプレイ)に<STEREOインジケーター>が点灯しているときは、FMステレオ放送が受信されています。(AMステレオ放送は常にモノラルで受信します。)

自動的に放送局を記憶する

- 1 お好みのバンドを選択後、[A.MEMO]にタッチする。
電波の強い順に6つの放送局が自動的に受信されて*プリセットキー1[P.SET1]~6[P.SET6]に記憶される。記憶が終わるとプリセット1[P.SET1]に記憶されている放送局が受信される。
* [P1/2]にタッチして、ファンクションガイド表示を切りかえると、[P.SET1]~[P.SET6]が表示される。



Memo

- 放送局を1つも受信できなかったときは、操作の直前に受信していた放送局が受信されます。

放送局を記憶する

- 1 記憶させたい放送局を選んだあと、[P1/2]にタッチする。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 2 [MEMORY]にタッチする。
- 3 5秒以内に、プリセットキー[P.SET1]~[P.SET6]のいずれかにタッチする。
タッチしたプリセットキーに放送局が記憶される。



Memo

- 放送局は18局まで記憶できます。
FM1...6局、FM2...6局、AM...6局
- すでに記憶されているプリセットキーに記憶させると、後から記憶させた放送局が有効になります。

記憶した放送局を受信する

- 1 お好みのバンドを選択後、[P1/2]にタッチする。
ファンクションガイドの内容が切りかわる。
- 2 記憶させた放送局の[P.SET1]~[P.SET6]のいずれかにタッチする。
選択した放送局が受信される。

< TV メイン画面表示例 >



- ① [SOURCE]スイッチ：12ページ参照
 - ② [VISUAL] スイッチ：VISUAL選択画面を表示します。
 - ③ [SETUP] スイッチ：SETUP選択画面を表示します。
 - ④ [◀]スイッチ：13ページ参照
- A プリセットNo./チャンネルNo.を表示します。

TV 操作

自動的にチャンネルを記憶する

- 1 各メインソース画面上の[SOURCE]にタッチする。
ソース選択画面が表示される。
- 2 [TV]にタッチする。
TVモードメイン画面に切りかわる。
- 3 [A.MEMO]にタッチする。
電波の強いチャンネルを選択してプリセット1 [P.SET1]～6[P.SET6] に記憶される。オートメモリーが終わると、自動的に電波の強いチャンネルを受信する。



- 放送局を1つも受信できなかったときは、操作の直前に受信していた放送局が受信されます。
- 放送局は18局まで記憶できます。
TV1・・・6局、TV2・・・6局、TV3・・・6局

放送局を記憶する

- 1 記憶させたい放送局を選んだあと、[P1/2]にタッチする。
ファンクションガイドの内容が切りかわる。
- 2 [MEMORY]にタッチする。
- 3 5秒以内にプリセットキー[P.SET1]～[P.SET6]のいずれかにタッチする。
タッチしたプリセットキーに放送局が記憶される。

記憶した放送局を呼び出す

- 1 [P1/2]にタッチする。
ファンクションガイドの内容が切りかわる。
- 2 記憶させた放送局の[P.SET1]～[P.SET6]のいずれかにタッチする。
選択した放送局が受信される。

- [WIDE]にタッチすると、表示モードが切りかわります。操作については「表示モードを切りかえる」(27ページ)をご覧ください。



放送局を選ぶ

- 1 [BAND]にタッチしてバンドを選ぶ。
→ TV-1 → TV-2 → TV-3
 - 2 [TUNE]にタッチして、チューニングモードを選ぶ。
[TUNE]にタッチするごとに[◀◀]、[▶▶]表示がかわる。
◀◀ ▶▶ マニュアル
↕
◀◀ ▶▶ (SEEK)
- Memo**

 - SEEKモードのとき受信可能な放送局(チャンネル)を自動的に探します。
 - マニュアルモードのとき、1段階ずつチャンネルがかわります。
- 3 [◀◀ (または ◀◀)], [▶▶ (または ▶▶)]にタッチして、放送局を選ぶ。マニュアルモード時に タッチし続けると連続でチャンネルNo (1～62ch) が切りかわる。

- TVモードのとき、各操作から5秒経過すると、操作画面から、TV画面に切りかわります。再度、操作画面を表示させるには、モニター(メインディスプレイ)パネルにタッチしてください。



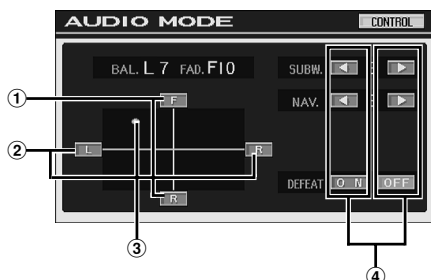
便利な機能

オーディオ調整

1 「ロータリーエンコーダー」を押す。

AUDIO モード画面に切りかわる。

＜AUDIO モード画面表示例＞



- ① [F]、[R]にタッチして前後のスピーカー音量を調整する。
- ② [L]、[R]にタッチして左右のスピーカー音量を調整する。
- ③ [O]にタッチしながら、お好みの設定値へ移動させる。
- ④ [◀]、[▶]または[ON]、[OFF]にタッチして、お好みで調整する。



- SETUP選択画面上の[AUDIO MODE]にタッチしても、AUDIOモード画面に切りかわることができます。
- [CONTROL]にタッチすると、メインソース画面に切りかわります。

バランス調整

[L] (左) または [R] (右) にタッチして、左右のスピーカー音量を調整する。

設定値：L15～R15

フェーダー調整

[F] (前) または [R] (後) にタッチして、前後のスピーカー音量を調整する。

設定値：F15～R15

サブウーハーレベル調整

SUBW. [◀] または [▶] にタッチして、サブウーハー出力の調整をする。

設定値：0～15



- 「サブウーハーのON/OFF」(44ページ)で0°または180°設定時にレベル調整ができます。

NAV. LEVEL 調整

NAV. [◀] または [▶] にタッチして、ナビゲーション割り込みの音量を調整する。

設定値：0～15



- 「ナビゲーション音声の割り込み設定」(35ページ)でNAV.MIXがON設定時にレベル調整ができます。
- 接続している外部オーディオプロセッサがNAV. MIX対応していない場合は、表示はされません。

DEFEAT のON/OFF

DEFEAT [ON] または [OFF] にタッチしてON/OFF 設定をする。

ONに設定するとMXをOFF、EQを初期値に戻す。

バランス / フェーダーをダイレクトに調整する

[O] にタッチしながらお好みの設定値へ移動させる。

または、お好みの設定範囲値へタッチすると、[O] がそのタッチした場所へ移動する。

微調整はバランス[L]、[R]またはフェーダー[F]、[R]にタッチして設定する。

道路交通情報を受信する

TRF (トラフィックインフォメーション)

1 各メインソース画面上の[SETUP]にタッチする。

SETUP 選択画面が表示される。

2 [TRF]にタッチする。

TRF メイン画面になり、AM 放送の 1620kHz、または 1629kHz の交通情報を受信する。

3 [1620kHz] または [1629kHz] にタッチして、1620kHz/1629kHz を切りかえる。

4 [CONTROL]にタッチする。

TRF 操作前のメインソース画面に戻る。



- CD、チェンジャー、ラジオなどのいずれかを聴いていても、交通情報を受信できます。

サーチ機能

1 CDまたはMP3/WMAモード時に、ファンクションガイド上の [□] にタッチする。

サーチリスト画面が表示される。

お好みのトラックまたはフォルダを選ぶ。

- ・ ダイレクト再生する場合は [▶] にタッチする。
- ・ 階層リストがある場合は、[>>] が表示される。[>>] にタッチすると各階層リスト画面に切りかわる。

(次ページへつづく)

<サーチ画面表示例>

「▲」、「▼」にタッチすると、リストを一行ずつスクロールする。

階層リストがある場合は「>>」が表示される。



「RETURN」にタッチすると1つ前のリスト画面に戻る。

「▶」にタッチするとダイレクト選択となり、そのトラック/フォルダ/ファイルが再生される。

スライドスイッチを上下方向にタッチしながら移動させると、前方向/後方向へリストがスクロールします。



- DVD、ビデオCD、CD/MDチェンジャーでは、サーチ機能はありません。
- DVDプレーヤー(DVA-5210)、MP3対応チェンジャー接続時には、MP3/WMA再生時のみフォルダリストを表示します。

内蔵 CD モード

1. **トラックテキストリスト*** 画面に切りかわる。
*CD テキスト対応ディスクの場合のみ。
2. **お好みのトラックテキスト*** の「▶」にタッチする。
選んだトラックが再生される。
*CD テキスト対応ディスクの場合のみ。



- CDにテキストがない場合は、トラックテキストリストに「TRACK」と表示します。

内蔵 MP3/WMA / 外部 MP3 対応 DVD プレーヤー / チェンジャーモード

1. **フォルダリスト画面**に切りかわる。
お好みのフォルダ名を選び、「>>」にタッチする。(選択したフォルダにファイルがある場合のみ「>>」が表示される。)
ファイルリスト画面が表示される。
・フォルダをダイレクトに再生する場合は「▶」にタッチする。
2. **お好みのファイル名の「▶」**にタッチする。
選んだファイルが再生される。

リアエンター機能

リアエンター機能を設定すると、車室内のフロント席とリア席で、それぞれ独立した空間をつくり出すことができます。たとえば、フロント席でラジオなどのオーディオソースを聴きながら、リア席では別売リアモニターの使用でDVDなどを楽しむことができます。

- 1 各メインソース画面上の[SETUP]にタッチする。
SETUP 選択画面が表示される。

- 2 [REAR SELECT]にタッチする。
REAR 選択画面に切りかわる。



- SYSTEMセットアップのMONITOR OUTの設定がOFFの場合は、この機能は使用できません。

- 3 希望の映像系ソース（外部入力または内蔵 DVD など）にタッチする。



- [OFF]にタッチするとリアエンター機能は解除されます。
- 「AUXモードを設定する」(35ページ)のAUX IN設定がOFFの場合は、外部入力のソースは表示されません。

リモコン受光部を切りかえるには

別売リモコンから操作をするときに拡張ユニット(外部モニターなど)のリモコン受光部をお好みで切りかえることができます。

- 4 [FRONT]、[REAR]のいずれかにタッチする。
リモコン操作を優先するモニターが切りかわる。

FRONT: 本機のリモコン受光部を優先させる。

REAR: 本機チューナーBOXのAUX OUTに接続した外部モニターのリモコン受光部が有効となり、ここで選んだソースに対してのみリモコン操作ができます。



- リアモニター用に当社のタッチパネルリアモニター製品を接続(モニターコントロールコードを接続)し、タッチ操作した場合には、リモコン受光部の切りかえ設定にかかわらずタッチパネルリアモニターの受光部が優先します。但し、最後の操作から約5秒経過すると、設定していたリモコン受光部優先に戻ります。
- 別売DVDチェンジャーやDVDプレーヤー接続時にREAR側にリモコン受光部が設定している場合は、タッチスイッチの一部(「■」STOPなど)が操作できなくなります。この場合は、リモコン受光部をFRONTに切りかえてください。

音声はそのまま映像ソースのみを切りかえる (サイマル機能)

音声ソースをそのまま、見たい映像だけを切りかえることができます。

- 1 音声ソース画面上の[VISUAL]にタッチする。
VISUAL 選択画面に切りかわる。

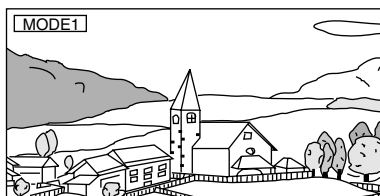
- 2 お好みの映像ソースにタッチする。
選んだ映像ソースに切りかわる。

サイマル機能を解除するには

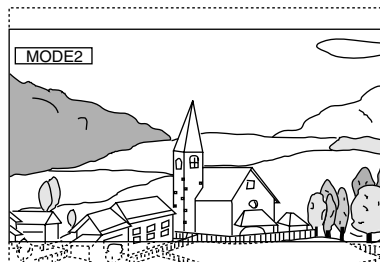
1. 映像画面にタッチする。
2. [CONTROL]にタッチする。
3. 5秒以内に[VISUAL]にタッチする。
VISUAL 選択画面に切りかわる。
4. [NORMAL]にタッチする。
サイマル機能は解除される。



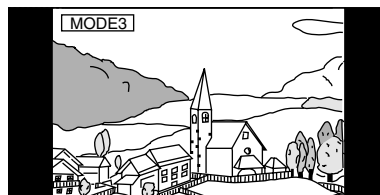
- 本設定をするには「VISUALタッチスイッチの設定」(36ページ)を「VISUAL」に設定してください。
- AUXに別売のDVDビデオプレイヤーを接続している場合は、サイマル機能でDVD映像／音声を呼び出すことができます。但し、DVA-5200を接続している場合は、呼び出すことができません。
DVA-5205Jまたは、DHA-S680を接続している場合は、DVA-5205JまたはDHA-S680付属リモコンのV.OUTスイッチを2秒以上押すと、DVD映像／音声が呼び出せます。また、DVA-5210を接続している場合は、付属リモコンのV.OUTを押すと、DVD映像／音声が呼び出せます。
- 音声ソースがナビゲーションモードの時はサイマル機能は使用できません。また、「VISUALタッチスイッチの設定」(36ページ)でNAV.設定時のときは、ナビゲーション画面の呼び出ししかできません。



ノーマル映像を水平方向に均等に広げ、画面いっぱいに表示します。



ノーマル映像を水平・垂直両方向に拡大します。16:9のシネマサイズの映像に適しています。



通常のテレビ放送 (4:3) の映像は中央に映ります。(ノーマル映像)



- 映像ソースモード時、本体の「BAND」を押すたびに表示モードを切りかえることができます。

バックライトを OFF にする (BLACK OUT 機能)

モニター(メインディスプレイ)表示部のバックライトを消灯することで、よりよい高音質を実現させることができます。

- 1 各メインソース画面上の[VISUAL]にタッチする。
VISUAL 選択画面が表示される。

- 2 [OFF]にタッチする。
モニター(メインディスプレイ)表示部のバックライトが消える。

- 3 解除するには、再度[OFF]にタッチする。

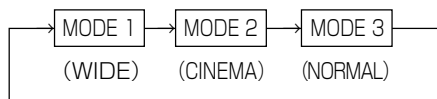


- 本設定をするには「VISUALタッチスイッチの設定」(36ページ)を「VISUAL」に設定してください。
- バックライトが消灯しているときに他のスイッチ操作を行った場合、表示部のバックライトを5秒間だけ点灯させ、再び消灯させます。

表示モードを切りかえる

この操作は停車中に行ってください。

- 1 DVD、ビデオCD、TV、AUXモード時、各モードメイン画面上の[WIDE]にタッチする。
タッチするたびに表示モードが切りかわる。



モニター（メインディスプレイ）機能設定

モニター（メインディスプレイ）設定

次の手順 1～4 は、MONITOR 設定機能の共通操作になります。設定機能項目の詳細は、それぞれの設定項目を参照してください。

- 1 各ソースメイン画面上の【SETUP】にタッチする。
SETUP 選択画面が表示される。
- 2 【MONITOR】にタッチする。
MONITOR 設定画面に切りかわる。
- 3 お好みの設定項目の[◀]または[▶]にタッチして、設定を切りかえる。
設定項目：
TILT / SLIDE / MONITOR O/C (OPEN/CLOSE)
- 4 【RETURN】にタッチすると、1 つ前の画面に戻る。
【CONTROL】にタッチすると設定操作前のメインソース画面に戻る。

モニター（メインディスプレイ）の角度調整

ディスプレイを見やすい角度（約 40～105 度の間）に調整することができます。

設定項目： TILT

設定値： 10 段階で調整できます。



Memo

- 角度調整の際に障害物にあたったときは、障害物を取り除いてください。
- 液晶ディスプレイは、斜め方向から見ると画面が白っぽく見えたり、黒っぽく見えたりします。見やすい角度に調整してください。
- 車のバッテリー電圧が低い場合、視野角度を調整すると画面がちらつくことがあります。故障ではありません。

モニター（メインディスプレイ）前後方向の調整

設定項目： SLIDE

設定値： BACK/FRONT

BACK： 後方にスライドする。

FRONT： 前方にスライドする。



Memo

- 手で無理にモニター（メインディスプレイ）を引っ張ったり、押し戻したりして、位置がずれてしまった場合には、モニター（メインディスプレイ）前後方向の調整や角度調整ができなくなります。その際は、「OPEN/CLOSE」を押してモニター（メインディスプレイ）を収納してから、再度、モニター（メインディスプレイ）を立ち上げてください。

エンジンキー連動でモニター（メインディスプレイ）の自動開閉を行う

設定項目： MONITOR O/C (OPEN/CLOSE)

設定値： MANUAL/FULL/CLOSE

MANUAL: 本体の「OPEN/CLOSE」を押して、モニター（メインディスプレイ）の開閉を行います。

FULL: イグニッションキー（エンジンキー）の ACC ON または OFF にすることで、モニター（メインディスプレイ）開閉を自動的に行う。

CLOSE: イグニッションキー（エンジンキー）を OFF にすると、モニター（メインディスプレイ）は自動的に閉まる。

セットアップ操作

DVD セットアップ

次の手順1～5は、DVD セットアップの共通操作になります。セットアップ項目の詳細は、それぞれの設定項目を参照してください。

DVD セットアップの操作をするには、ディスク再生を停止 (STOP) 状態にするか、または本機からディスクを取り出してから行ってください。

- 1 各メインソース画面上の [SETUP] にタッチする。
SETUP 選択画面が表示される。
- 2 [OTHER SETUP] にタッチする。
OTHER SETUP 画面に切りかわる。
- 3 DVD SETUP の [≫] にタッチする。
DVD セットアップ画面に切りかわる。
- 4 お好みの設定項目の [◀] または [▶] などにタッチして設定をかえる。
設定項目：
MENU LANGUAGE / AUDIO LANGUAGE /
SUBT. LANGUAGE / COUNTRY CODE /
PARENTAL / DIGITAL OUT MODE /
DOWNMIX MODE / TV SCREEN

<DVD セットアップ画面表示例>

スライドスイッチを上下方向にタッチしながら移動させると、前方向/後方向ヘリストがスクロールします。

[◀]、[▶] にタッチしてお好みの言語に設定する。



[▲]、[▼] にタッチすると、設定項目のリストを一行ずつスクロールする。

[CODE] にタッチすると、10キー入力画面が表示される。



10キー入力画面

表示されている以外の言語を再生させたい場合、またはパレンタルロックのパスワード入力などにもキー入力する。

10キー入力画面表示中にこのエリアにタッチすると10キー入力画面は閉じる。

- 5 [RETURN] にタッチすると、1つ前の画面に戻る。
[CONTROL] にタッチすると、セットアップ操作前のメインソース画面に戻る。

- DVDセットアップモード時(システムが自動的に書き込みをしているときは、イグニッションキー(エンジンキー)をOFFにしないでください。
イグニッションキー(エンジンキー)をOFFにすると、設定が変更されない場合があります。



言語設定を変更する

音声言語、字幕言語、メニュー言語をお好みに合わせ設定することができます。

設定された言語は固定され、常時日本語で聴きたい場合に便利です。(ディスクによっては、設定した言語にならない場合があります。その場合は、そのディスクの優先言語になります。)

Memo

- 変更された設定内容は書き換えられます。変更する前に現在の設定内容をメモして保管してください。設定内容は車のバッテリー電源をはずすと消去されます。
- 一時的に今観ているディスクの言語をかえたい場合は、DVDメニューからかえるか、または「音声言語切りかえ」(21ページ)でかえることができます。
- 選んだ言語がディスクにないときは、ディスクで決められた言語になります。

メニュー言語の設定

タイトルメニューなどのメニュー言語が設定できます。

設定項目： MENU LANGUAGE

設定値： AUTO / ENGLISH / GERMAN /
FRENCH / JAPANESE

「AUTO」を選ぶとディスクに記録されている最優先のメニュー言語が再生される。

音声言語の設定

スピーカーから出力される音声言語が設定できます。

設定項目： AUDIO LANGUAGE

設定値： AUTO / ENGLISH / GERMAN /
FRENCH / JAPANESE

「AUTO」を選ぶとディスクに記録されている最優先の音声言語が再生される。

セットアップ操作

字幕言語の設定

画面に表示される字幕言語が設定できます。

設定項目： SUBT. LANGUAGE

設定値： AUTO / ENGLISH / GERMAN /
FRENCH / JAPANESE

「AUTO」を選ぶとディスクに記録されている最優先の字幕言語が再生される。

[表示されている以外の言語を再生したい場合]

1. [CODE] にタッチする。
10 キー入力画面が表示される。
2. 言語番号の4桁の数字にタッチする。
言語番号は、「言語コード表」を(84 ページ) 参照。
3. [ENT] にタッチして、言語番号を記憶する。

カントリーコード設定を変更する

視聴規制(パレンタルロック)を設定するときの、設定したい規制レベルの国番号を設定します。

設定項目： COUNTRY CODE

設定値： CODE



● 変更された設定内容は書き換えられます。変更する前に現在の設定内容をメモして保管してください。設定内容は車のバッテリー電源をはずしても記憶しています。

1. [CODE] にタッチする。
(変更する場合には、[ALL DEL]または[BS]にタッチして、表示されている国番号を消去する。)
2. 国番号の4桁の数字にタッチする。
日本の国番号は 7480 (工場出荷時の設定)。
アメリカの国番号は 8583。
3. [ENT] にタッチして、国番号を記憶する。

視聴規制(パレンタルロック)を設定する

お子様などに見せたくない映像を規制することができます。

設定項目： PARENTAL

設定値： INPUT



- 変更された設定内容は書き換えられます。変更する前に現在の設定内容をメモして保管してください。設定内容は車のバッテリー電源をはずすと消去されます。
- 視聴制限がないDVDでは視聴規制を設定しても再生は制限できません。
- 視聴規制に対応したDVDソフトを制限して再生したい場合には、実際に規制レベルや国番号を変更してお確かめください。
- 設定した視聴規制は保持されます。違うディスクを再生したいときや視聴規制を解除したい場合は、設定を変更してください。

1. [INPUT] にタッチする。
10 キー入力画面が表示される。
2. 4桁のパスワードをタッチ入力する。
工場出荷時は 1111。
[ENT] にタッチして、パスワードをメモリーする。
入力された数字は*で表示される。
PARENTAL 画面に切りかわる。

PARENTALの規制レベル設定

3. PARENTAL [ON] にタッチして、ONにする。
4. PARENTAL LEVELの[◀]または[▶]にタッチして、規制レベル値(1~8)を選ぶ。



● 規制を解除したいときや設定しないときは、OFFを選びます。数字が小さいほど、規制レベルは高くなります。

5. [RETURN] にタッチすると1つ前の画面に戻る。

パスワードを変更する

3. PASSWORD CHANGEの[INPUT] にタッチする。
10 キー入力画面が表示される。
4. 数字にタッチして、新しいパスワード4桁を入力する。
注) パスワードは忘れないように、メモなどをして保管してください。
5. [ENT] にタッチして、新しいパスワードをメモリーする。
6. [RETURN] にタッチすると、1つ前の画面に戻る。

- テンポラリー・パレンタルレベル変更について
ディスクによっては、再生中に初期設定で設定した視聴規制レベル(パレンタルレベル)の変更を要求する場合があります。このとき、モニター(メインディスプレイ)画面に「PARENTAL LEVEL CHANGE OK? [YES] [NO]」と表示します。
この表示が出た場合は、下記の操作で設定してください。
- 変更したパレンタルレベルで再生する場合は、[YES]にタッチする。
[YES]にタッチした場合は、10キー入力画面が表示されます。「視聴規制(パレンタルロック)を設定する」で設定している4桁のパスワードを入力し、[ENT]をタッチしてください。
- パレンタルレベルを変更しないで再生する場合は、[NO]にタッチする。
[NO]にタッチした場合は、「視聴規制(パレンタルロック)を設定する」で設定したパレンタルレベルで再生されます。



デジタル出力設定を変更する

本機から音声を設定します。

設定項目： DIGITAL OUT MODE

設定値： AUTO / LPCM



●変更された設定内容は書き換えられます。変更する前に現在の設定内容をメモして保管してください。設定内容は車のバッテリー電源をはずすと消去されます。

AUTO

再生中の音声の記録方式に従いデジタル出力を自動で切りかえる。デジタルオーディオプロセッサと接続し、ドルビーデジタル音声で再生したいときは、必ず、AUTO にする。

LPCM

ディスクに記録されている音声を48kHz/16bit (DVD) または、44.1kHz (ビデオ CD、CD) のリニア PCM 音声に変換して出力する。

● 音声出力／光デジタル音声出力について

ディスク	音声記録方式		デジタル出力設定	光デジタル音声出力 (デジタルオーディオプロセッサ接続時)	アナログ音声出力 (Ai-NET、RCA出力)
DVD	DTS		AUTO	DTSエレメンタリ ストリーム	○
			LPCM	LPCMエンコード2chダウンミクス (44.1kHzまたは48kHz/16bit)	○
	ドルビーデジタル		AUTO	ドルビーデジタル	○
			LPCM	LPCM (48kHz/16bit)	○
	リニアPCM	48kHz/16bit	AUTOまたはLPCM	LPCM (48kHz/16bit)	○
		48kHz/20bit	AUTOまたはLPCM	LPCM (48kHz/16bit)	○
		48kHz/24bit	AUTOまたはLPCM	LPCM (48kHz/16bit)	○
		96kHz/16bit	AUTOまたはLPCM	LPCM (48kHz/16bit)	○
		96kHz/20bit	AUTOまたはLPCM	LPCM (48kHz/16bit)	○
		96kHz/24bit	AUTOまたはLPCM	LPCM (48kHz/16bit)	○
	MPEG2		AUTOまたはLPCM	LPCM (44.1kHzまたは48kHz/16bit)	○
ビデオCD	MPEG1		AUTOまたはLPCM	LPCM (44.1kHz)	○
CD	リニアPCM		AUTOまたはLPCM	LPCM (44.1kHz)	○
			AUTO	DTSエレメンタリ ストリーム	○
	DTS		LPCM	LPCMエンコード2chダウンミクス (44.1kHz/16bit)	○
MP3	MPEG-1 Audio Layer3 ビットレート： 32kbps～ 320kbps	32kHz/16bit	AUTOまたはLPCM	LPCMエンコード2ch (32kHz/16bit)	○
		44.1kHz/16bit	AUTOまたはLPCM	LPCMエンコード2ch (44.1kHz/16bit)	○
		48kHz/16bit	AUTOまたはLPCM	LPCMエンコード2ch (48kHz/16bit)	○
WMA	Windows Media™ Audio ビットレート： 32kbps～ 320kbps	32kHz/16bit	AUTOまたはLPCM	LPCMエンコード2ch (32kHz/16bit)	○
		44.1kHz/16bit	AUTOまたはLPCM	LPCMエンコード2ch (44.1kHz/16bit)	○
		48kHz/16bit	AUTOまたはLPCM	LPCMエンコード2ch (48kHz/16bit)	○

セットアップ操作

ダウンミックスモードの設定

本機能は、ドルビーデジタル、DTS ストリーム音声に対して有効です。

設定項目： DOWNMIX MODE

設定値： SURROUND/STEREO

SURROUND： サラウンド互換ダウンミックス

STEREO： ステレオダウンミックス

TV スクリーン設定を変更する

お使いの別売の TV モニター（リアモニター）に合わせて、画面の比率（アスペクト比）をかえることができます。但し、本設定は、本体モニターにも適用されますので、リアモニターを接続していない場合は、16:9 に設定してください。

設定項目： TV SCREEN

設定値： 4:3LB / 4:3PS / 16:9



- 変更された設定内容は書き換えられます。変更する前に現在の設定内容をメモして保管してください。設定内容は車のバッテリー電源をはずすと消去されます。
- ディスクによっては設定した画面サイズにならない場合があります。（詳しくはディスクのジャケットに記載されている内容をご覧ください）

4:3 LETTER BOX

従来サイズの4:3のモニターに接続したときに選ぶ。アスペクト比 16:9 の映像を再生した場合は、上下に黒帯が入る。



4:3 PAN-SCAN

従来サイズの4:3のモニターに接続したときに選ぶ。画面全体に表示する。（アスペクト比 16:9 の映像を再生した場合は、左右が切れる。）



16:9 WIDE

ワイドテレビに接続したときに選ぶ。



GENERAL セットアップ

次の手順 1 ～ 5 は、GENERAL セットアップの共通操作になります。セットアップ項目の詳細は、それぞれの設定項目を参照してください。

- 1 各メインソース画面上の [SETUP] にタッチする。
SETUP 選択画面が表示される。
- 2 [OTHER SETUP] にタッチする。
OTHER SETUP 画面に切りかわる。
- 3 GENERAL SETUP の [➤] にタッチする。
GENERAL セットアップ画面に切りかわる。
- 4 お好みの設定項目の [OFF]、[ON] または [◀]、[▶] などにタッチして、設定を切りかえる。
設定項目：
CLOCK / CLOCK ADJUST / DEMONSTRATION / BEEP / AUTO SCROLL / FM CONDITION / MPX / PLAY MODE / LED DIMMER LEVEL
- 5 [RETURN] にタッチすると、1 つ前の画面に戻る。
[CONTROL] にタッチすると、セットアップ操作前のメインソース画面に戻る。

- GENERAL セットアップモード時(システムが自動的に書き込みをしているときは、イグニッションキー(エンジンキー)を OFF にしないでください。イグニッションキー(エンジンキー)を OFF にすると、設定が変更されない場合があります。



時計を表示する

モニター(メインディスプレイ)上の時計表示の ON/OFF を切りかえます。

設定項目： CLOCK
設定値： OFF / ON



- NVA-HD55S をお使いのお客様へ
ナビゲーション(HDD Audio含む)側の GPS 受信の時計表示と IVA-D305J/IVA-D305EU 側の時計表示では異なる場合があります。

時刻を設定する

設定項目： CLOCK ADJUST → HOUR/MINUTE / TIME ADJUST

設定値： 1 ～ 12 / 0 ～ 59 / RESET

HOUR： 時 を合わせる。

MINUTE： 分 を合わせる。

RESET： 「:30 未満」でタッチすると分表示が「0」となる。「:30 以上」でタッチすると「時」が繰り上がる。



- 時計調整モードは、Power OFF、[RETURN] または [CONTROL] にタッチしたときに解除されます。
- 本設定を行った場合には、サブディスプレイで表示される時計にも反映されます。

デモンストレーション機能

本機には、各ソースの基本的な動作をモニター(メインディスプレイ)に表示させるデモンストレーション機能が用意されています。

設定項目： DEMONSTRATION

設定値： OFF / ON

ON： デモンストレーションモードになり、動作を自動的に行う。

OFF： デモンストレーションモードを解除する。



- OFF にしない限り、デモンストレーションの動作は自動的に繰り返します。

操作音の切りかえ

モニター(メインディスプレイ)にタッチしたときや本体スイッチを押したときに操作音を鳴らして操作を受けつけたことを伝えます。

設定項目： BEEP

設定値： OFF / ON

ON： 操作音を鳴らす。

OFF： 操作音が出なくなる。



- 本設定の ON または OFF に関係なくモニター(メインディスプレイ)開閉時のブザー音は鳴ります。
- モニター(メインディスプレイ)を閉じた状態でも ON に設定していれば、本体スイッチを押したときには操作音は鳴ります。

セットアップ操作

スクロールの設定

スクロールとは、文字を次々と表示させることを言います。本機では、曲が変わったときなどに一回だけスクロールする「マニュアルモード(AUTO SCROLL OFF)」とスクロールを繰り返す「オートモード(AUTO SCROLL ON)」を搭載しています。CDテキストとフォルダ名、ファイル名、タグ情報が入っていれば、スクロール表示することができます。

設定項目： AUTO SCROLL

設定値： OFF / ON

ON： AUTOスクロールモードになり、スクロール表示を繰り返す。

OFF： AUTOスクロールモードを解除する。



Memo

- OFF設定時は、曲が変わったときなど1回スクロール表示を行います。
- iPod接続時は、曲名、アーティスト名、アルバム名のスクロール表示を行います。
- サブディスプレイでは、スクロールの表示はしません。

TUNER (FM) 音質の設定

本機は「MAX TUNE SQ」を搭載しており、最高音質の性能が楽しめます。さらにお好みで音質を設定することができます。

設定項目： FM CONDITION

設定値： NORMAL / HI-FI / STABLE

NORMAL： 標準設定

HI-FI： 音質重視設定

STABLE： ノイズレス設定

音声多重機能を使う（二重音声放送）

本機TVモード時にニュースや映画などの2カ国語放送や、スポーツの実況中継など、異なった2種類の音声放送（二重音声放送）を楽しむことができます。

設定項目： MPX

設定値： MAIN / SUB / MAIN + SUB

MAIN： 主音声聴こえる。

SUB： 副音声聴こえる。

MAIN + SUB：

主音声と副音声を聴くことができる。

MP3/WMA 再生データの設定

オーディオデータとMP3/WMA データ混在ディスクのオーディオデータのみを再生するか、MP3/WMAのみを再生するかを設定することができます。（オーディオデータとMP3/WMA データ混在ディスク使用時のみ）

設定項目： PLAY MODE

設定値： CD / CMPM

CD： オーディオデータのみを再生する。

CMPM： MP3/WMA のみを再生する。

- 本機よりディスクを取り出してから設定をしてください。
- MP3 対応チェンジャーの場合、本設定は出来ません。

照光ボタンの夜間減光調整

照光ボタンの夜間減光時の明るさが調整できます。

設定項目： LED DIMMER LEVEL

設定値： -2 ~ +2

- 「バックライトの明るさを設定する」(37ページ) で ON または AUTO 設定の時に有効です。

SYSTEM セットアップ

次の手順 1 ~ 5 は、SYSTEM セットアップの共通操作になります。セットアップ項目の詳細は、それぞれの設定項目を参照してください。

1 各メインソース画面上の【SETUP】にタッチする。
SETUP 選択画面が表示される。

2 【OTHER SETUP】にタッチする。
OTHER SETUP 画面に切りかわる。

3 SYSTEM SETUP の【>>】にタッチする。
SYSTEM セットアップ画面に切りかわる。

4 お好みの設定項目の【◀】、【▶】または【OFF】、【ON】などにタッチして、設定を切りかえる。

設定項目：

IN INT. MUTE / IN INT. ICON / NAV. IN / NAV. MIX / REC SPEED*1 / AUX IN / MONITOR OUT / CAMERA IN / VISUAL KEY / ILLUMINATION COLOR*2 / A.PROC TYPE

*1 HDD録音機能搭載の2倍速対応ナビゲーションシステムを接続している場合に表示する。

*2 IVA-D305EUのみ。

5 【RETURN】にタッチすると、1つ前の画面に戻る。
【CONTROL】にタッチすると、セットアップ操作前のメインソース画面に戻る。

- SYSTEMセットアップモード時(システムが自動的に書き込みをしているとき)は、イグニッションキー(エンジンキー)をOFFにしないでください。
イグニッションキー(エンジンキー)をOFFにすると、設定が変更されない場合があります。



外部割り込みモードの設定

Ai-NET 割り込み Box(NVE-K200)と組み合わせると、当社テレビの音声などを本機に割り込ませることができます。組み合わせる製品によっては、利用できない場合があります。詳しくは組み合わせる製品の説明書を参照してください。

設定項目： IN INT.MUTE

設定値： OFF / ON

OFF：外部割り込みモードになり音量調整ができる。

ON：音声は出力されない。

「外部割り込みアイコン表示の設定」(同ページ)で設定しているアイコンが表示される。



- この機能は、対応製品との組み合わせで、INT (音声割り込み) コードが接続されている場合に有効です。

外部割り込みアイコン表示の設定

別売のAi-NET 割り込み Box (NVE-K200) と組み合わせ、ナビゲーションでの「音楽CD演奏」などを割り込ませる場合に使用します。その際に「INT」アイコンを設定すると、外部割り込みがあるときに「INT」アイコンが表示されます。なお、「TEL」アイコンについては、現在組み合わせ使用できる製品が発売されておりませんが、外部割り込み時のアイコン表示を「INT」にするか「TEL」にするかの違いだけです。どちらのアイコンをご使用になっても機能上問題はありません。

設定項目： IN INT.ICON

設定値： INT / TEL

INT：INTアイコンが表示される。

TEL：外部割り込み (TEL) がされたとき、画面上にTELのアイコンが表示される。

ナビゲーションモードを設定する

別売のナビゲーション製品を接続した場合は、ONに設定してください。

設定項目： NAV. IN

設定値： OFF / ON

ON：ナビゲーションソースを表示させる。

OFF：ナビゲーションソースは表示されない。本機からのナビゲーション関連の設定は出来なくなる。

ナビゲーション音声の割り込み設定

当社のナビゲーション製品 (ディスプレイコントロール、ガイドコントロールを接続したナビゲーション) と組み合わせ、CDやラジオなどを聴いていても、ナビゲーション側の音声案内を本機に割り込ませることができます。

設定項目： NAV.MIX

設定値： OFF / ON

OFF：ナビゲーション音声割り込みをさせない。

ON：ナビゲーション音声割り込みモードになる。

ナビゲーションの割り込み音量レベルを調整するには、本設定でONにしたあと、「オーディオ調整」(25ページ)のNAV. LEVEL調整を行う。



- ナビゲーション音声案内割り込み中に、オーディオ音量を調整すると、その音量が音声案内割り込み時のオーディオ音量として設定されます。設定しておく、ナビゲーション音声案内割り込み時に、自動的にその設定したオーディオ音量値と割り込み画面になり、割り込みが解除されると、もとのオーディオ音量と画面に戻るようになります。但し、設定した値より小さいオーディオ音量で聞いていた時に割り込みが入ると、割り込み時のオーディオ音量は、その小さいオーディオ音量に再設定されます。(ナビゲーション音声案内が割り込まれた場合、割り込む前のオーディオ音量より大きくなる事はありません)
- SYSTEM リスト画面のNAV.IN設定がONのときに有効です。
- PXA-H510またはPXA-H900接続時、本機で設定したNAV.MIX値はPXA-H510またはPXA-H900側には反映されません。

CD録音速度の設定

HDD録音機能搭載の2倍速対応ナビゲーションシステムを接続している場合、CDを録音する際に録音速度を設定することができます。

設定項目： REC SPEED

設定値： ×1 / ×2

×1：1倍速で録音される。

×2：2倍速で録音される。

AUXモードを設定する

設定項目： AUX IN

設定値： OFF / ON

OFF：AUXソース表示はされない。

ON：AUXソースは表示される。



- 別売のDVDプレイヤー、DVDチェンジャーを接続している場合は、OFFは表示されません。
- OFFに設定すると、本機からのAUX関連の設定は出来なくなります。

セットアップ操作

外部入力に表示名をつける

外部入力製品を接続した場合、表示名をお好みでつけることができます。

「AUXモードを設定する」でON設定時、AUX INの[>>>]にタッチしたあと、次の設定を行う。

設定項目： NAME

設定値： AUX / VCR / GAME-1,2 / EXT.-1 / DTV / EXT. DVD*

* ソース選択画面上でDVDプレーヤー1台接続時は、EXT. DVDと表示されます。



- 選んだ表示名がAUXモードのソース名に切りかわる。EXT. DVD/DTVのソースを選択すると各モードのファンクションガイドに切りかわります。但し、EXT.-1は現在使用しません。

外部入力音声レベルの調整

「AUXモードを設定する」でON設定時、AUX INの[>>>]にタッチしたあと、次の設定を行う。

設定項目： LEVEL

設定値： LOW / HIGH

LOW： 外部入力の音声レベルを小さめに設定する。

HIGH： 外部入力の音声レベルを大きめに設定する。

外部モニター出力の設定

リアエンター機能（26ページ）を使用するときはONに設定する。

設定項目： MONITOR OUT

設定値： OFF / ON

ON： 接続している外部モニターの出力をONにし、リモコン操作を受け付ける。

OFF： リモコン操作は受け付けません。

リアカメラの設定

リアカメラを接続している場合、バック映像を出力させます。

設定項目： CAMERA IN

設定値： OFF / ON

ON： シフトレバーをバック（R）に入れなくてもVISUAL 選択画面上のCAMERA ソースを選ぶとバック映像が出力される。

OFF： VISUAL 選択画面上にCAMERA ソースは表示されません。



- シフトレバーをバック（R）に入れると、連動でバック映像が出力されます。リバースコードが接続している場合に有効です。
- 本設定を有効にするには「VISUALタッチスイッチの設定」（同ページ）をVISUALに設定してください。

VISUAL タッチスイッチの設定

設定項目： VISUAL KEY

設定値： VISUAL / NAV.

NAV.： [VISUAL] にタッチするとナビゲーション画面へダイレクトに切りかわる（当社の別売RGB ナビゲーション製品接続時のみ）。

VISUAL： [VISUAL] にタッチするとVISUAL 選択画面を呼び出す。

照光ボタンの色をかえる（IVA-D305EUのみ）

照光ボタンの色をかえることができます。

設定項目： ILLUMINATION COLOR

設定値： RED / AMBER

外部オーディオプロセッサの光デジタル入力切りかえ設定

当社の光デジタル対応オーディオプロセッサと接続した場合に、本設定の切りかえを行ってください。

設定項目： A.PROC TYPE

設定値： PXA-H510 / OTHER

PXA-H510：

PXA-H510と接続した場合に設定する。光デジタル入力端子は、DVD 用へ接続する。

OTHER：

PXA-H510以外の光デジタル対応オーディオプロセッサと接続した場合に設定する。光デジタル入力端子は、ヘッドユニット用へ接続する。



- 設定終了後、一度ACCをOFFにしてから再度ACC ONにしてください。光デジタル入力切りかえの設定が確定されます。

DISPLAY セットアップ

次の手順 1 ～ 5 は、DISPLAY セットアップの共通操作になります。セットアップ項目の詳細は、それぞれの設定項目を参照してください。

- 1 各メインソース画面上の [SETUP] にタッチする。
SETUP 選択画面が表示される。
- 2 [OTHER SETUP] にタッチする。
OTHER SETUP 画面に切りかわる。
- 3 DISPLAY SETUP の [≫] にタッチする。
DISPLAY セットアップ画面に切りかわる。
- 4 お好みの設定項目の [◀]、[▶] または [OFF]、[ON] などにタッチして、設定を切りかえる。
設定項目：
DIMMER / DIMMER LOW LEVEL / BACKGROUND / AUTO BACKGROUND / FONT TYPE / BASE COLOR / PULSETOUCH / SCREEN ALIGNMENT
- 5 [RETURN] にタッチすると、1 つ前の画面に戻る。
[CONTROL] にタッチすると、セットアップ操作前のメインソース画面に戻る。

- DISPLAY セットアップモード時(システムが自動的に書き込みをしているときは、イグニッションキー(エンジンキー)を OFF にしないでください。イグニッションキー(エンジンキー)を OFF にすると、設定が変更されない場合があります。



バックライトの明るさを設定する

車内の明るさに連動して液晶パネルに内蔵されているバックライト(蛍光管)の明るさを切りかえ、画面を見やすくすることができます。

設定項目： DIMMER

設定値： OFF / ON / AUTO

OFF： バックライトを明るいまま固定する。

ON： バックライトを暗いまま固定する。

AUTO： 車内の明るさに連動して画面の明るさを自動で調光する。



- ON または AUTO 設定時に「照光ボタンの夜間減光調整」(34 ページ)で照光ボタンにも反映されます。

バックライトの最低レベルを調整する

本機はバックライト (LOW) の明るさを調整することができます。例えば、夜間走行時に画面の明るさを微調整するときなどに使います。

設定項目： DIMMER LOW LEVEL

設定値： - 15 ～ + 15

- 15 ～ + 15 の間でレベルを調整する。最大値時は「MAX」、最小値時は「MIN」と表示する。

背景画面を切りかえる (バックグラウンド)

背景画面は、ユーザーが設定した背景画面の中から選べます。

設定項目： BACKGROUND

設定値： MODE1 / MODE2



- 本設定は、ディスク再生を停止 (STOP) 状態にするか、または本機からディスクを取り出してから行ってください。
- 「MY BACKGROUND データのダウンロード」(48 ページ)でダウンロードされた壁紙が呼び出せます。
- 本機で内蔵ディスク以外のソースを選択し、そして接続しているリアモニター側で本機内蔵ディスクを選択している場合には、本設定で選んだ背景画面を本機に表示させることはできません。
- エラー表示 (ERROR、HI-TEMP など) 時は、本設定で選んだ背景画面を本機に表示させることはできません。

セットアップ操作

オートバックグラウンドの設定

イグニッションキー（エンジンキー）のON/OFFごとに、ユーザーが設定した背景画面が自動的に切りかわります。

設定項目： AUTO BACKGROUND

設定値： OFF / ON

ONに設定するとイグニッションキー（エンジンキー）のON/OFFごとにオートバックグラウンドモードが切りかわる。

MODE1 ↔ MODE2



- 「MY BACKGROUNDデータのダウンロード」（48ページ）でダウンロードされた壁紙が呼び出せます。

フォントタイプの設定

メイン表示部の文字（テキスト、タグ情報など）フォントタイプが設定できます。

設定項目： FONT TYPE

設定値： FONT1 / FONT2

FONT1： ゴシック文字に切りかえる。

FONT2： 丸文字に切りかえる。

フォントバック表示色を切りかえる

フォントバック（ソースタイトル、ショートカット表示部など）表示色をあらかじめ設定されている5種類の中から選べます。

設定項目： BASE COLOR

設定値： MODE1 ～ MODE5



- 文字色はかえられません。

タッチパネル操作振動のON/OFF

タッチパネル操作時の振動のON/OFF 設定ができます。

設定項目： PULSETOUCH

設定値： OFF / ON

OFF： 操作入力時に振動させない。

ON： 操作入力時に振動させる。

タッチパネルの調整

LCD上の表示位置とタッチパネル上のタッチ位置が一致しなくなった場合に調整してください。

設定項目： SCREEN ALIGNMENT

設定値： / RESET

1. SCREEN ALIGNMENT の [>>] にタッチする。
調整画面に切りかわる。
2. 左下の [] マークに正確にタッチする。
調整画面が切りかわる。
3. 右上の [] マークに正確にタッチする。
調整を終了して、DISPLAYセットアップモード画面に戻る。



- [] マークでないところへタッチした場合は、[RESET]にタッチしてください。工場出荷時の調整画面に戻ります。
- 調整画面上の[RETURN]にタッチした場合は、何も調整されず、DISPLAYセットアップ画面に戻ります。

Media Xpander 機能

MX モードの設定

MX (Media Xpander) は、ラジオ/CD/MP3など音楽ソースごとにボーカルや各楽器の音を際立たせ、走行騒音の多い車内においても音楽をクリアに再生することができます。

1 ディフィートがOFFであることを確認する。(25ページ参照)

2 各ソースメイン画面上の[SETUP]にタッチする。
SETUP 選択画面が表示される。

3 [i-Personalize]にタッチする。
i-Personalize 画面に切りかわる。

4 MEDIA XPANDER の[ON]または[OFF]にタッチして、MX のON/OFFを選ぶ。
OFF：すべての音楽ソースのMX効果がOFFになる。
ON：設定したMXモードをONにする。

5 ON 設定後、[>>]にタッチする。
Media Xpander 設定画面に切りかわる。

6 お好みのMXモードの[◀]または[▶]にタッチする。
音楽ソース (AM ラジオを除くラジオ/CD など) ごとにレベルが調整できる。

MX CD (OFF、CD MX1～3)

情報量豊富なCD。その情報量を活かしたメリハリのある音を再生する。

MX COMPRESS MEDIA (OFF、CMPM MX1～3)/ MX FM (OFF、FM MX1～3)

こもりがちな中高域の音をよりクリアにし、全帯域にバランスのとれた音を再生する。

MX MD (OFF、MD MX1～3) *

圧縮時に欠落された情報を補正し、原音に近いバランスのとれた音を再生する。

MX DVD

- (OFF、MOVIE MX 1～2)
映画ディスクのセリフ部分をより鮮明に再生する。
- (DVD MUSIC)
ミュージッククリップなどの情報量豊富なディスク。その情報量を活かし、メリハリのある音を再生する。

MX AUX (OFF、CMPM MX、MOVIE MX、MUSIC MX)

接続するメディアに対応したMXモード (CMPM、MUSIC、MOVIE) が選べる。

7 設定が終了したら[RETURN]にタッチすると、1 つ前の画面に戻る。
[CONTROL]にタッチすると、MX設定前のメインソース画面に戻る。



Memo

* MD製品接続時に表示されます。

- MXレベルは1→2→3の順に効果が大きくなります。
- MP3/WMA、MMD、iPodモード時は、「MX COMPRESS MEDIA」に割り当てられます。
- MX AUXは「AUXモードを設定する」(35ページ)でON設定のときに表示します。
- AM、TV、NAV.モード時は本設定はできません。
- MX連動機能を持つオーディオプロセッサ製品 (PXA-H701 など) と組み合わせた場合、オーディオプロセッサ側のMX内容と連動させることができます。その場合オーディオプロセッサ側での設定が必要になります。詳しくは、オーディオプロセッサ側の取扱説明書をご覧ください。
その他のオーディオプロセッサと組み合わせた場合は、操作を受け付けません。
- MX設定機能は、プリアウト出力にも有効です。

Bass Engine 機能

Bass Engine の設定

次の手順 1～6 は、Bass Engine 設定の共通操作になります。設定項目の詳細は、それぞれの項目を参照してください。

1 各ソースメイン画面上の[SETUP]にタッチする。
SETUP 選択画面が表示される。

2 [i-Personalize]にタッチする。
i-Personalize 画面に切りかわる。

3 BASS ENGINE の[>>]にタッチする。
Bass Engine 設定画面に切りかわる。
・Bass Engine 機能は、外部オーディオプロセッサと接続している場合、「A.PROCESSOR」と表示名がかわります。その際の設定内容項目については、「外部オーディオプロセッサの操作(オプション)」(49 ページ)をご覧ください。

4 お好みのBass Engine設定項目の[◀]、[▶]または[>>]にタッチする。

設定項目：

BASS MAX EQ* / P-EQ* / BASS FOCUS /
T.CORR (TIME CORRECTION) / HIGH PASS
FILTER / SUBWOOFER

* DEFEATがOFF設定時に表示(「DEFEATのON/OFF」25 ページ)

5 選んだ設定項目の[◀]、[▶]または調整画面にタッチして設定をかえる。
・設定後は、設定内容を記憶することをお勧めします。

6 [RETURN]にタッチすると、1 つ前の画面に戻る。
[CONTROL]にタッチすると、Bass Engine 設定前のメインソース画面に戻る。

Bass MAX EQ モードを選ぶ (メーカー設定)

設定項目： BASS MAX EQ

設定値： FLAT / ROCK / POPS / JAZZ / ELECTRIC
/ HIPHOP / EASY / COUNTRY / CLASSIC
/ NEWS / CUSTOM*

* パラメトリックEQで調整した内容。

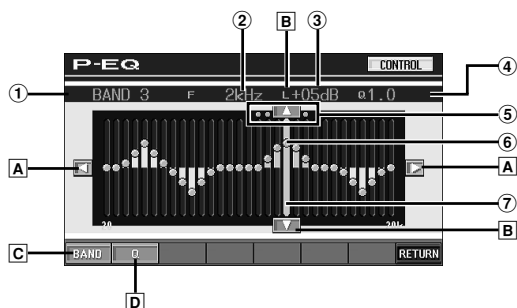
パラメトリックEQの調整と記憶 / 呼び出し

グラフィックEQでは隣接する帯域まで変化するため、ピーク (山) やディップ (谷) での急峻な特性の乱れをスポット的に補正するには限界があります。パラメトリックEQは、中心周波数、Q (帯域幅)、レベルをそれぞれ任意に調整可能ですので、狙った帯域だけを微妙に調整することができます。高度で本格的な補正、音創りを行うにはこのパラメトリックEQが有効なのです。
「周波数帯域と音質について」(88 ページ) も調整の際の参考にしてください。

設定項目： P-EQ

1. P-EQ の[>>]にタッチする。
P-EQ 調整画面に切りかわる。
2. お好みでバンドを調整する。

< P-EQ 調整画面例 >



- ① 現在選択しているバンドを表示
- ② 現在選択しているバンドの中心周波数を表示
- ③ 現在選択しているバンドのレベルを表示
- ④ 現在選択しているバンドのバンド幅 (Q) を表示
- ⑤ 現在選択しているバンドの中心周波数の可変範囲
- ⑥ アクティブポイント: 現在選択しているバンドの中心周波数とレベルの位置を表示
- ⑦ アクティブバー: 現在選択しているバンドのレベル可変範囲がオレンジ色で表示される。

[周波数を調整する]

[A] [◀]または[▶]にタッチして、選択しているバンドの周波数を調整する。

< 中心周波数 >

HIGH (BAND4): 10kHz, 12.5kHz, 15kHz
MID-HIGH (BAND3): 500Hz, 700Hz, 1kHz,
2kHz, 4kHz, 6kHz
MID-LOW (BAND2): 100Hz, 150Hz, 200Hz
LOW (BAND1): 40Hz, 60Hz, 90Hz

[レベルを調整する]

- Ⓑ [▲]または[▼]にタッチして、選択しているバンドのレベルを調整する。

レベル：－12 ～ ＋12

[バンドを選ぶ]

- Ⓒ [BAND]をタッチすることによりバンド（BAND1 ～ BAND4）が切りかわる。

アクティブバーと中心周波数の可変範囲は、バンドにあわせて移動する。

BAND1：LOW

BAND2：MID-LOW

BAND3：MID-HIGH

BAND4：HIGH

- ・現在選択しているバンドの可変範囲外にタッチすると、タッチした場所のバンドにアクティブバーが移動し、その場所のバンドを調整することができます。

[バンド幅を設定する]

- Ⓓ [Q]をタッチすることによりバンド幅が切りかわる。

HIGH： 1.0（HIGHはバンド幅の設定変更はできません。）

MID-HIGH：1.0、2.0、3.0

MID-LOW：1.0、1.5、2.0

LOW： 1.0、2.0、3.0

[レベル/周波数をダイレクトに調整する]

アクティブポイントにタッチしながらお好みの場所へ移動し、設定値を変化させる。

または、お好みの場所にタッチするとアクティブポイントがそのタッチした場所へ移動する。

- ・パラメトリックEQの設定を行うと、Bass MAX EQ モードの設定値は、CUSTOMになります。

3. [RETURN]にタッチすると、1つ前の画面に戻る。

[調整した内容を記憶する]

「パラメトリックEQの調整と記憶/呼び出し」の手順3の後に次の操作を行う。

4. BASS ENGINE 画面上の[MEMORY]にタッチする。

5. 5秒以内に[P.SET1]～[P.SET6]のいずれかにタッチする。

調整した内容がタッチしたP.SET No.に記憶される。



- Bass Engineの各設定項目の調整/設定した内容をまとめてPreset 1～6に記憶させることができます。
- プリセット No.に記憶した内容はリセットしたときやバッテリー電源コードを外したときでも消去されません。

[記憶した調整内容を呼び出すには]

「パラメトリックEQの調整と記憶/呼び出し」の手順3の後に次の操作を行う。

4. BASS ENGINE 画面上の[P.SET1]～[P.SET6]のいずれかにタッチする。

記憶した調整内容を呼び出す。



- 「オーディオ調整」(25ページ)でディフィートがONの時は、操作を受け付けません。

タイムコレクション（時間補正）について

車という特殊な条件下であるため、リスニングポジションとそれぞれのスピーカーの距離に大きなばらつきがあります。リスニングポジションでの時間差を取り除くときにこの機能を使います。ここでは、時間補正值の算出方法について説明します。

1 リスニングポジション（運転席など）に座り、頭の位置と各スピーカーの距離（m）を測定する。

2 一番遠いスピーカーの距離とその他のスピーカーの距離の差を算出する。

$L = (\text{一番遠いスピーカーの距離}) - (\text{それぞれのスピーカーの距離})$

3 スピーカーごとに算出した距離を音速（343m/s 気温20℃）で割る。

その値が各スピーカーの時間補正值となる。

- ・ 計算式

$$\frac{(\text{一番遠いスピーカーの距離} - \text{算出したいスピーカーの距離}) \times 1000}{343}$$

= 時間補正值（この数値を手動で入力してください。）

（次ページへつづく）

●具体例

下記イラストのフロント右側スピーカーの時間補正値を算出する。

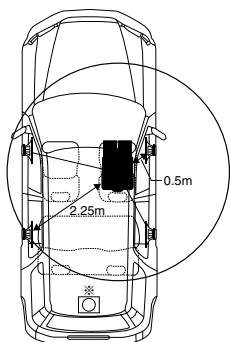
(条件)：

一番遠いスピーカー～リスニングポジション：2.25m
フロント右側スピーカー～リスニングポジション：0.5m

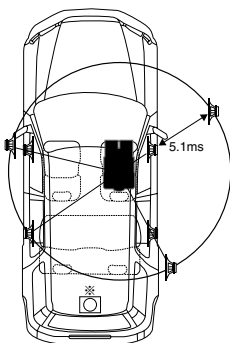
(算出)：L = 2.25m - 0.5m = 1.75m

補正時間 = 1.75 ÷ 343 × 1000 = 5.1 (ms)

つまり、フロント右側スピーカーの時間補正値に5.1 (ms) 与えることで、見かけの距離を持たせて、一番遠いスピーカーと距離を一致させる。



リスニングポジションと各スピーカーまでの距離が違うために偏った音 (不明瞭な音) になる。右前スピーカーと左後スピーカーでは 1.75m の差がある。



時間補正により到達時間差が解消される。
右前スピーカーに 5.1 ms の時間補正を行い、リスニングポイントとスピーカーまでの距離の整合をとることができる。



- サブウーハー*の時間補正はできませんが、フロント/リアスピーカーの時間補正を行うことで、サブウーハーの音をフロント方向に定位させることができます。

- 車種・システムに合わせたタイムコレクションのデータを、アルパインオーナー専用Webサイトの「i-Personalize™」にアクセスし、Web上からプリントアウトしたデータを参考に、マニュアル入力してください。

ただし、車種によってはデータがない場合があります。詳しくはALPINE Webサイトをご覧ください。(http://www.alpine.co.jp)

タイムコレクションの調整と記憶 / 呼び出し

操作の前に「タイムコレクション(時間補正)について」(41ページ) を参照してください。

設定項目： T.CORR (TIME CORRECTION)

設定値： 0.0 ～ 9.9

1. T.CORR の[>>]にタッチする。
T-CORR. セットアップ画面に切りかわる。
2. お好みのスピーカーの[◀]または[▶]にタッチして、時間補正値 (0.0 ～ 9.9) を調整する。
3. さらに別のスピーカーを調整するには、手順2を繰り返す。
4. [RETURN]にタッチすると、1つ前の画面に戻る。



Memo

- タイムコレクション(時間補正)での調整値は、Bass Focusモードにも反映されます。
- タイムコレクション調整機能はプリアウト出力にも有効です。

[調整した内容を記憶する]

「タイムコレクションの調整と記憶 / 呼び出し」の手順4の後に次の操作を行う。

5. BASS ENGINE 画面上の[MEMORY]にタッチする。
6. 5秒以内に[P.SET1]～[P.SET6]のいずれかにタッチする。
調整した内容がタッチしたプリセット No. に記憶される。



Memo

- Bass Engineの各設定項目の調整/設定した内容をまとめてPreset1～6に記憶させることができます。
- プリセットNo.に記憶した内容はリセットしたときやバッテリー電源コードを外したときでも消去されません。

[記憶した時間補正値を呼び出すには]

「タイムコレクションの調整と記憶 / 呼び出し」の手順4の後に次の操作を行う。

5. BASS ENGINE 画面上の[P.SET1]～[P.SET6]のいずれかにタッチする。
記憶した調整内容を呼び出す。

Bass Focus の調整と記憶 / 呼び出し

あらかじめ設定されているステップ値（時間差）を使用することで、前後／左右同時に時間差を設定することができ、感覚的に時間補正を調整することができます。
ステップは、0.1ms 間隔で 0～99 ステップ用意しています。

設定項目： BASS FOCUS

設定値： 0～99

1. BASS FOCUS の[≫]にタッチする。
BASS FOCUS セットアップ画面に切りかえる。
2. 前後左右のスピーカーいずれかの[◀]または[▶]にタッチして、前後 / 左右のステップを設定する。
3. さらに別のチャンネル（スピーカー）を設定するには、手順 2 を繰り返す。
4. [RETURN]にタッチすると、1 つ前の画面に戻る。



- Bass Focus での設定は、タイムコレクションにも反映されます。
- 運転席では低音の遅れが原因で音楽が鈍く聴こえがちです。Bass Focus を使うことで、音場位置を見かけ上前方に移動し、最適な音場バランスが得られます。

[調整した内容を記憶する]

「Bass Focus の調整と記憶 / 呼び出し」の手順 4 の後に次の操作を行う。

5. BASS ENGINE 画面上の[MEMORY]にタッチする。
6. 5 秒以内に[P.SET 1]～[P.SET 6]のいずれかにタッチする。
調整した内容がタッチした P.SET No. に記憶される。



- Bass Engine の各設定項目の調整 / 設定した内容をまとめて Preset 1～6 に記憶させることができます。
- プリセット No. に記憶した内容はリセットしたときやバッテリー電源コードを外したときでも消去されません。

[調整した内容を呼び出すには]

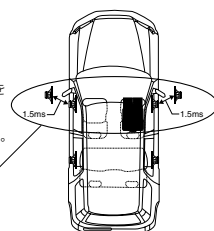
「Bass Focus の調整と記憶 / 呼び出し」の手順 4 の後に次の操作を行う。

5. BASS ENGINE 画面上の [P.SET 1] ～ [P.SET 6] のいずれかにタッチする。
記憶した調整内容を呼び出す。

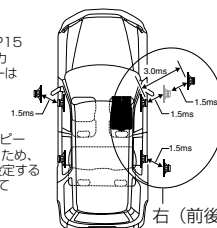
Bass Focus の設定例

- (1) フロント（左右）スピーカーを STEP15 に設定。
時間差はフロント（左右）スピーカー共に 1.5ms になる。

フロント（左右）



- (2) 右（前後）スピーカーを STEP15 に設定。時間差は右前スピーカーは 3.0ms*、右後スピーカーは 1.5ms となる。



* (1) の調整で、すでに右前スピーカーは 1.5ms に設定されているため、右側スピーカーを STEP15 に設定すると、右前スピーカーは加算されて 3.0ms となる。

時間差表

STEP数	時間差(ms)	距離(cm)	STEP数	時間差(ms)	距離(cm)
0	0.0	0.0	50	5.0	171.5
1	0.1	3.4	51	5.1	174.9
2	0.2	6.9	52	5.2	178.4
3	0.3	10.3	53	5.3	181.8
4	0.4	13.7	54	5.4	185.2
5	0.5	17.2	55	5.5	188.7
6	0.6	20.6	56	5.6	192.1
7	0.7	24.0	57	5.7	195.5
8	0.8	27.4	58	5.8	198.9
9	0.9	30.9	59	5.9	202.4
10	1.0	34.3	60	6.0	205.8
11	1.1	37.7	61	6.1	209.2
12	1.2	41.2	62	6.2	212.7
13	1.3	44.6	63	6.3	216.1
14	1.4	48.0	64	6.4	219.5
15	1.5	51.5	65	6.5	223.0
16	1.6	54.9	66	6.6	226.4
17	1.7	58.3	67	6.7	229.8
18	1.8	61.7	68	6.8	233.2
19	1.9	65.2	69	6.9	236.7
20	2.0	68.6	70	7.0	240.1
21	2.1	72.0	71	7.1	243.5
22	2.2	75.5	72	7.2	247.0
23	2.3	78.9	73	7.3	250.4
24	2.4	82.3	74	7.4	253.8
25	2.5	85.8	75	7.5	257.3
26	2.6	89.2	76	7.6	260.7
27	2.7	92.6	77	7.7	264.1
28	2.8	96.0	78	7.8	267.5
29	2.9	99.5	79	7.9	271.0
30	3.0	102.9	80	8.0	274.4
31	3.1	106.3	81	8.1	277.8
32	3.2	109.8	82	8.2	281.3
33	3.3	113.2	83	8.3	284.7
34	3.4	116.6	84	8.4	288.1
35	3.5	120.1	85	8.5	291.6
36	3.6	123.5	86	8.6	295.0
37	3.7	126.9	87	8.7	298.4
38	3.8	130.3	88	8.8	301.8
39	3.9	133.8	89	8.9	305.3
40	4.0	137.2	90	9.0	308.7
41	4.1	140.6	91	9.1	312.1
42	4.2	144.1	92	9.2	315.6
43	4.3	147.5	93	9.3	319.0
44	4.4	150.9	94	9.4	322.4
45	4.5	154.4	95	9.5	325.9
46	4.6	157.8	96	9.6	329.3
47	4.7	161.2	97	9.7	332.7
48	4.8	164.6	98	9.8	336.1
49	4.9	168.1	99	9.9	339.6

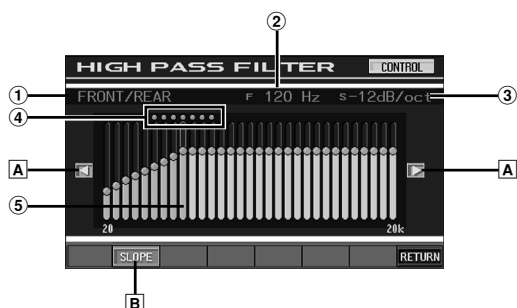
ハイパスフィルターの調整と記憶／呼び出し

HPF（ハイパスフィルター）を設定することで、ある周波数より下の音域（低域）をカットして高域の成分を通すフィルターとなり、お好みの音響空間を再現することができます。

設定項目： HIGH PASS FILTER

1. HIGH PASS FILTER の[>>]にタッチする。
HIGH PASS FILTER 調整画面に切りかわる。
2. お好みで調整する。

< HIGH PASS FILTER 調整画面例 >



- ① 調整可能なスピーカーを表示
- ② 現在選択しているカットオフ周波数を表示
- ③ 現在選択している HPF のスロープ値を表示
- ④ 選択しているカットオフ周波数の可変範囲
- ⑤ アクティブバー：現在選択しているカットオフ周波数の位置がオレンジ色で表示される。

[カットオフ周波数を選ぶ]

- A [◀]または[▶]にタッチして、カットオフ周波数（クロスオーバーポイント）を選ぶ。
設定値: 80Hz、120Hz、160Hz

[スロープの調整]

- B [SLOPE]にタッチして、HPFのスロープを調整する。
設定値: OFF、- 12dB/oct

[カットオフ周波数をダイレクトに調整する]

カットオフ周波数の可変範囲内にタッチすると、タッチした場所にカットオフ周波数が移動する。

3. [RETURN]にタッチすると、1つ前の画面に戻る。

[調整した内容を記憶する]

「ハイパスフィルターの調整と記憶／呼び出し」の手順3の後に次の操作を行う。

4. BASS ENGINE 画面上の[MEMORY]にタッチする。
5. 5秒以内に[P.SET1]～[P.SET6]のいずれかにタッチする。
調整した内容がタッチしたプリセット No. に記憶される。



- Bass Engineの各設定項目の調整/設定した内容をまとめてPreset 1～6に記憶させることができます。
- プリセットNo.に記憶した内容はリセットしたときやバッテリー電源コードを外したときでも消去されません。

[記憶した調整内容を呼び出すには]

「ハイパスフィルターの調整と記憶／呼び出し」の手順3の後に次の操作を行う。

4. BASS ENGINE 画面上の[P.SET1]～[P.SET6]のいずれかにタッチする。
記憶した調整内容を呼び出す。

サブウーハーのON/OFF

設定項目： SUBWOOFER

設定値： OFF / 0° / 180°

OFF： サブウーハー出力は OFF になる。

0°： サブウーハー出力を ON にし、位相を 0° にする。

180°： サブウーハー出力を ON にし、位相を 180° にする。



- 0°または180°で低音の出ている方(低音を強く感じる方)を選択してください。
- 本設定をPreset 1～6に記憶することができます。
- PXA-H700またはPXA-H701を接続している場合は、下記で設定してください。
i-Personalize画面からA.PROCESSORを選び、さらにSPEAKER SELECTを選びSPEAKER SELECT画面にて、Subwoofer: OFF/MONO/STEREOを設定してください。

VISUAL EQ™

VISUAL EQ 設定機能

次の手順 1 ～ 6 は、VISUAL EQ 設定機能の共通操作になります。設定機能項目の詳細は、それぞれの設定項目を参照してください。

- 1 各メインソース画面上の [SETUP] にタッチする。
SETUP 選択画面が表示される。
- 2 [i-Personalize] にタッチする。
i-Personalize 画面に切りかわる。
- 3 VISUAL EQ の[>>]にタッチする。
VISUAL EQ 画面に切りかわる。
- 4 [▲]または[▼]にタッチして、お好みの設定項目を選ぶ。
設定項目：
VISUAL EQ* ↔ BRIGHT ↔ COLOR* ↔ TINT* ↔
CONTRAST ↔ SHARP* ↔ USER MEMORY*
* 映像ソースモード時に設定可能(ナビ画面除く)。
- 5 選んだ設定項目の[◀]または[▶]にタッチして設定をかける。
- 6 [RETURN] にタッチすると、1 つ前の画面に戻る。
[CONTROL] にタッチすると、設定操作前のメインソース画面に戻る。

VISUAL EQ モードを選ぶ (メーカー設定)

色々な映像に応じて、モードを選ぶことができます。

設定項目： VISUAL EQ

設定値： OFF(FLAT) / NIGHT M. / SOFT / SHARP
/ CONTRAST / P-1 / P-2

OFF(FLAT)： 工場出荷時設定

NIGHT M.： 暗いシーンが中心の映画に最適

SOFT： CG、アニメーションの映画に最適

SHARP： 映像がくっきりしていない古い映画に最適

CONTRAST： 最新の映画に最適

P-1： 「VISUAL EQを記憶する」(46ページ)でプリセット No. P-1 に記憶した VISUAL EQ モードを呼び出す。

P-2： 「VISUAL EQを記憶する」(46ページ)でプリセット No. P-2 に記憶した VISUAL EQ モードを呼び出す。



Memo

- NIGHT M.～CONTRASTのいずれかを選択後、お好みで映像の明るさや色の濃さを調整した後に、あらためて初期値に戻す場合は、本機能の設定をOFFにしてください。
- NIGHT M.～CONTRASTのいずれかを選択後、お好みで映像の明るさや色の濃さを調整した場合は、CUSTOMと表示されます。

映像の明るさを調整する

設定項目： BRIGHT

設定値： - 15 ～ + 15

- 15 ～ + 15 の間で明るさを調整する。最大値時は「MAX」、最小値時は「MIN」と表示する。



Memo

- NIGHT M.～CONTRASTのいずれかを選択している場合、「バックライトの明るさを設定する」(37ページ)でAUTOに設定していれば、車内の明るさに連動して映像の明るさが自動的に調整されます。

映像の色の濃さを調整する

設定項目： COLOR

設定値： - 15 ～ + 15

- 15 ～ + 15 の間で色の濃さを調整する。最大値時は「MAX」、最小値時は「MIN」と表示する。



Memo

- 色の濃さの調整は、TV、AUX、DVD/ビデオCD、NAV.(RGB NAV以外)モード時のみ可能です。

映像の色あいを調整する

設定項目： TINT

設定値： G15 ～ R15

G15 ～ R15 の間で色合いを調整する。最大値時は「G MAX」、「R MAX」とそれぞれ表示する。



Memo

- 色あいの調整は、TV、AUX、DVD/ビデオCD、NAV.(RGB NAV以外)モード時のみ可能です。

映像コントラストを調整する

設定項目： CONTRAST

設定値： - 15 ~ + 15

- 15 ~ + 15 の間でコントラストの調整をする。最大値時は「HIGH」、最小値時は「LOW」と表示する。



- NIGHT M. ~ CONTRAST のいずれかを選択している場合、「バックライトの明るさを設定する」(37ページ)でAUTOに設定していれば、車内の明るさに連動して映像のコントラストが自動的に調整されます。

映像画質を調整する

設定項目： SHARP

設定値： - 15 ~ + 15

- 15 ~ + 15 の間で画質の調整をする。最大値時は「HARD」、最小値時は「SOFT」と表示する。



- 映像画質の調整は、TV、AUX、DVD/ビデオCD、NAV. (RGB NAVI以外) モード時のみ可能です。

VISUAL EQ を記憶する

お好みで調整した「映像の明るさ/色合い/濃さ/画質/コントラストを調整する」を記憶することができます。

設定項目： USER MEMORY

設定値： P-1 / P-2

1. 「映像の明るさ/色合い/濃さ/画質/コントラストを調整する」(45~46ページ)を調整後、USER MEMORY の[◀]または[▶]にタッチして、記憶させたいプリセット No. P-1、P-2 を選ぶ。
2. プリセット No. 選択後、[WRITE] にタッチする。
調整した VISUAL EQ モードは記憶される。



- ここで記憶した VISUAL EQ モードは、「VISUAL EQ モードを選ぶ」(45ページ)の P-1、P-2 から呼び出すことができます。

Data Download

SOUND SETUP/BACKGROUND のダウンロードについて

アルパインオーナー専用Webサイト上に車種・システムに合わせた車室内音響セッティングデータとMY BACKGROUND(壁紙)データを公開しています。このデータベースをもとに自在にカスタマイズした音響セッティングデータ、またはMY BACKGROUND(壁紙)データをダウンロードし、CD-R/CD-RW(データはルートフォルダ上に書き込む)またはHDD*¹、"MGメモリスティック"*²に保存した後、本機にダウンロードし記憶することができます。サービスを開始するには下記のURLにアクセスし、画面上の指示に従って操作してください。

<http://www.alpine.co.jp> または <http://www.alpine.co.jp>

*¹ 別売のHDA-5460MSまたはHDA-5465MS接続時でSOUND SETUPデータのみ。

*² 別売のMDA-5060MSまたはMDA-5065MS接続時でSOUND SETUPデータのみ。

SOUND SETUPでダウンロードできるデータ

パラメトリックEQ	パラメトリックEQモードのPreset6にメモリーします。
タイムコレクション	タイムコレクションモードのPreset6にメモリーします。
ハイパスフィルター	ハイパスフィルターモードのPreset6にメモリーします。
サブウーハー	サブウーハー位相切りかえは、ダウンロードできるデータ中にはありません。ダウンロード直前のサブウーハー位相切りかえ設定をPreset6にメモリーします。

・ダウンロードデータのファイル名は、「A_U*****.MP3」です。

A_U*****.MP3
 ↳ 拡張子(固定)
 ↳ 識別子(任意の英数字、最大5文字)
 ↳ ヘッダー(固定)

ファイル名はWebサイト上で設定できます。ただし、それ以降に変更はしないでください。動作不良の原因となります。

BACKGROUNDでダウンロードできるデータ

・ダウンロードデータのファイル名は、「*****.apn」です。

ご自身で作成した壁紙を本機に表示させることはできません。



Memo

- ダウンロード手順については、ALPINEのWebサイトをご覧ください。
- 外部オーディオプロセッサを追加した場合、ダウンロードしたSOUND SETUPデータは使用できません。
- Joliet形式で書き込んだファイルは認識されませんので、それ以外のISO9660規格で書き込んでください。

SOUND SETUPデータのダウンロード

データダウンロードする場合は、GENERAL セットアップの「MP3/WMA 再生データの設定」を「MP3」に設定してください。

- 1 データが入っているCD-R/CD-RWディスクを挿入する。
すでにディスクが入っているときは、本体の「SOURCE/POWER」を押して[DVD PLAYER]にタッチする。



Memo

- 別売の*HDA-5460MS、HDA-5465MSまたはMDA-5060MS、MDA-5065MS接続時は、データが入っているHDDまたは"MGメモリスティック"をスリーブ製品に挿入後、本機でMM DRIVERメインソース画面を選んでから手順2~7の操作を行ってください。
* HDDまたは"MGメモリスティック"の選択が必要です。詳しくは、HDA-5460MS、HDA-5465MS取扱説明書の「アップロードメディアの選択」をご覧ください。

NVA-HD55Sをお使いのお客様へ

NVA-HD55Sに別売のHDA-5460MS、HDA-5465MSまたはMDA-5060MS、MDA-5065MSのいずれかを組み合わせることはできません。



- 2 [SETUP]にタッチする。
SETUP 選択画面に切りかわる。
- 3 [i-Personalize]にタッチする。
i-Personalize 画面に切りかわる。
- 4 DATA DOWNLOADの[>>]にタッチする。
- 5 SOUND SETUPの[>>]にタッチする。
ディスク内のデータサーチを開始し、データサーチ終了後、Data Download ファイル選択画面が表示される。



Memo

- データサーチでファイルが見つからない場合は、「NO FILE」と表示します。

(次ページへつづく)

- 6** ダウンロードするファイルの[>>]にタッチする。
データのダウンロードを開始する。
データのダウンロードが正常終了すると確認画面を5秒間表示し、ファイル選択画面に戻ります。

- **PARAMETRIC EQ : パラメトリック EQ データ**
パラメトリック EQ モードの Preset6 にメモリーされ、自動的に Preset6 の設定に変更されます。
- **TIME CORRECTION : タイムコレクションデータ**
タイムコレクションモードの Preset6 にメモリーされ、自動的に Preset6 の設定に変更されます。
- **HIGH PASS FILTER : ハイパスフィルターデータ**
ハイパスフィルターモードの Preset6 にメモリーされ、自動的に Preset6 の設定に変更されます。
- **SUBWOOFER : サブウーハーデータ**
ダウンロード直前に設定したサブウーハー位相の内容が Preset6 にメモリーされ、自動的に Preset6 の設定に変更されます。

- 7** [RETURN]にタッチすると、1 つ前の画面に戻る。
[CONTROL]にタッチすると、設定前のメインソース画面に戻る。



- 新たにダウンロードした場合は、上書きでメモリーされます。

MY BACKGROUND データのダウンロード

- 1** データが入っている CD-R/CD-RW ディスクを挿入する。
ディスクを認識後、DATA DOWNLOAD画面に切りかわる。
- 2** MY BACKGROUND の[◀]または[▶]にタッチして、**USERS1** または **USERS2** を選ぶ。
選択した方の壁紙を書きかえることができます。
- 3** MY BACKGROUND の[>>]にタッチする。
ディスク内のデータサーチを開始し、データサーチ終了後、Data Download ファイル選択画面が表示される。
- 4** [▲]または[▼]にタッチして、お好みのファイル名を選ぶ。
- 5** [MEMORY]にタッチする。
データのダウンロードを開始する。
データのダウンロードが正常終了すると、DATA DOWNLOAD 画面に戻ります。
- 6** [RETURN]にタッチすると、1 つ前の画面に戻る。
[CONTROL] にタッチすると、設定前のメインソース画面に戻る。



- 新たにダウンロードした場合は、上書きでメモリーされます。
- バッテリー電源コードを外した場合、ダウンロードしたデータは記憶されています。
- ダウンロードした壁紙は、「背景画面を切りかえる」(37ページ)や「オートバックグラウンドの設定」(38ページ)で呼び出すことができます。
- ダウンロード終了後は、ディスクを取り出してください。

外部オーディオプロセッサーの操作 (オプション)

外部オーディオプロセッサーと接続している場合は、本機から操作することができます。但し、接続するオーディオプロセッサーによって、操作できない場合もあります。ここでは、PXA-H700またはPXA-H701と接続した場合を例に説明します。接続しているオーディオプロセッサー側の取扱説明書も合わせてご覧ください。

- PXA-H510またはPXA-H900と接続している場合は、一部の操作が本機からできません。その場合は、PXA-H510またはPXA-H900側で操作を行ってください。
- MRA-D550と接続している場合は、SPEAKER SELECT、Bass Soundコントロール、グラフィックEQの設定はありません。MRA-F350と接続している場合は、さらにMXモードの設定もあります。また、設定値については、PXA-H700またはPXA-H701とは異なります。
- 設定の調整は、車を停止させてから行ってください。
- 接続しているオーディオプロセッサー側で調整/設定を行っているときは、本機から正しく操作することはできません。



ドルビーサラウンドの調整手順

ドルビーデジタルやDTSサウンドをより正確に再現するには下記調整を行ってください。

<調整手順>

- 1 **スピーカーセットアップ (P55)**
使用するスピーカーの有無または、特性を設定します。
- 2 **スピーカーレベルを調整する (P57)**
各スピーカーへの信号出力レベルを調整します。
- 3 **リアに低域音声をミキシングする (P56)**
リアスピーカーにフロントの音声信号をミキシングすることで後部座席でも聴きやすくさせることができます。
- 4 **音像を調整する (P56)**
センタースピーカーが真正面にあるように音像を調整します。
- 5 **迫力のある大音量再生を楽しむには (P56)**
必要に応じて、更に迫力のある「映画館のようなエネルギー感」を楽しむことができます。
- 6 **DVDレベルを調整する (P57)**
ドルビーデジタル/PRO LOGIC II/DTS/PCMそれぞれのモードでの音量信号レベルを調整します。
- 7 **設定した内容を記憶する (P57)**
上記の内容に限らず本機で設定/調整した内容を全て記憶させることができます。

- 自動調整などと組み合わせて使用する場合は、ドルビーサラウンドの調整前に行うことをお勧めします。

スピーカーの設定をする

- 1 ディフュースがOFFであることを確認する。(25ページ参照)
- 2 各メインソース画面の [SETUP] にタッチする。
SETUP 選択画面が表示される。
- 3 [i-Personalize] にタッチする。
i-Personalize 画面に切りかわる。
- 4 A.PROCESSORの [➤] にタッチする。
A.PROC リスト画面が表示される。
- 5 SPEAKER SELECTの [➤] にタッチする。
SPEAKER SELECT 画面に切りかわる。
- 6 接続しているスピーカーの [◀]、[▶] または [ON]、[OFF] にタッチしてスピーカーの設定をする。
FRONT1 : OFF/FULL (Full Range)/
TW (Tweeter)
FRONT2 : OFF/ON
REAR : OFF/ON
CENTER : OFF/ON
SUBWOOFER : OFF/MONO/STEREO
- 7 [RETURN] にタッチすると、1つ前の画面へ戻る。



Memo

- 接続していないスピーカーはOFFに設定する。
- 「スピーカーセットアップ」(55ページ)で設定したスピーカーがOFFの状態でも上記設定はできます。
- PXA-H700またはPXA-H701接続時、サブウーハーをMONOで使用する時には、PXA-H700またはPXA-H701側のサブウーハー出力端子へサブウーハーを接続してください。

外部オーディオプロセッサのMX モードを設定する

PXA-H700 接続時は、PXA-H700 側のMX(Media Xpander)モードの設定を「AUTO」にしてから下記操作を行ってください。

1 ディフイットがOFFであることを確認する。(25ページ参照)

2 各メインソース画面の【SETUP】にタッチする。
SETUP 選択画面が表示される。

3 [i-Personalize] にタッチする。

4 MEDIA XPANDERの【ON】または【OFF】にタッチして、MXのON/OFFを選ぶ。
OFF：すべての音楽ソースのMX効果がOFFになる。
ON：設定したMXモードをONにする。

5 ON設定後、【>>】にタッチする。
MediaXpander 設定画面に切りかわる。

6 お好みのMXモードの【◀】または【▶】にタッチする。
● 音楽ソース（AM ラジオを除くラジオ/CD など）についてのレベルが調整できる。

MX CD (OFF、CD MX1～3)

情報量豊富なCD。その情報量を活かしたメリハリのある音を再生する。

MX COMPRESS MEDIA (OFF、CMPM MX1～3) / MX FM (OFF、FM MX1～3)

こもりがちな中高域の音をよりクリアにし、全帯域にバランスのとれた音を再生する。

MX MD (OFF、MD MX1～3)

圧縮時に欠落された情報を補正し、原音に近いバランスのとれた音を再生する。

MX DVD

(OFF、MOVIE MX1～2)

映画ディスクのセリフ部分をより鮮明に再生する。

(DVD MUSIC)

ミュージッククリップなどの情報量豊富なディスク。その情報量を活かし、メリハリのある音を再生する。

MX AUX (OFF、CMPM MX、MOVIE MX、MUSIC MX)

接続するメディアに対応したMXモード
(CMPM、MUSIC、MOVIE) が選べる。

7 [RETURN] にタッチすると、1つ前の画面へ戻る。



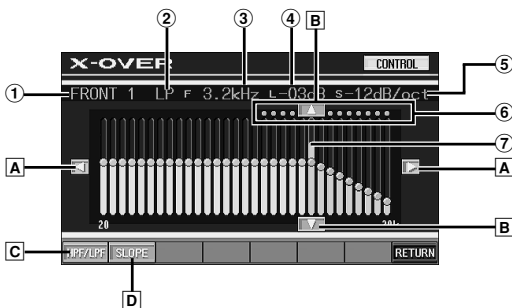
Memo

- ここで設定した内容は、PXA-H700またはPXA-H701側のMXモードに反映されます。
- OFFに設定すると各MXモードのMX効果がOFFになります。
- ラジオ/CD/MP3などの各音楽ソースごとに設定することができます。
- M P 3 / W M A、M M D モード時は「M X COMPRESS MEDIA」に割りあてられます。
- 現在選んでいるソースのみMX設定が可能です。

X-OVER の調整

- 1 ディフティートがOFFであることを確認する。
- 2 各メインソース画面の【SETUP】にタッチする。
SETUP 選択画面が表示される。
- 3 [i-Personalize] にタッチする。
i-Personalize 画面に切りかわる。
- 4 A.PROCESSOR の[>>]にタッチする。
A.PROC リスト画面が表示される。
- 5 X-OVER の[◀]または[▶]にタッチして、L/R または L + R を選ぶ。
L/R : チャンネルL/Rで独立した調整値に設定できる。
L + R : チャンネルL/Rで同じ調整値に設定される。
- 6 X-OVER の[>>]にタッチする。
- 7 設定したいスピーカーの[>>]にタッチする。
X-OVER 調整画面に切りかわる。
- 8 お好みで調整する。

< X-OVER (LPF) 調整画面例 >



- ① 現在選択しているスピーカー（チャンネル）を表示
- ② 選択している HP または LP を表示
- ③ 現在選択しているカットオフ周波数を表示
- ④ 現在選択している HPF または LPF のレベルを表示
- ⑤ 現在選択している HPF または LPF のスロープ値を表示
- ⑥ 選択しているカットオフ周波数の可変範囲がオレンジ色で表示される。
- ⑦ 現在選択しているカットオフ周波数のレベル可変範囲がオレンジ色で表示される。

[カットオフ周波数を選ぶ]

- A [◀]または[▶]にタッチして、カットオフ周波数（クロスオーバーポイント）を選ぶ。
調整できる帯域はスピーカー（チャンネル）によって異なる。

[レベルの調整]

- B [▲]または[▼]にタッチして、HPFまたはLPFのレベルを調整する。

[HPF/LPF の切りかえ]

- C [HPF/LPF]をタッチすることによりHPF/LPFが切りかわる。

HPF: 設定した周波数より上の周波数帯域を出力する。

LPF: 設定した周波数より下の周波数帯域を出力する。

本機のサブウーハー出力を OFF に設定した場合、LPF 機能は使用できません。

[スロープの調整]

- D [SLOPE]にタッチして、HPFまたはLPFのスロープを調整する。

[レベル / カットオフ周波数をダイレクトに調整する]

レベル / カットオフ周波数の可変範囲内にタッチすると、タッチした場所にレベル、カットオフ周波数が移動する。



Memo

- LOADING中に表示される[CANCEL]にタッチする、または接続しているオーディオプロセッサ側で操作した場合は、LOADING動作を中止し、中止前までの変更値が表示される。
- 設定内容によっては、LOADING時間が長くなる場合がありますが、故障ではありません。

- 9 [RETURN] にタッチすると、1 つ前の画面へ戻る。



Memo

- スピーカーがOFFモードの時は、そのスピーカーのX-OVERは設定できません。「スピーカーの設定をする」(49ページ)を参照してください。
- 調整は、接続するスピーカーの再生周波数を確認して調整してください。
- スピーカーを保護するためサブウーハー-L.P.F.でのフィルターOFF(スロープOFF)設定はありません。
- FRONT 1でTweeterを選択している場合は、H.P.F.でのフィルターOFF(スロープOFF)設定はできません。また、サブウーハーがSTEREOに選択している場合は、サブウーハーの調整内容になります。

手動で時間補正を行う (TCR)

車という特殊な条件下であるため、リスニングポジションとそれぞれのスピーカーの距離に大きなばらつきがあります。自分で補正値を算出してリスニングポジションでの時間差を取り除く時にこの機能を使います。

【時間補正】

- 1 ディフティットがOFFであることを確認する。
- 2 リスニングポジション (運転席など) に座り、頭の位置と各スピーカーの距離 (m) を測定する。
- 3 一番遠いスピーカーの距離とその他のスピーカーの距離の差を算出する。

$$L = (\text{一番遠いスピーカーの距離}) - (\text{それぞれのスピーカーの距離})$$
- 4 スピーカーごとに算出した距離を音速(343m/s 気温20℃)で割る。その値が各スピーカーの時間補正値となる。

・ 計算式

$$\frac{(\text{一番遠いスピーカーの距離} - \text{算出したいスピーカーの距離}) \times 1000}{343}$$

= 時間補正値 (この数値を手動で入力してください。)

● 具体例

下記イラストのフロント右側スピーカーの時間補正値を算出する。

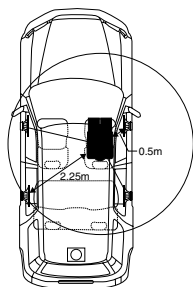
(条件) :

一番遠いスピーカー～リスニングポジション : 2.25m
 フロント右側スピーカー～リスニングポジション : 0.5m

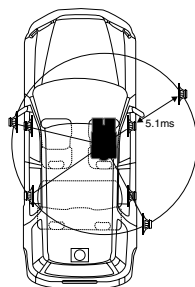
(算出) : $L = 2.25\text{m} - 0.5\text{m} = 1.75\text{m}$

補正時間 = $1.75 \div 343 \times 1000 = 5.1 \text{ (ms)}$

つまり、フロント右側スピーカーの時間補正値に5.1 (ms) 与えることで、見かけの距離を持たせて、一番遠いスピーカーと距離を一致させる。



リスニングポジションと各スピーカーまでの距離が違うために偏った音 (不明瞭な音) になる。
 右前スピーカーと左後スピーカーでは1.75mの差がある。



時間補正により到達時間差が解消される。
 右前スピーカーに5.1msの時間補正を行い、リスニングポイントとスピーカーまでの距離の整合をとることができる。

- 5 各メインソース画面の [SETUP] にタッチする。
 SETUP 選択画面が表示される。
- 6 [i-Personalize] にタッチする。
 i-Personalize 画面に切りかわる。
- 7 A.PROCESSOR の[>>]にタッチする。
 A.PROC リスト画面が表示される。
- 8 T.CORR の[◀] または [▶] にタッチする。
 L/R または L + R を選ぶ。
 L/R : チャンネルL/Rで独立した調整値に設定できる。
 L + R : チャンネルL/Rで同じ調整値に設定される。
- 9 T.CORR の[>>]にタッチする。
 T-CORR. 調整画面に切りかわる。
- 10 設定したいスピーカーの[◀] または [▶] にタッチして、時間補正値 (0.0 ~ 20.0ms) を調整する。
 (1step=0.05ms)
- 11 [RETURN] にタッチすると、1つ前の画面へ戻る。



Memo

- スピーカーがOFFモードの時は、そのスピーカーのTCRは設定できません。「スピーカーの設定をする」(49ページ)を参照してください。
- タイムコレクション(時間補正)でのFRONT 2スピーカーの調整値は、「Bass Focusの設定」(55ページ)のFRONTスピーカーにも反映されます。
- 自動調整(AUTO TCR)は本機では操作できません。

位相切りかえ

- 1 ディフティットがOFFであることを確認する。(25ページ参照)
- 2 各メインソース画面の [SETUP] にタッチする。
 SETUP 選択画面が表示される。
- 3 [i-Personalize] にタッチする。
 i-Personalize 画面に切りかわる。
- 4 A.PROCESSOR の[>>]にタッチする。
 A.PROC リスト画面が表示される。
- 5 PHASE の[>>]にタッチする。
 PHASE 調整画面に切りかわる。
- 6 設定したいスピーカーの[◀] または [▶] にタッチして、位相 (0° または 180°) を切りかえる。
- 7 [RETURN] にタッチすると、1つ前の画面に戻る。

グラフィックEQの調整

フロント（L/R）／リア（L/R）／センター独立で31バンド、サブウーハーは10バンドのレベル調整を行えますので、思い通りの音場を再現することができます。

1 ディフィートがOFFであることを確認する。

2 各メインソース画面の【SETUP】にタッチする。
SETUP 選択画面が表示される。

3 [i-Personalize] にタッチする。
i-Personalize 画面に切りかわる。

4 A.PROCESSOR の[>>]にタッチする。
A.PROC リスト画面が表示される。

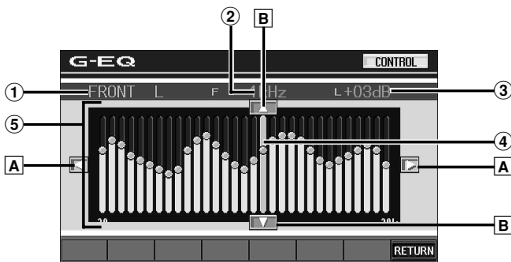
5 G-EQ の[◀] または [▶] にタッチして、L / RまたはL + Rを選ぶ。
L/R : チャンネルL/Rで独立した調整値に設定できる。
L + R : チャンネルL/Rで同じ調整値に設定される。
•パラメトリックEQの調整を行うとOFFになる。

6 G-EQ の[>>]にタッチする。
G-EQ リスト画面に切りかわる。

7 設定したいスピーカー（チャンネル）の [>>] にタッチする。
G-EQ 調整画面が切りかわる。

8 お好みで調整する。

< G-EQ 調整画面例 >



- ① 現在選択しているスピーカー（チャンネル）を表示
- ② 現在選択している周波数を表示
- ③ 現在選択している周波数のレベルを表示
- ④ アクティブバー：現在選択している周波数のレベル可変範囲をオレンジ色で表示する。
- ⑤ 設定可変範囲

[周波数の調整]

A [◀]または[▶]にタッチして、周波数を調整する。

[レベルの調整]

B [▲]または[▼]にタッチして、レベルを調整する。

[カーブをダイレクトに描く]

設定可変範囲内のいずれかにタッチすると、タッチした場所にアクティブバーが移動する。

また、設定可変範囲内でタッチしながらカーブを描くと、描いたカーブが表示される。



Memo

- LOADING中に表示される[CANCEL]にタッチする、または接続しているオーディオプロセッサ側で操作した場合はLOADING動作を中止し、中止前までの変更値が表示される。
- 設定内容によっては、LOADING時間が長くなる場合がありますが故障ではありません。

9 [RETURN] にタッチすると、1 つ前の画面に戻る。



Memo

- スピーカーがOFFモードの時は、そのスピーカーのグラフィックEQは設定できません。「スピーカーの設定をする」(49ページ)を参照してください。
- イコライザーの調整は、接続するスピーカーの再生周波数を確認して調整してください。スピーカーの再生周波数が「55Hz～30kHz」の場合、40Hzや20Hzのレベル調整を行っても効果がない場合もあります。
- グラフィックEQの調整を行うと、パラメトリックEQでの調整は無効になります。

パラメトリックEQの調整

グラフィックEQでは隣接する帯域まで変化するため、ピーク（山）やディップ（谷）での急峻な特性の乱れをスポット的に補正するには限界があります。パラメトリックEQは、中心周波数、Q（帯域幅）、レベルがそれぞれ任意に調整可能ですので、狙った帯域だけを微妙に調整することができます。高度で本格的な補正、音創りを行うにはこのパラメトリックEQが有効なのです。

1 ディフィートがOFFであることを確認する。

2 各メインソース画面の[SETUP]にタッチする。
SETUP 選択画面が表示される。

3 [i-Personalize]にタッチする。
i-Personalize 画面に切りかわる。

4 A.PROCESSORの[>>]にタッチする。
A.PROC リスト画面が表示される。

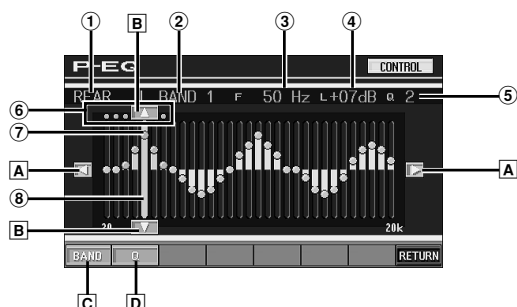
5 P-EQの[◀]または[▶]にタッチして、L/RまたはL+Rを選ぶ。
L/R： チャンネルL/Rで独立した調整値に設定できる。
L+R： チャンネルL/Rで同じ調整値に設定される。
・グラフィックEQの調整を行うとOFFになる。

6 P-EQの[>>]にタッチする。
P-EQ リスト画面に切りかわる。

7 設定したいスピーカー（チャンネル）の[>>]にタッチする。
P-EQ 調整画面に切りかわる。

8 お好みで調整する。

< P-EQ 調整画面例 >



- ① 現在選択しているスピーカー（チャンネル）を表示
- ② 現在選択しているバンドを表示
- ③ 現在選択しているバンドの中心周波数を表示
- ④ 現在選択しているバンドのレベルを表示
- ⑤ 現在選択しているバンドのバンド幅（Q）を表示

- ⑥ 選択しているバンドの中心周波数の可変範囲
- ⑦ アクティブポイント：現在選択しているバンドの中心周波数とレベルの位置を表示
- ⑧ アクティブバー：現在選択しているバンドのレベル可変範囲がオレンジ色で表示される。

[周波数を調整する]

A [◀]または[▶]にタッチして、選択しているバンドの周波数を調整する。

[レベルを調整する]

B [▲]または[▼]にタッチして、選択しているバンドのレベルを調整する。

[バンドを選ぶ]

C [BAND]をタッチすることによりバンド（BAND1～BAND5）が切りかわる。

アクティブバーと中心周波数の可変範囲は、バンドにあわせて移動する。

- 現在選択しているバンドの可変範囲外にタッチすると、タッチした場所のバンドにアクティブバーが移動し、その場所のバンドを調整することができます。

[バンド幅を設定する]

D [Q]をタッチすることによりバンド幅が切りかわる。

[レベル/周波数をダイレクトに調整する]

アクティブポイントにタッチしながらお好みの場所へ移動し、設定を変化させる。

または、お好みの場所にタッチすると アクティブポイントがそのタッチした場所へ移動する。



- LOADING中に表示される[CANCEL]にタッチする、または接続しているオーディオプロセッサ側で操作した場合はLOADING動作を中止し、中止前までの変更値が表示される。
- 設定内容によっては、LOADING時間が長くなる場合がありますが故障ではありません。

9 [RETURN]にタッチすると、1つ前の画面へ戻る。



- スピーカーがOFFモードのときは、そのスピーカーのパラメトリックEQは設定できません。「スピーカーの設定をする」(49ページ)を参照してください。
- 隣り合うバンドの周波数は7ステップ以内に調整することはできません。
- イコライザーの調整は、接続するスピーカーの再生周波数を確認して調整してください。スピーカーの再生周波数が「55Hz～30kHz」の場合、40Hzや20Hzのレベル調整を行っても効果がない場合もあります。
- パラメトリックEQの調整を行うと、グラフィックEQでの調整は無効になります。

Bass Sound コントロールの設定

- 1 ディフティートがOFFであることを確認する。(25 ページ参照)
- 2 各メインソース画面の【SETUP】にタッチする。
SETUP 選択画面が表示される。
- 3 [i-Personalize] にタッチする。
i-Personalize 画面に切りかわる。
- 4 A.PROCESSOR の[>>]にタッチする。
A.PROC リスト画面が表示される。
- 5 BASS SOUND CONT. の[>>]にタッチする。
Bass Sound Cont. 調整画面に切りかわる。

Bass Compressor の設定

低音域の音質をお好みに調整することができます。

- 6 BASS COMP. の[◀] または [▶] にタッチして、お好みのモードを選ぶ。
MODE1 → 2 → 3 になるにつれて低音域を強め、より迫力のある音が楽しめる。
設定しないときは、「OFF」を選ぶ。



- [RETURN] にタッチすると、1 つ前の画面へ戻る。

Bass Focus の設定

あらかじめ設定されているステップ値(時間差)を使用することで、前後/左右同時に時間差が設定でき、感覚的に時間補正を調整することができます。ステップは、0.05ms 間隔で 0 ~ 400 ステップ用意しています。

- 6 設定したいスピーカーの[◀] または [▶] にタッチして、前後/左右のステップを設定する。



- Bass Focus での設定はタイムコレクション(時間補正)にも反映されます。
- [RETURN] にタッチすると、1 つ前の画面へ戻る。

スピーカーセッティングアップ

お使いになるスピーカーの再生周波数帯域に応じて、PXA-H700 または PXA-H701 を設定することができます。この操作を行う前に、各スピーカー(サブウーハー以外)の再生周波数帯域を調べて低音再生が可能かを確認してください。(80Hz 以下が目安です)



- 本設定、調整中は、本機側でストップ/ポーズ(一時停止)/ディスク交換/曲の頭出し/早送り/音声切りかえなどの操作は行わないでください。デコード状態が切りかわると設定が解除されます。

- 1 ディフティートがOFFであることを確認する。
- 2 各メインソース画面の【SETUP】にタッチする。
SETUP 選択画面が表示される。
- 3 [i-Personalize] にタッチする。
i-Personalize 画面に切りかわる。
- 4 A.PROCESSOR の[>>]にタッチする。
A.PROC リスト画面が表示される。
- 5 SPEAKER SETUP の[>>]にタッチする。
SPEAKER SETUP 調整画面に切りかわる。
- 6 設定したいスピーカーの[◀]、[▶] または [ON]、[OFF] にタッチしてスピーカー特性を選ぶ。

- OFF*¹ : スピーカーを接続していない場合
SMALL : 低域 (80Hz 以下) が再生できないスピーカーを接続している場合
LARGE*² : 低域 (80Hz 以下) が再生できるスピーカーを接続している場合

*¹ フロントスピーカーは、OFF にはできません。

*² フロントスピーカーが SMALL のときはリアスピーカーとセンタースピーカーを LARGE にできません。



- サブウーハーは、ON/OFF のみの設定になります。
- センタースピーカーを OFF にすると、フロントスピーカーから出力される音声信号に、センターの音声信号をプラスします。
- スピーカー特性を OFF に設定した場合はスピーカー設定も OFF に設定してください。(49 ページ参照)
- セットアップは「フロント」「センター」「リア」「サブウーハー」の全てを行ってください。セットアップを行わなかった場合は「フロント」「センター」「リア」「サブウーハー」のバランスが崩れることがあります。
- センターを OFF に設定した場合は、この機能で「センター」の設定を行っても効果がありません。
- 各スピーカーの設定を変更すると、その設定条件により変更したスピーカー以外の出力も変化することがあります。
- PRO LOGIC II でご使用の場合、リアスピーカーを「LARGE」に設定するとサブウーハーは出力されません。
- [RETURN] にタッチすると、1 つ前の画面へ戻ります。

ドルビーデジタルを設定する

- 1 ディフューズがOFFであることを確認する。
- 2 各メインソース画面の[SETUP]にタッチする。
SETUP 選択画面が表示される。
- 3 [i-Personalize]にタッチする。
i-Personalize 画面に切りかわる。
- 4 A.PROCESSORの[>>]にタッチする。
A.PROC リスト画面が表示される。
- 5 MULTI CH SETUPの[>>]にタッチする。
MULTI CH SETUP 調整画面に切りかわる。
お好みで下記項目を調整してください。

音像を調整する

臨場感ある音を再現するには、センタースピーカーをリスニングポジションの真正面に置かなくてはなりません。この機能で仮想的に、センタースピーカーの音を両サイドに振り分けることにより、センタースピーカーが真正面にあるような音像を作り出すことができます。(「PRO LOGIC IIを使う」(58ページ)で「PL II MUSIC」を選択し、センター幅の調整機能が動作中は、この機能で調整を行っても効果がありません。)



- 本設定、調整中は、本機側でストップ／ポーズ(一時停止)／ディスク交換／曲の頭出し／早送り／音声切りかえなどの操作は行わないでください。デコード状態が切りかわると設定が解除されます。
- [RETURN]にタッチすると、1つ前の画面へ戻ります。

BI-PHANTOMの[◀]または[▶]にタッチして、レベルを調整する。
レベルは-5～+5まで調整でき、レベルが大きくなると、音像はセンタースピーカーの位置から両サイドに移る。
[OFF]にタッチすると、BI-PHANTOM機能はOFFになる。



- スピーカーセットアップでセンタースピーカーの設定を「SMALL」や「LARGE」にすると効果が得られます。
- 「スピーカーの設定をする」(49ページ)にて、設定したスピーカーがCENTERでOFFの時には、効果はありません。
- [RETURN]にタッチすると、1つ前の画面へ戻ります。
- 本機設定後のDVD再生時は、その性質上、他のソースよりも音楽信号レベルが低下しますが故障ではありません。「DVDレベルを調整する」(57ページ)でレベル調整を行ってください。

リアに低域音声をミキシングする

リアスピーカーから出力される音声信号に、フロントの音声信号をミキシングします。
後部座席でより聴きやすくなります。



- 本設定、調整中は、本機側でストップ／ポーズ(一時停止)／ディスク交換／曲の頭出し／早送り／音声切りかえなどの操作は行わないでください。デコード状態が切りかわると設定が解除されます。

REAR MIXの[◀]または[▶]にタッチして、レベルを調整する。
レベルは-6、-3、0、+3、+6まで調整できる。レベルが大きくなると、リアスピーカーから出力される低域の音声が増加する。(効果は、DVDなどのソフトによって異なる。)
[OFF]にタッチするとREAR MIX機能はOFFになる。



- スピーカーセットアップの設定がリア「OFF」の時は調整を行っても効果がありません。
- リニアPCM信号の場合は、REAR FILLやREAR MIXの設定に関わらずリアスピーカーから音声出力されます。
- [RETURN]にタッチすると、1つ前の画面へ戻ります。

迫力のある大音量再生を楽しむには

ドルビーデジタルでは通常の音量で充分な迫力が楽しめるように「ダイナミックレンジ」が圧縮されています。この圧縮を解除することにより、更に迫力のある「映画館のようなエネルギー感」のある音を楽しむことができます。



- この機能は、ドルビーデジタルの場合のみ有効です。

LISTENING MODEの[◀]または[▶]にタッチして、STDまたはMAXを選ぶ。
STD：通常の音量で迫力のある音を楽しむとき
MAX：大音量で迫力のある音を楽しむとき



- 車外の音が聞こえる音量でお使いください。
- DVDソフトなどのソースの種類によっては効果がないものがあります。
- [RETURN]にタッチすると、1つ前の画面へ戻ります。

スピーカーレベルを調整する

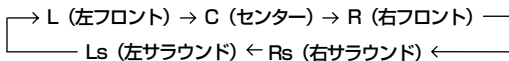
本機から出力されるテストトーンで各スピーカーの音量が同じ大きさになるように調整します。各スピーカーの音量をリスニングポジションにおいて同じ大きさに調整することで高い臨場感が得られます。



● 本設定、調整中は、本機側でストップ／ポーズ（一時停止）／ディスク交換／曲の頭出し／早送り／音声切りかえなどの操作は行わないでください。デコード状態が切りかわると設定が解除されます。

1. OUTPUT LEVEL の [ON] にタッチする。

テストトーンが各スピーカーチャンネル順に繰り返し出力される。
チャンネルは2秒間何も操作を行わないと次のチャンネルに移行する。



2. 各スピーカーからテストトーンが鳴っているときに OUTPUT LEVEL の [◀] または [▶] にタッチして、それぞれの音量が同じになるように出力レベルを調整する。

- 各スピーカーは -10dB ~ +10dB の範囲で調整できる。
- フロントスピーカーを基準に調整を行ってください。



● スピーカーが「OFFモード」のときは、そのスピーカーのレベル調整はできません。「スピーカーセットアップ」(55ページ)を参照してください。
● 設定を終了させるには [RETURN] にタッチしてください。

DVD レベルを調整する

ドルビーデジタル/DOLBY PL II/DTS/PCM それぞれのモードでの音量信号レベルを設定することができます。



● 本設定、調整中は、本機側でストップ／ポーズ（一時停止）／ディスク交換／曲の頭出し／早送り／音声切りかえなどの操作は行わないでください。デコード状態が切りかわると設定が解除されます。

1 ディフィートが OFF であることを確認する。(25 ページ参照)

2 各メインソース画面の [SETUP] にタッチする。 SETUP 選択画面が表示される。

3 [i-Personalize] にタッチする。 i-Personalize 画面に切りかわる。

4 A.PROCESSOR の [➤] にタッチする。 A.PROC リスト画面が表示される。

5 DVD LEVEL の [➤] にタッチする。 DVD LEVEL リスト画面に切りかわる。

6 調整したいモードの [◀] または [▶] にタッチして、レベルを調整する。 レベルは、-5 ~ +5 の範囲内で調整できる。



● [RETURN] にタッチすると、1つ前の画面へ戻ります。

設定した内容を記憶する

調整／設定した内容を記憶することができます。但し、組み合わせるオーディオプロセッサーにより、記憶できる内容は異なります。

1 ディフィートが OFF であることを確認する。

2 A.PROC リスト画面上の [MEMORY] にタッチする。

3 5 秒以内に A.PROC リスト画面上の [P.SET1] ~ [P.SET6] のいずれかにタッチする。 設定した内容が記憶される。



● 記憶した内容はバッテリー電源コードを外したときでも消去されません。
● [RETURN] にタッチすると、1つ前の画面へ戻ります。

記憶した内容呼び出す

1 ディフィートが OFF であることを確認する。

2 A.PROC リスト画面上の [P.SET1] ~ [P.SET6] のいずれかにタッチして、呼び出したいプリセットメモリーを選ぶ。



● 記憶したプリセットメモリーを呼び出すには、多少時間がかかります。

PRO LOGIC II を使う

2チャンネルで録音された音楽信号にプロロジック処理を行い、DOLBY PRO LOGIC II サラウンドとして楽しむことができます。また、2チャンネルのドルビーデジタル、DTS 信号の場合は、リアにフロントの信号を出力する「REAR FILL」を使用することができます。

- 1 ディフューザーがOFFであることを確認する。(25 ページ参照)
- 2 各メインソース画面の [SETUP] にタッチする。
SETUP 選択画面が表示される。
- 3 [i-Personalize] にタッチする。
i-Personalize 画面に切りかわる。
- 4 A.PROCESSOR の [≫] にタッチする。
A.PROC リスト画面が表示される。
- 5 DOLBY PLII/REAR FILL の [≫] にタッチする。
DOLBY PLII/REAR 調整画面に切りかわる。
- 6 DOLBY PLII/REAR の [◀] または [▶] にタッチして、お好みのモードを選ぶ。

PL II MOVIE : ステレオ TV ショーやドルビーサラウンドでエンコードされたすべてのプログラムに向いています。その効果はディスクリート 5.1 チャンネルサウンドの質に迫る音場指向性の改善です。

PL II MUSIC : あらゆるステレオ音楽録音で用いられ、広く深い音場を確保できます。

OFF : DOLBY PL II 機能を OFF にする。

※ 「PL II MUSIC」を選んだ場合は、以下の操作ですらにセンター幅の調整が行えます。
この機能はセンターチャンネル定位をセンタースピーカーと L/R スピーカーとの間に調整することにより、最良のボーカル定位を提供します。(この機能の動作中は「音像を調整する」(56 ページ)で調整を行っても効果がありません。)

CENTER WIDTH CONT を選ぶ

CENTER WIDTH CONT の [◀] または [▶] にタッチして、レベルを調整する。

レベルは 0 ~ 7 まで調整でき、レベルが大きくなるとセンターチャンネル定位はセンタースピーカーの位置から両サイドに移る。

- CENTER WIDTH CONT の [OFF] にタッチすると、CENTER WIDTH CONT 機能は OFF になる。

Memo

- スピーカーセットアップでセンタースピーカーの設定を「SMALL」や「LARGE」にすると効果が得られます。
- REAR FILL について
入力信号によっては、音の出力がフロントスピーカーのみの場合があります。このとき REAR FILL を使用することでリアスピーカーからも音を出力させることができます。
- 本設定、調整中は、本機側でストップ/ポーズ(一時停止)/ディスク交換/曲の頭出し/早送り/音声切りかえなどの操作は行わないでください。デコード状態が切りかわると設定が解除されます。
- 「スピーカーの設定をする」(49 ページ)にて、設定したスピーカーが CENTER で OFF の時には、効果はありません。
- この機能は 2 チャンネル信号のみ有効です。DTS やドルビーデジタルの 5.1 ch 信号が入力されたときは効果がありません。
- REAR MIX が ON のときに REAR FILL の設定を行った場合、リニア PCM 以外の 2 チャンネルデコード中は REAR MIX を優先させますので、REAR FILL 設定での音の変化はありません。
- リニア PCM 信号の場合は、REAR FILL や REAR MIX の設定に関わらずリアスピーカーから音声出力されます。
- [RETURN] にタッチすると、1 つ前の画面へ戻ります。

リニア PCM の設定

リニア PCM で記憶されたディスクの再生時の出力を 2ch または 3ch に設定することができます。

- 1 デフィートが OFF であることを確認する。
- 2 各メインソース画面の [SETUP] にタッチする。
SETUP 選択画面が表示される。
- 3 [i-Personalize] にタッチする。
i-Personalize 画面に切りかわる。
- 4 A.PROCESSOR の[>>]にタッチする。
A.PROC リスト画面が表示される。
- 5 PCM MODE の[◀] または [▶] にタッチして、2CH または 3CH を選ぶ。
2CH : 2ch 出力 (L/R)
3CH : 3ch 出力 (L/R/CENTER)



- 「スピーカーの設定をする」(49ページ)にて、設定したスピーカーがCENTERでOFFの時には、効果はありません。
- [RETURN]にタッチすると、1つ前の画面へ戻ります。

HDD/MD/MS プレーヤー操作 (オプション)

HDD/MD/ “MG メモリースティック” の曲を聴く

当社の HDD/MD/MS プレーヤー製品と接続した場合は、本機から操作することができます。

- 1 各メインソース画面上の [SOURCE] にタッチする。
ソース選択画面が表示される。
- 2 [MM DRIVER] にタッチする。
MM DRIVER モードメイン画面に切りかわる。
- 3 [BAND] にタッチして、モードを切りかえる。
MD/MS プレーヤー：MD モード / “MG メモリースティック” モードを切りかえる。
HDD/ MS プレーヤー：HDD モード / “MG メモリースティック” モードを切りかえる。
・NVA-HD55S と組み合わせている場合には、手順 3 の操作はありません。
- 4 [◀◀] または [▶▶] にタッチして、聴きたい曲を選ぶ。
・ 曲の頭出し・・・ [◀◀] または [▶▶] にタッチする。
・ 曲の早送り / 早戻し・・・ [◀◀] または [▶▶] にタッチし続ける。
- 5 演奏を一時停止するときは、[▶||] にタッチする。
再度 [▶||] にタッチすると、演奏が再開する。



- HDA-5460MS、HDA-5465MS または MDA-5060MS、MDA-5065MS と接続した場合のリッピング方法については、
 - ・ HDA-5460MS、HDA-5465MS 取扱説明書「CDの曲をHDD/“MGメモリースティック”に録音する」
 - ・ MDA-5060MS、MDA-5065MS 取扱説明書「CDの曲を“MGメモリースティック”に録音する」
 をご覧ください。

NVA-HD55Sをお使いのお客様へ

NVA-HD55Sに別売のHDA-5460MS、HDA-5465MSまたはMDA-5060MS、MDA-5065MSのいずれかを組み合わせることはできません。



ナビゲーション画面に切りかえる (オプション)

ナビゲーションモードにする

当社のナビゲーション製品が接続されている場合、本機にナビゲーション画面を表示させることができます。

また、ナビゲーション側の電源が ON の状態ならば、ナビゲーションの映像と音声が入ります。(設定については、ナビゲーションの取扱説明書を参照してください。)

1 各メインソース画面の [SOURCE] にタッチする。

ソース選択画面が表示される。

2 [NAV.] にタッチする。

ナビゲーション画面が表示される。

ナビゲーション付属リモコンで操作を行う。

詳しい操作については、ナビゲーション側の取扱説明書をご覧ください。



- 「VISUALタッチスイッチの設定」(36ページ)で、NAV.を設定していれば、ナビゲーション画面に切りかわります。
- メインメニュー画面上で、ナビゲーションモードが表示されない場合は、「ナビゲーションモードを設定する」(35ページ)のNAV. INをONに設定してください。
- タッチパネル対応ナビゲーションと接続している場合の操作については、ナビゲーション側の取扱説明書をご覧ください。

AUX 操作 (オプション)

AUX (外部入力) モードにする

外部機器 (ビデオデッキなど) を接続した場合にご使用ください。

1 各メインソース画面の [SOURCE] にタッチする。

ソース画面が表示される。

2 [AUX]* にタッチする。

外部入力画面が表示される。



* 外部入力に表示名をつける (36ページ) で表示名をつけた名称がソース名として表示される。

- メインメニュー画面上で、AUXモードが表示されない場合は、「AUXモードを設定する」(35ページ)のAUX INをONに設定してください。
- [WIDE]にタッチすると、表示モードが切りかわります。
操作については、「表示モードを切りかえる」(27ページ)をご覧ください。

地上デジタルテレビ操作 (オプション)

アルパイン製地上デジタルテレビチューナーの一部の操作を、本機から行うことができます。
接続するテレビチューナーの取扱説明書も参照してください。

- 外部入力の入力名をDTVに設定してください。(「外部入力に表示名をつける」36ページ参照)

地上デジタルテレビモードにする

- 1 各メインソース画面上の[SOURCE]にタッチする。
ソース選択画面が表示される。
- 2 [DTV]にタッチする。
DTV モードメイン画面に切りかわる。

チャンネルを選ぶ

手動でチャンネルを選びます。

- 1 [TUNE]にタッチして、チャンネル選択[◀ CH DN]、[CH UP ▶]を表示させる。
[TUNE]にタッチすることに表示がかわる。

◀ CH DN

CH UP ▶

チャンネル選択

↑↓

◀ P. DN

P. UP ▶

プリセット選択
- 2 [◀ CH DN]または[CH UP ▶]にタッチする。
 ◀ CH DN : チャンネルが1つずつダウンする。
 押し続けると、連続して変化する。
 CH UP ▶ : チャンネルが1つずつアップする。
 押し続けると、連続して変化する。

登録したチャンネルを呼び出す

あらかじめプリセット番号にチャンネルが登録されている場合に、呼び出すことができます。

- 1 [TUNE]にタッチして、プリセット選択[◀ P. DN]、[P. UP ▶]を表示させる。
[TUNE]にタッチすることに表示がかわる。

◀ CH DN

CH UP ▶

チャンネル選択

↑↓

◀ P. DN

P. UP ▶

プリセット選択
- 2 [◀ P. DN]または[P. UP ▶]にタッチする。
 ◀ P. DN : プリセット番号が1つずつダウンする。
 P. UP ▶ : プリセット番号が1つずつアップする。

番組情報を見る (EPG)

受信中の番組情報や次番組の情報を見ることができます。
さらに詳細な情報を見ることができます。

- 1 [EPG]にタッチする。
受信中の番組情報と次番組の番組情報が表示される。
- 2 [▲]、[▼]、[◀]、[▶]にタッチして、EPG画面の項目を選び、[ENT]にタッチして選んだ項目を決定する。

メニュー画面を表示する

地上デジタルテレビチューナーのメニュー画面を表示します。

- 1 [MENU]にタッチする。
メニュー画面が表示される。
- 2 [▲]、[▼]、[◀]、[▶]にタッチして、MENUを選び、[ENT]にタッチして選んだ項目を決定する。

メニュー操作モードを表示する

- 1 [MENU CONT]にタッチする。
メニュー操作画面が表示される。
- 2 [▲]、[▼]、[◀]、[▶]にタッチして、好みの項目を選び、[ENT]にタッチして決定する。



- [RTN]にタッチすると、1つ前の表示に戻る。
- [CONTROL]にタッチすると、DTVモードメニュー画面に切りかわる。

チェンジャー操作 (オプション)

チェンジャーでCD/MDを聴く

チェンジャーを接続していると、本機から操作できます。

- 1 各メインソース画面上の [SOURCE] にタッチする。
ソース画面が表示される。
(ここでは、CD チェンジャー操作を例に説明します。)

- 2 [CD CHG.] にタッチする。
CD チェンジャーモードメイン画面に切りかわる。

- 3 6連奏CDチェンジャーの場合：
[P1/2]* にタッチする。
ファンクションガイドの内容がかわる。

* MP3対応チェンジャーまたはDVDチェンジャー接続時は、ディスクNo.が表示されるまでタッチする。

ディスク3枚目を選ぶときは...

[DISC3] にタッチする。
[DISC1] ~ [DISC6] が、ディスクNo.1 ~ 6に
対応している。

12連奏CDチェンジャーの9枚目を選ぶ場合：

[P1/3] → [P2/3] とタッチする。
ファンクションガイドの内容が切りかわる。
次に [DISC9] にタッチする。
[DISC7] ~ [DISC12] が、ディスクNo.7 ~ 12
に対応している。



- ディスクを選んだ後は、14~16ページの操作説明をご覧ください。
- 曲の番号(トラックNo.)を指定するには、軽く [◀◀] または、[▶▶] にタッチします。
- 別売のVersatile Link Terminal(KCA-410C)を使用し、チェンジャー2台を接続している場合は、ファンクションガイド上の[CHG SEL]にタッチするか、または本体の[BAND]を押して製品を選びます。但し、DVDチェンジャーで映像ソース時に、本体の[BAND]を押すと表示モードの切りかえになります。
- 別売のMP3対応チェンジャーを接続した場合、本機内蔵MP3と同様に操作することができます。
- 別売のDVDチェンジャーを接続した場合、CDチェンジャー同様に本機から操作することができます。詳しい操作については、DVDチェンジャー側の取扱説明書をご覧ください。

iPod® 操作 (オプション)

iPod または iPod mini を別売の INTERFACE ADAPTER FOR iPod™ (KCA-420i) を使用して本機に接続すると、本機から操作することができます。その際、iPod からの操作はできなくなります。

- iPod の機能については、iPod ユーザーズガイドを参照してください。
- 組み合わせる INTERFACE ADAPTER FOR iPod™ (KCA-420i) の取扱説明書もご覧ください。

本機対応の iPod について

- 本機は、第3、第4世代の iPod、iPod photo、iPod mini、iPod nano に対応しております。iPod shuffle には対応しておりません。
- Dock コネクタに対応していないタッチホイール、スクロールホイールタイプの iPod は、本機に接続することはできません。
- 本機で対応している iPod のバージョンは次の通りです。これ以外のバージョンの動作保証および性能保証は致しかねます。

第3世代 iPod	: Ver 2.3
第4世代 iPod	: Ver 3.1.1
iPod photo	: Ver 1.2.1
iPod mini	: Ver 1.4.1
iPod nano	: Ver 1.1.1

- 本機は iPod Update 2005-02-22 より前のソフトウェア・バージョンには対応していません。「iPod ソフトウェア・アップデート」について詳しくは、iPod ユーザーズガイドを参照してください。

iPod® の曲を聴く

- 1 メインソース画面上の [SOURCE] にタッチする。
ソース選択画面が表示される。
- 2 [iPod] にタッチする。
iPod モードメイン画面に切りかわる。
- 3 [◀◀] または [▶▶] にタッチして、聴きたい曲を選ぶ。
 - 演奏中の曲の頭出し [◀◀] をタッチする。
 - 早戻し [◀◀] をタッチし続ける。
 - 次の曲の頭出し [▶▶] をタッチする。
 - 早送り [▶▶] をタッチし続ける。
- 4 演奏を一時停止するときは、[▶/||] をタッチする。
再度 [▶/||] をタッチすると、演奏が再開する。



- 再生中の iPod を本機と接続すると、今まで聞いていた曲の続きから再生を行います。
- Versatile Link Terminal (KCA-410C) を使用し、iPod とチェンジャーを接続している場合は、iPod モードメイン画面上の [CHG SEL] にタッチするか、または本体の [BAND/TRF] を押して iPod を選びます。
このとき、iPod とチェンジャーが同時に接続している場合、現在選択されている側のソース名がソース選択画面に表示されます。
- 半角英数字のみ、表示することができます。
- iTunes でアーティスト名、アルバム名、曲名を設定するときに、文字数が多くなると本機接続時に曲が再生されない場合があります。250文字以内に設定することをお勧めします。詳しくはインフォメーションセンターにお問い合わせください。ただし、ヘッドユニットで表示可能な文字数は64文字 (64byte) までになります。
- 文字を正確に表示できない場合があります。
- 全角文字など本機で対応していない文字情報の場合、「NO SUPPORT」と表示されます。

聴きたい曲を探す

iPodには数百曲・数千曲が入るため、聴きたい曲を探し出すのが大変です。そのため、本機ではさまざまな検索が可能になっています。



- 検索できるPlaylist(プレイリスト)、アーティスト、アルバム数はそれぞれ511までです。曲の検索は255までになります。

Playlist (プレイリスト) から探す

- 1 [□]にタッチする。
サーチモードになり、サーチリスト画面に切りかわる。
- 2 PLAYLIST SEARCHの[>>]にタッチする。
PLAYLIST SEARCH画面が表示される。
- 3 お好みのプレイリストを選ぶ。

ダイレクトにプレイリストを再生するには：

1. プレイリストの[▶]にタッチする。
選んだプレイリストがくり返し再生される。

プレイリストの曲を検索するには：

1. 選んだプレイリストの[>>]にタッチする。
選択したプレイリストのSONG SEARCH画面が表示される。
2. お好みの曲の[▶]にタッチする。
選んだ曲が再生される。

アーティスト名から探す

- 1 [□]にタッチする。
サーチモードになり、サーチリスト画面に切りかわる。
- 2 ARTIST SEARCHの[>>]にタッチする。
ARTIST SEARCH画面が表示される。
- 3 お好みのアーティストを選ぶ。

ダイレクトにアーティストの曲を再生するには：

1. アーティスト名の[▶]にタッチする。
選んだアーティストの曲が再生される。
 - ・ ALLの[▶]にタッチすると、すべての曲の先頭の曲から再生される。
 - ・ ALLの[>>]にタッチすると、ALBUM SEARCH画面に切りかわる。

アーティストのアルバムを検索するには：

1. 選んだアーティストの[>>]にタッチする。
選択したアーティストのALBUM SEARCH画面が表示される。
2. お好みのアルバムの[▶]にタッチする。
選んだアルバムの曲が再生される。
 - ・ ALLの[▶]にタッチすると、iPod モードメイン画面に切りかわる。
 - ・ ALLの[>>]にタッチすると、選択しているアーティストのSONG SEARCH画面に切りかわる。

アーティストのアルバム中の曲を検索するには：

1. 「アーティストのアルバムを検索するには：」の手順2で、お好みのアルバムの[>>]にタッチする。
選択したアルバムのSONG SEARCH画面が表示される。
2. お好みの曲の[▶]にタッチする。
選んだ曲が再生される。

アルバム名から探す

- 1 [□]にタッチする。
サーチモードになり、サーチリスト画面に切りかわる。
- 2 ALBUM SEARCHの[>>]にタッチする。
ALBUM SEARCH画面が表示される。
- 3 お好みのアルバム名を選ぶ。

ダイレクトにアルバムを再生するには：

1. アルバム名の[▶]にタッチする。
選んだアルバムの曲が再生される。
 - ・ ALLの[▶]にタッチすると、iPod モードメイン画面に切りかわる。
 - ・ ALLの[>>]にタッチすると、SONG SEARCH画面に切りかわる。

アルバム中の曲を検索するには：

1. 選んだアルバム名の[>>]にタッチする。
選択したアルバムのSONG SEARCH画面が表示される。
2. お好みの曲の[▶]にタッチする。
選んだ曲が再生される。

曲順を変えて聴く

シャッフル (M.I.X. ミックス)

iPodのシャッフル機能は、本機ではM.I.X.と表示されます。

シャッフル・アルバム：

iPod内のアルバムをランダムに選択し、アルバムの曲の順番通りに演奏する。

あらかじめプレイリスト・アーティストサーチモードで曲が選択されていた場合、そのプレイリスト・アーティスト内のアルバムをランダムに選択し、アルバムの曲の順番通りに演奏する。

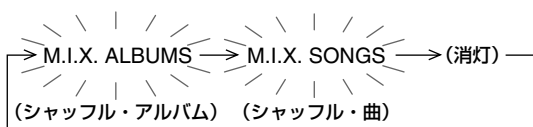
シャッフル・曲：

iPod内の全曲を順不同に演奏する。

あらかじめプレイリスト・アーティスト・アルバムサーチモードで曲が選択されていた場合、そのプレイリスト・アーティスト・アルバムの曲を全曲、順不同に演奏する。

1 [] にタッチして、<M.I.X.インジケーター>を点灯させる。

順不同に曲を演奏する。



2 解除するには、上記手順で<M.I.X.インジケーター>を消灯させる。



Memo

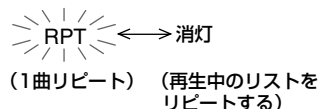
- サーチモードについて詳しくは「聴きたい曲を探す」(64ページ)を参照してください。
- アルバムサーチモードで曲を選んでいたら、シャッフル・アルバムを選択してもシャッフル(M.I.X.)再生されません。
- プレイリストの中にアルバムがない場合は、シャッフル・アルバムを選択してもシャッフル(M.I.X.)再生されません。
- iPodまたはiPod miniを脱着したり、イグニッションキーをOFFにするとM.I.X.モードは解除されます。

繰り返し聴く REPEAT (リピート)

iPodモードでのリピート機能は1曲リピートのみになります。

1 [] にタッチして、<RPTインジケーター>を点灯させる。

選んだ曲を繰り返し演奏する。



2 解除するには、上記手順で<RPTインジケーター>を消灯させる。

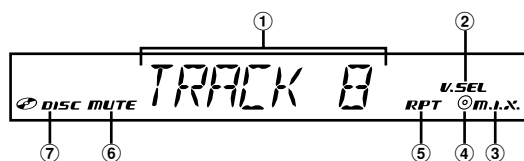


Memo

- リピート再生中は[]、[]にタッチして他の曲を選ぶことはできません。
- iPodまたはiPod miniを脱着したり、イグニッションキーをOFFにするとリピートモードは解除されます。

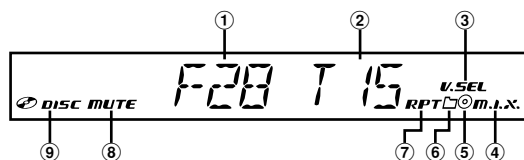
サブディスプレイ表示について

< CD モード時表示例 >



- ① トラック No. を表示
 - ② サイマル動作時に点灯
 - ③ M.I.X. 動作時に点灯
 - ④ M.I.X. ALL/RPT DISC 時に点灯 (M.I.X. ALL または RPT DISC 対応チェンジャーモード時のみ)
 - ⑤ RPT 動作時に点灯
 - ⑥ ミュート ON 時に点灯
 - ⑦ ディスクを挿入すると点灯
- ・CD テキスト対応ディスク再生時はトラック No. 表示後、トラックテキストを 8 桁まで表示します。

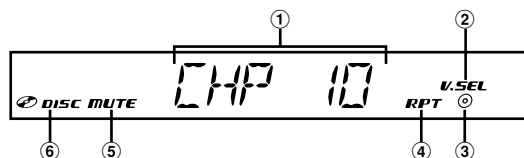
< MP3/WMA モード時表示例 >



・TAG 情報があれば曲名を表示します。

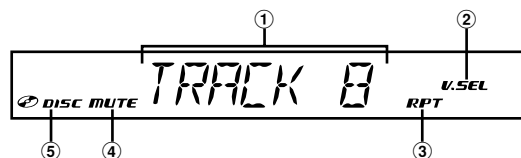
- ① フォルダ No. を表示
 - ② ファイル No. を表示
 - ③ サイマル動作時に点灯
 - ④ M.I.X. 動作時に点灯
 - ⑤ RPT DISC 時に点灯 (チェンジャーモード時のみ)
 - ⑥ M.I.X. フォルダ / RPT フォルダ時に点灯
 - ⑦ RPT 動作時に点灯
 - ⑧ ミュート ON 時に点灯
 - ⑨ ディスクを挿入すると点灯
- ・フォルダ / ファイル No. 表示後、タグ情報があれば曲名を 8 桁まで表示します。

< DVD モード時表示例 >



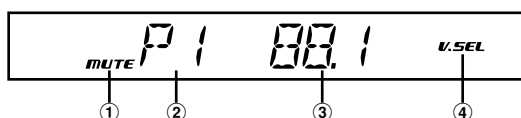
- ① チャプター No. を表示
- ② サイマル動作時に点灯
- ③ RPT タイトル時に点灯
- ④ RPT 動作時に点灯
- ⑤ ミュート ON 時に点灯
- ⑥ ディスクを挿入すると点灯

< ビデオ CD モード時表示例 >



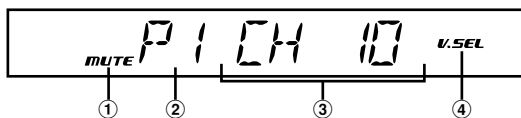
- ① トラック No. を表示
 - ② サイマル動作時に点灯
 - ③ RPT 動作時に点灯
 - ④ ミュート ON 時に点灯
 - ⑤ ディスクを挿入すると点灯
- ・PBC が ON のときは "PBC ON" と表示します。

< ラジオモード時表示例 >



- ① ミュート ON 時に点灯
- ② プリセット No. を 2 秒間表示
- ③ 周波数を表示
- ④ サイマル動作時に点灯

< TV モード時表示例 >



- ① ミュート ON 時に点灯
- ② プリセット No. を 2 秒間表示
- ③ チャンネル No. を表示
- ④ サイマル動作時に点灯



Memo

- 曲情報など正しく表示されないことがあります。
- 接続する製品によって、表示が異なる場合があります。
- サブディスプレイは、スクロール表示はしません。

サブディスプレイに時計表示させる

- 1 本体の「FLAT/SUB DISP.」を 2 秒以上押す。
サブディスプレイ表示が切りかわる。

時計表示 ↔ 各モードの通常表示

サブディスプレイの時刻設定

サブディスプレイの時刻をあわせるには、「時刻を設定する」(33 ページ) で設定すればサブディスプレイに反映されます。



取り付けと接続

取り付けや接続の作業を行う前には、必ず3～4ページをよくお読みの上、正しい作業をしてください。説明書の指示を守らなかった事による不具合に対して、当社は責任を負いかねます。

1. 正しい作業のコツ

- 1) ここからの説明は、専門技術と経験のある方を対象にしています。
- 2) 車のインパネなどの「取り付け取り外し情報」を販売店から入手してください。
- 3) 動作確認の際に本機の操作を行いますので、本説明書の操作説明部も必ずお読みください。
- 4) 組み合わせる製品の取付説明書も合わせてご覧ください。
- 5) コンピューターが装着されている車は、バッテリーのマイナス端子を外すとメモリーが消えてしまうことがあります。
- 6) 一部の車種（外国車など）では、バッテリーのマイナス端子を外すと、電装系に不具合が生じる場合があります。詳しくは、ディーラーへお問い合わせください。
- 7) 接続の際は、コードに付いているラベルや本説明書を確認しながら、注意して行ってください。
- 8) 音声出力ケーブルを接続するときは、コード端子の色とターミナルの色を合わせてください。

・RCAコード、ピンコード

家庭用機器の信号の受け渡しに利用されるRCA 考案のコネクター付きコードをいいます。カーオーディオはもちろん家庭のステレオ／ビデオ／テレビ等に幅広く採用されています。白がオーディオの左チャンネル、赤が右チャンネル、黄色がビデオ信号です。

9) スピーカーの接続

- 純正のスピーカー用コードを使う場合、左右のコードのマイナス側が共通になっているものには使用できません。
- スピーカーは、インピーダンスが3.2～8Ωのものをお使いください。

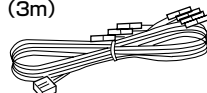
- 10) 接続しないコードは、コードの端にビニールテープを巻いてください。
- 11) 取り付け場所について
ディスクの出し入れの際、車のシフト操作に支障がないことを確認のうえ、取り付け場所を設定してください。
- 12) 水平に対して30度以内に付けてください。
- 13) 不明な点はお買い上げの店／インフォメーションセンターにお問い合わせください。

2. 準備

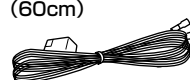
1. 車を平坦で安全な場所に停める。さらに、パーキングブレーキをかけ、イグニッションキーを抜く。

2. 付属部品を確認し、工具／取り付け情報をそろえる。

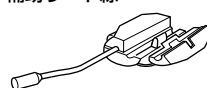
電源コード
(3m)



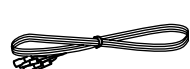
サブコネクター
(60cm)



パーキングブレーキ
補助リード線



リモートコード
(30cm)



モニター延長コード(3m)



アンテナ延長ケーブル
(3m)



・さらに延長したい場合は別売のモニター延長ケーブル(KWE-303B)をご使用ください。

ワッシャー付き
ネジ(M4×6)



×4

座付タッピングネジ
(M4×14)



×2

圧着コネクター



×2

マジックテープ



×2

サラネジ(M4×3)



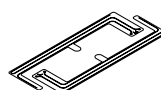
×8



注意

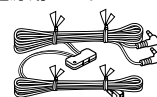
付属のサラネジ(M4×3)以外でモニターを固定した場合は、動作不良の原因になります。必ず付属のサラネジ(M4×3)を使用して取り付けてください。但し、サラネジ(M4×3)が取り付けられない場合のみ、付属のワッシャー付きネジ(M4×6)を使用してください。

フィルムアンテナ



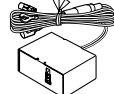
2枚1組

アンテナ入力コード
(アンテナコード左右：6m)
(電源用コード：3.5m)



×2

電源BOX付コード
(1m)



クリーナー



樹脂クランプ



×6

両面テープ



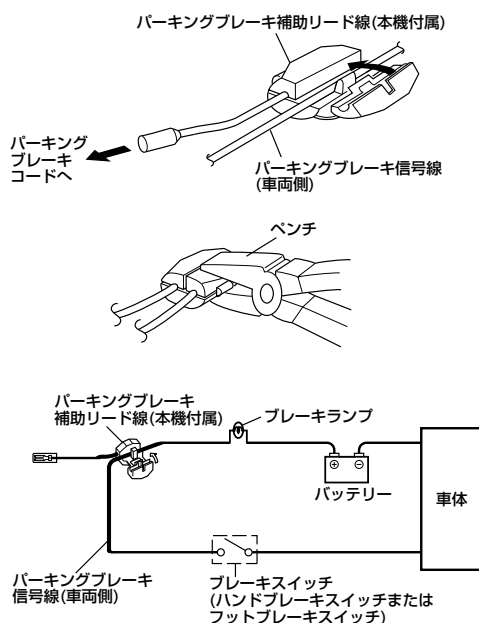
3. バッテリーのマイナス端子を外す。
4. 灰皿、小物入れなどを外し、パネル（インパネ）を外す。
5. 車から取り付けブラケットごとカーオーディオを外す。
6. オーディオに付いているケーブルを外し、ブラケットからオーディオを外す。（ブラケットは、6. モニターを取り付ける2. で利用します。）



取り付けと接続

3. 接続する

- 74～77ページの基本接続図を参照して接続する。
 - 他の製品と組み合わせた接続例も記載しています(78～82ページ参照)。ご希望の組み合わせを確認しながら作業を進めてください。
 - 誤接続を防ぐために、接続することに✓点をつけてください。
- 車両側のパーキングブレーキ信号線に、パーキングブレーキ補助リード線を装着する。
パーキングブレーキコードは、必ずパーキングブレーキスイッチの電源側に接続する。
 - パーキングブレーキコードは、必ず接続してください。不明点は、お買い上げ店にお問い合わせください。



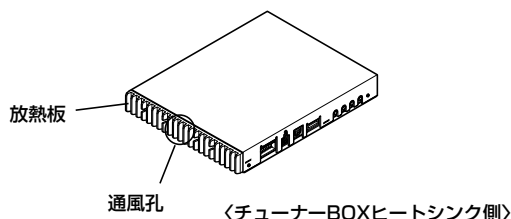
- 本機に電源コードを接続する。「カチッ」と音がするまで差し込む。
- 正しく接続されているか、✓点があるところはないか確認する。
- バッテリーマイナス端子を接続する。
- イグニッションキーをONにして本機電源を入れ、音が正しく出ているかなどを確認する。
 - 固定する前に動作確認しておけば安心です。正しい動作をしない場合は、もう一度接続を確認してください。
- 本機の電源を切る。
- イグニッションキーを抜いて、バッテリーマイナス端子を外す。

4. チューナーBOXを取り付ける



注意

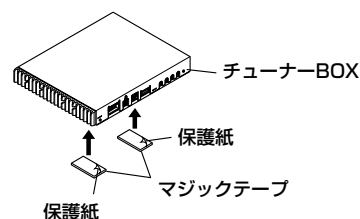
通風孔や放熱板をふさがない。
通風孔・放熱板をふさがないでください。
通風孔・放熱板をふさぐと内部に熱がこもり、火災・故障の原因になります。



マジックテープを使って取り付ける。

マジックテープで取り付ける場合は必ず平らな場所を選んでください。
チューナーが逆さまになるような位置には取り付けないでください。

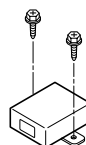
- チューナーBOXを取り付ける。
チューナーBOXに付属のマジックテープを貼り付け、助手席の下などのフロアカーペットに固定する。



● 他製品のBOX類と重ねないように設置してください。発熱・故障の原因になります。

5. DC-DCコンバーターを取り付ける

付属の座付タッピングネジ(M4X14)で平らな場所を選んで取り付ける。



注意

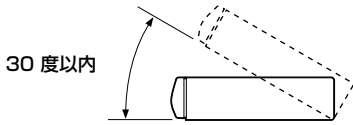
〈DC-DCコンバーター取り扱い上のご注意〉

- DC-DCコンバーターは、フロアマットの下やエアコンなどの水がかかりやすい場所へは設置しないでください。故障の原因になります。
- DC-DCコンバーターのケーブルは他のオーディオケーブルと一緒に束ねたり、また本体に接触させないでください。雑音の原因になります。
- DC-DCコンバーターは熱を持ちますが、故障ではありません。



6. モニターを取り付ける

1. モニター（メインディスプレイ）の開閉やディスクの出し入れの際、車のシフト操作に支障がないことを確認のうえ、取り付け場所を決める。

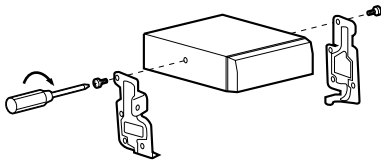


●モニター（メインディスプレイ）立ち上げ工場出荷時角度は90°です。車種によっては、立ち上げ時にメインディスプレイ背面が車側に当たる場合がありますので、ご注意ください。「モニター（メインディスプレイ）の角度調整」（11ページ）で調整してください。なお、調整後の角度は、車のバッテリー電源をはずしても記憶しています。

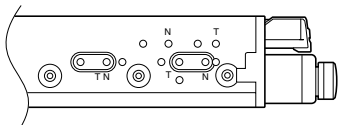
2. モニター（メインディスプレイ）にブラケットを付属のサラネジ（M4×3）で、しっかり取り付ける。

注意

- 付属部品を指定通りに使い、しっかりと取り付けてください。事故・故障の原因になります。
- 付属のサラネジ（M4×3）以外でモニターを固定した場合は動作不良の原因になります。必ず、付属のサラネジ（M4×3）を使用して取り付けてください。但し、サラネジ（M4×3）で取り付けられない場合のみ付属のワッシャー付きネジ（M4×6）を使用してください。



取り付け用ネジ穴



N 穴→ニッサン車専用

T 穴→トヨタ・ミツビシ車専用

3. 「ブラケットと一体になったモニター」を車両にしっかり取り付ける。
4. インパネを取り付ける。
5. コード類を固定する。
シートレールなどの可動部に挟み込んだり、突起部に当たったりして、コードを傷めないように注意して固定する。

6. バッテリーマイナス端子を接続する。



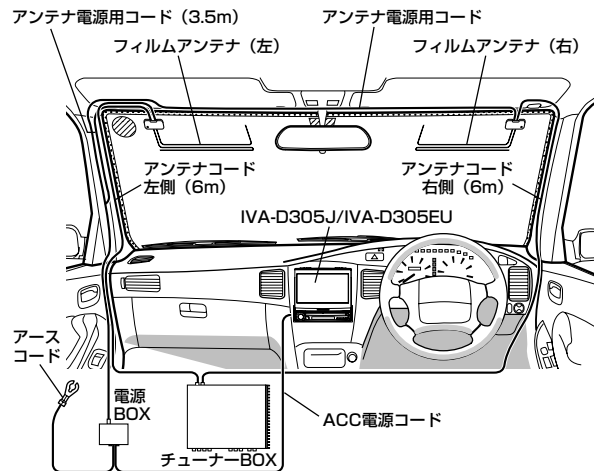
Memo

- 車両雑音から守るために
- ・アースコードを車体の金属部分に確実につなぐ。（ノイズが出るときはアースの場所をかえてみる）
- ・本機や本機からのコードを車両配線から離す。
- ・バッテリー電源コードとPINコードは離す。
- ・ノイズサプレッサーを使う場合は、できるだけ本機から離す。

7. フィルムアンテナの取付

取付完成概略図

〈車内からみた配線図例〉



警告

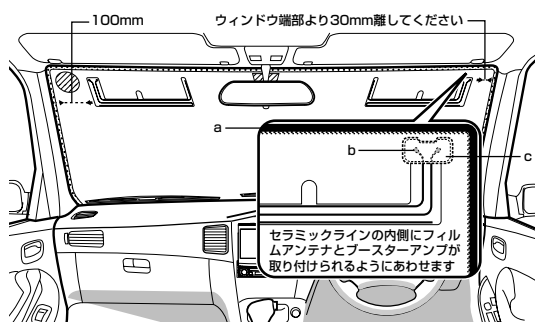
- 前方の視界を妨げる場所、ハンドル・変速レバーなど運転操作を妨げる場所、同乗者に危険を及ぼす場所には、取り付けしないでください。事故・ケガの原因になります。
- コード類は運転操作の妨げとならないように束ねてください。ハンドル・変速レバー・ブレーキペダルなどに巻き付くと、事故・故障の原因になります。

- フィルムアンテナは、一度貼り付けると貼り直しできません。
- フィルムアンテナ貼り付け前に必ずフィルムアンテナとコードを仮止めして、コードの長さが十分にあることを確認してください。
- 本フィルムアンテナは、フロントガラス専用です。フロントガラス以外の場所には貼り付けしないでください。
- フロントピラーにエアバックを搭載している車には、取り付けることはできません。
- 熱線反射タイプまたは熱線吸収タイプのガラスには、電波を通さないものがありますのでご注意ください。詳しくはカーディーラーへお問い合わせください。



取り付けと接続

1. フィルムアンテナの貼り付け位置を確認する。
(フィルムアンテナの形状は、車両左側と車両右側で異なります。フィルムアンテナに「L」、「R」の印がついていきますので、「L」は左側、「R」は右側に貼り付けてください。)
- 1) フィルムアンテナの給電端子をセラミックラインの下端に合わせ、セロハンテープで仮止めする。
 - ・「ブースターアンプをフィルムアンテナに取り付ける」(71 ページ) を参考に、ブースターアンプがフロントガラス内におさまる位置にフィルムアンテナを仮止めする。
 - ・ フィルムアンテナの端をフロントガラス端部より車両右側は30mm、車両左側は100mm程度離してください。



- a…セラミックライン
b…フィルムアンテナの給電端子
c…ブースターアンプ



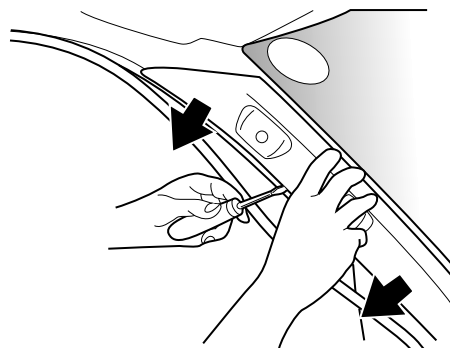
- 図の 部分の定期点検ステッカー・検査標章部にはフィルムを貼り付けないでください。
- 給電端子は、必ず指定範囲内に貼り付けてください。指定範囲外に貼り付けると、国土交通省が定める保安基準に適合しませんので、注意して貼り付けてください。

- 2) フィルムアンテナの左右の位置をセロハンテープ等でマーキングする。

2. アンテナコードを配線するために、内装部品(内張りなど)を取り外す。

※ ここではまだ配線しないでください。

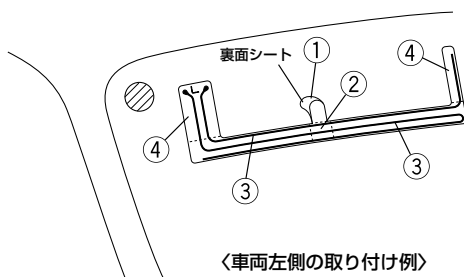
- 1) フロントピラー(左右)を取り外す。
またフロントウィンドウ上側の車体面にて作業するため、必要に応じてマップライト、サンバイザー、天井の内張り等も外す。



⚠ 注意

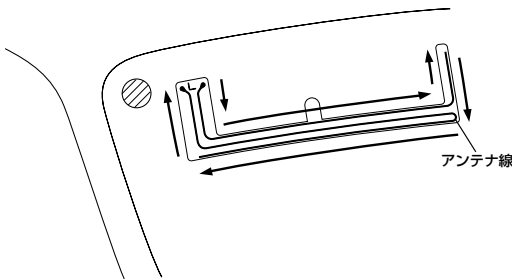
- 樹脂製の内装部品はツメや突起等で固定されており、無理に外すと破損したり変形することがあります。
- 貼り付けるウィンドウにFM/AMラジオアンテナが内蔵されている場合は、干渉を避けるためアンテナが重ならないように貼り付けてください。
- フィルムアンテナはとてもデリケートな為、作業時の取り扱いには十分ご注意ください。

3. フィルムアンテナを貼り付ける。
 - 1) 仮止めしたフィルムアンテナを取り外す。
 - 2) フロントウィンドウの汚れ(ごみ・油など)やくもり止めを付属のクリーナーを使ってきれいに拭きとる。油膜や糸くずが残っていると気泡発生の原因になります。
 - 3) フィルムアンテナの裏面シート①をはがす。それから、②～④の順に裏面シートをはがしながら全体を貼り付ける。
 - ・ 裏面シートをはがすときは、アンテナ部分を強く折り曲げたりしないでください。アンテナ線が断線する恐れがあります。

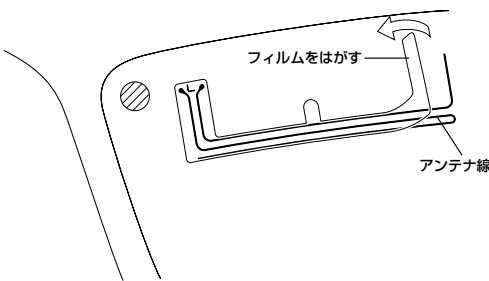




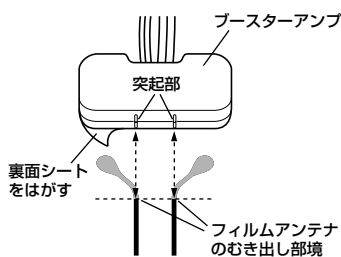
- 4) アンテナをしっかりガラスに密着させる。
- フィルムの上から、下図矢印の方向にアンテナ線を中心に指で強く押す（困難な場合は、樹脂ヘラ使用）。アンテナ線の無い部分は、あとではがしますので、強く押す必要はありません。



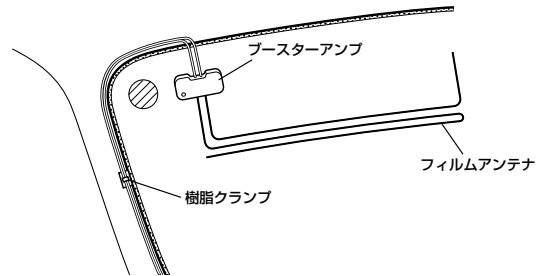
- 5) アンテナがガラスに定着していることを確認しながら、フィルムをゆっくりはがす。
- フィルムと一緒にアンテナがはがれる場合は、フィルムを一度もとに戻してから、アンテナ線を中心に強く押し定着させてから再度はがしてください。



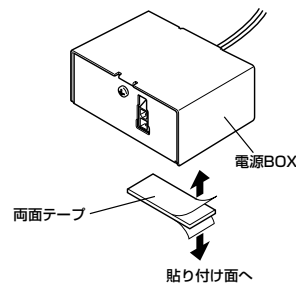
- 6) アンテナを柔らかい布などで上から押さえつける。
- 上から丁寧に押さえつけてください。
 - 給電端子部分には、直接手で触れないでください。皮脂などの汚れが付着すると給電端子部分が錆びて本来の性能が発揮できなくなります。
- 7) 反対側のフィルムアンテナも同様に貼りつける。
4. ブースターアンプをフィルムアンテナに取り付ける。
- 1) ブースターアンプの突起部を、フィルムアンテナのむき出し部（金属部）の境にあわせて貼り付ける。
 - ブースターアンプには、左用と右用があります。㊶は左側に、㊷は右側に貼り付けてください。



5. コードを配線する。
- 1) アンテナコードを天井の内張りの中に配線する。
 - アンテナコードは、車両左側、車両右側共に配線してください。
 - 2) 必要に応じて、樹脂クランプでコードを固定しながらアンテナコードを配線する。
 - アンテナコードは、他のコード類と一緒に束ねないでください。本来の性能が発揮できなくなります。



- 3) 電源BOXをダッシュボード奥などに貼り付ける。



- 4) アンテナ電源用コードを電源BOXに接続する。（「フィルムアンテナ接続図」（73ページ）を参照ください。）
6. 配線および内装部品（内張など）を元に戻す。
- 1) アンテナコードのプラグ部をチューナーBOXへ接続する。（「フィルムアンテナ接続図」（73ページ）を参照ください。）
 - 2) ACC電源コードを車のACCポジションで電源が供給されるコードへ接続する。
 - 3) アースコードを車体の金属部分へ固定する。
 - 4) 付属のコードクランプを使用して、仮止めしていたコード類を固定し、内装部品（内張など）を元に戻す。

⚠ 注意

- 天井などの内装部品に無理な力を加えたり、折り曲げないように注意してください。
- 給電端子は正しい位置に貼り付けしないと、端子のズレや浮きなどの原因になり、本機の性能が発揮できません。
- 給電端子に負担を掛けないように給電端子を手で押さえながらコードの配線を行ってください。



取り付けと接続

8. 確認する

1. イグニッションキーをONにして、本説明書を参考に本機の動作が正しいことを確認する。
2. ホーン（クラクション）、ストップランプなどの車両電装品が正しく動作することを確認する。

9. スイッチの切りかえについて

取り付け前やシステムアップを行うとき、スイッチの切りかえが必要になる場合があります。

切りかえは次の手順で行ってください。

1. 電源コードを抜く。
2. 棒状のものを垂直に挿入する。
3. 指定のポジションに切りかえる。
4. 電源コードを接続する。

システムスイッチ

本機に Ai-NET 対応のイコライザーを接続するときは、チューナーBOX底面にあるシステムスイッチを「DIV/EQ」側に切りかえます。

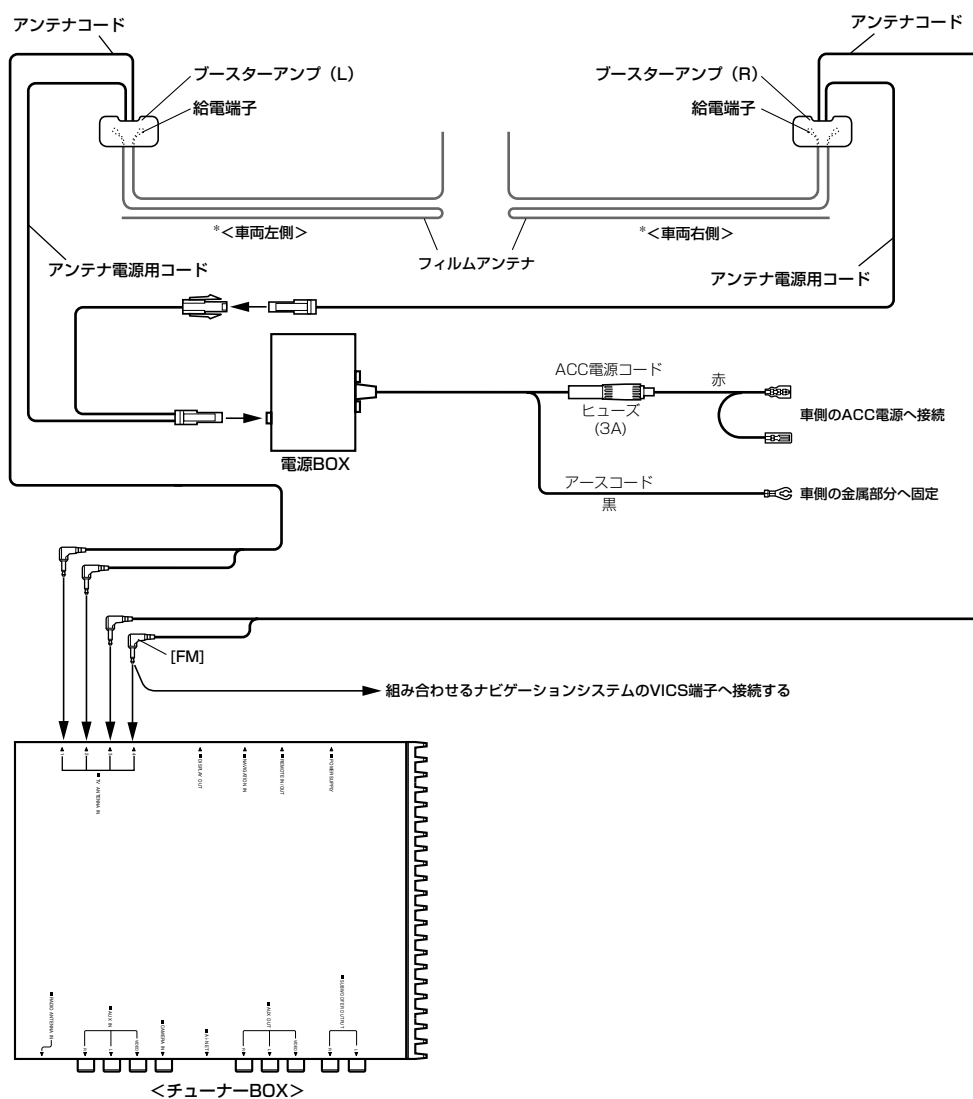


Memo

- チェンジャーのみを接続する (Ai-NET 対応イコライザーを使わない) 場合、システムスイッチは「NORM」に設定してください。



フィルムアンテナ接続図



* 車内からみた左右位置になります。



- アンテナプラグは、チューナーBOX側の1~4のどの端子に接続しても問題ありませんが、組み合わせるナビゲーションシステムのFM端子へ接続する場合には、[FM]専用のアンテナプラグをナビゲーションシステム側へ接続してください。

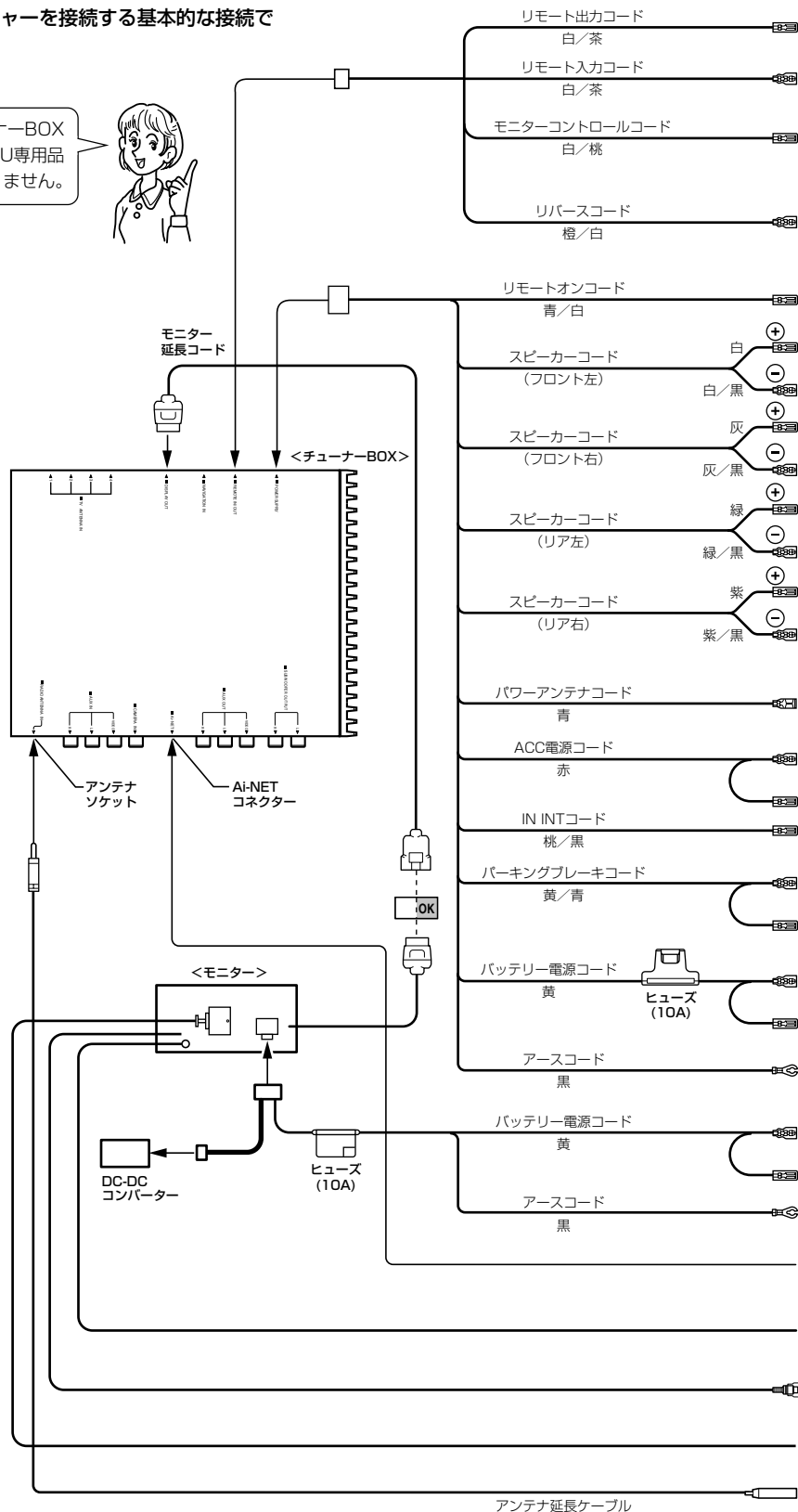


取り付けと接続

基本接続図

本機とスピーカー、チェンジャーを接続する基本的な接続です。

本モデルのモニターとチューナーBOXは、IVA-D305J/IVA-D305EU専用品です。他モデルとの互換はありません。

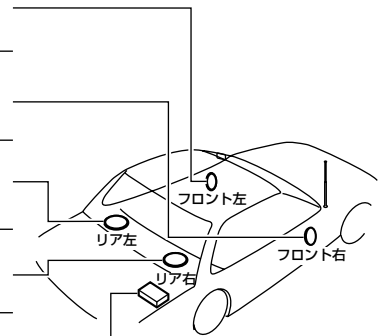




コード色	コード仕様	接続先	
白/茶	● リモート出力コード リモコン信号を出力するためのコードです。	組み合わせるALPINE製品の リモート入力コードに接続	①
白/茶	● リモート入力コード リモコン信号を入力するためのコードです。	組み合わせるALPINE製品の リモート出力コードに接続	②
白/桃	● モニターコントロールコード タッチパネル対応モニターと接続する場合に 使用します。	組み合わせるALPINE製品 タッチパネル対応モニターの モニターコントロールコード に接続	③
橙/白	● リバースコード バックカメラを接続時のみ使用します。シフト レバーをバック(R)に入れたとき点灯するバック ランプのプラスに接続してください。シフトレバーの バック(R)に連動して、バックカメラの映像入力切 りかえを行います。	車のバックランプ信号線の プラス側に接続します。	④
青/白	● リモートオンコード 本機の電源ON/OFFとアンプなどの周辺機器の ON/OFFを連動させます。	アンプ/イコライザー追加 の際に使用	⑤
白	● スピーカーコード (フロント左) フロント左スピーカーを駆動する信号を出力します。 接続するスピーカーは、インピーダンスが3.2~8Ωの ものを使用してください。	フロント左のスピーー カーに接続	
白/黒			
灰	● スピーカーコード (フロント右) フロント右スピーカーを駆動する信号を出力します。 接続するスピーカーは、インピーダンスが3.2~8Ωの ものを使用してください。	フロント右のスピーー カーに接続	
灰/黒			
緑	● スピーカーコード (リア左) リア左スピーカーを駆動する信号を出力します。 接続するスピーカーは、インピーダンスが3.2~8Ωの ものを使用してください。	リア左のスピーー カーに接続	
緑/黒			
紫	● スピーカーコード (リア右) リア右スピーカーを駆動する信号を出力します。 接続するスピーカーは、インピーダンスが3.2~8Ωの ものを使用してください。	リア右のスピーー カーに接続	
紫/黒			
青	● パワーアンテナコード ラジオのON/OFFに連動してパワーアンテナを伸縮 させる信号を出力します。また、ウインドウシールドア ンテナなどブースターが付いている車種はブースター電 源として使うことができます。(ブースターが付いてい るものは必ず接続してください。接続を忘れるとラジオ の受信状態が極端に悪くなります。)	車のパワーアンテナコード またはアンテナブースター に接続	
赤	● ACC電源コード エンジンキーに連動した電源を本機に供給します。	ACCポジションで電源が 供給されるコードに接続	
桃/黒	● 音声割り込み(IN-INT)コード 通常は使用しません。詳しくは、 「外部割り込みモードの設定」 (35ページ)をご覧ください。		
黄/青	● パーキングブレーキ補助リード線 黄/青 ● パーキングブレーキコード パーキング、ブレーキの状態を本機に伝えます。	パーキング、ブレーキスイ ッチの電源側に接続	
黄	● バッテリー電源コード エンジンキーに関係なく常に電源を本機に供給し ます。通常、バッテリーコードの接続で十分です が、さらに良い音で楽しみたいときは、直接車側の バッテリーに配線すると良いでしょう。 詳しくは、お買い上げ店にご相談ください。	常に電源が供給される (バッテリー電源プラス) コードに接続	
黒	● アースコード 車体の金属部分へしっかりと固定します。	車体に接続	
黄	● バッテリー電源コード エンジンキーに関係なく常に電源を本機に供給し ます。通常、バッテリーコードの接続で十分です が、さらに良い音で楽しみたいときは、直接車側の バッテリーに配線すると良いでしょう。 詳しくは、お買い上げ店にご相談ください。	常に電源が供給される (バッテリー電源プラス) コードに接続	
黒	● アースコード 車体の金属部分へしっかりと固定します。	車体に接続	
	● Ai-NETコネクタ Ai-NETチェンジャーなどでシステムアップするときに 使用します。	Ai-NETコードでAi-NET製 品と接続	⑥
	● ステアリングリモコンコネクタ 車のステアリングリモコンで操作するときに使用 します。	リモートコントロール・ インターフェイス・ボックス と接続	
橙	● COAX出力コード COAX対応製品とシステムアップするときに使用 します。	COAX入力端子と接続	⑦
	● 光デジタル出力端子 光デジタル入力対応製品と組み合わせるときに使用します。	システムアップの際に使用	⑧
	● アンテナソケット アンテナからの信号を受けるコネクタです。	車のアンテナプラグを接続	

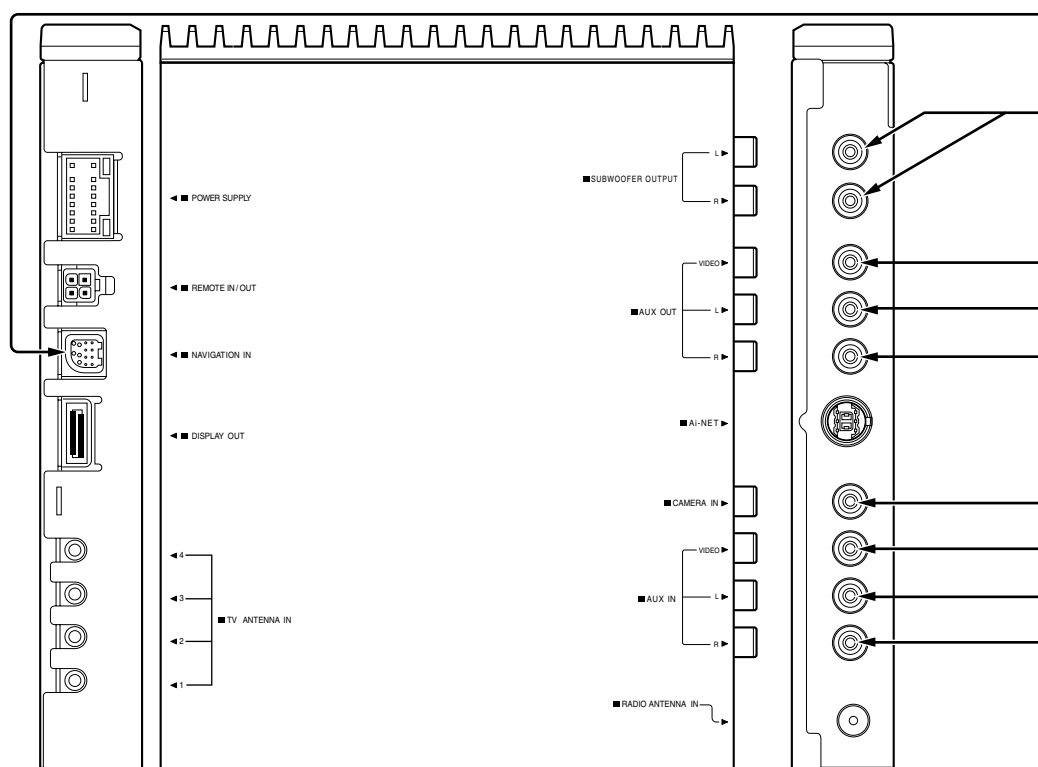


● 左記接続先の丸番号は、「他製品と
の接続」(78~82ページ)で使用
します。



注意 <DC-DCコンバーター取り 扱い上のご注意>

- DC-DCコンバーターは、フロアマットの下や
エアコンなどの水がかりやすい場所へは設置
しないでください。故障の原因になります。
- DC-DCコンバーターのケーブルは他のオーディ
オケーブルと一緒に束ねたり、また本体に接触さ
せないでください。雑音の原因になります。
- DC-DCコンバーターは熱を持ちますが、故障で
はありません。





Memo

- 下記接続先の丸番号は、「他製品との接続」(78～82ページ)で使用します。

端子仕様	接続先	
 • RGB入力端子(13P) RGB方式の映像/音声/リモコン出力などの信号を入力します。	組み合わせるナビゲーションのRGB出力端子に接続	⑨
 • サブウーハー出力端子 サブウーハー用信号を出力します。	サブウーハー追加の際、サブウーハー用アンプ(ローパスフィルター内蔵アンプ)に接続	⑩
 • ビデオ出力端子 映像を出力します。	組み合わせる製品のビデオ入力に接続	⑪
 • オーディオ出力端子(左) 音声を出力します。	組み合わせる製品のオーディオ入力(左)に接続	⑫
 • オーディオ出力端子(右) 音声を出力します。	組み合わせる製品のオーディオ入力(右)に接続	⑬
 • バックカメラ用ビデオ入力端子 映像を入力します。	バックカメラ製品のビデオ出力に接続	⑭
 • ビデオ入力端子 映像を入力します。	組み合わせる製品のビデオ出力に接続	⑮
 • オーディオ入力端子(左) 音声を入力します。	組み合わせる製品のオーディオ出力(左)に接続	⑯
 • オーディオ入力端子(右) 音声を入力します。	組み合わせる製品のオーディオ出力(右)に接続	⑰



他製品との接続

重要

- オーディオプロセッサ(PXA-H701など)と組み合わせる場合には、システムスイッチの切りかえが必要になります。
- 正しい切りかえを行わないと、爆音など、不具合が発生します。
- 詳しくは、「スイッチの切りかえについて」(72ページ)を参照してください。

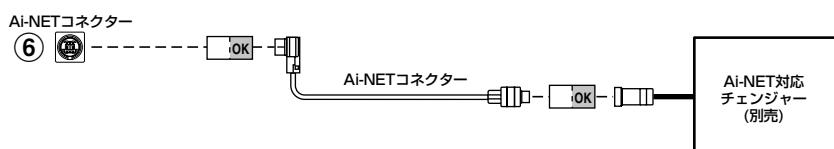


1) CDまたはMDチェンジャーを接続する。

システムスイッチ	NORM
----------	------



- チェンジャーのみを接続する(Ai-NET対応イコライザーを使わない)場合、システムスイッチは「NORM」に設定してください。



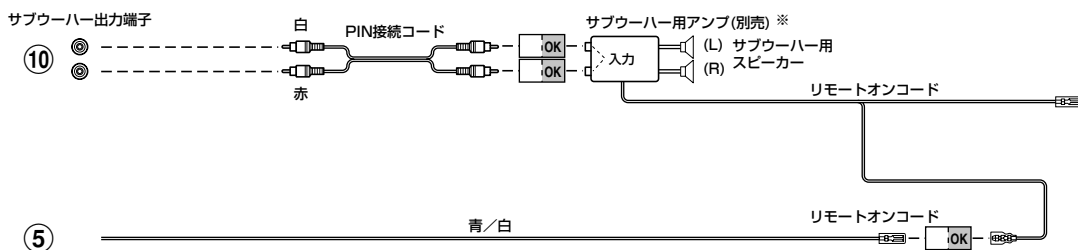
2) サブウーハーアンプを接続する。

システムスイッチ	NORM
----------	------



- 「サブウーハーのON/OFF」(44ページ)を参照してください。

※ 必要に応じてローパスフィルター内蔵のアンプを使用してください。



3) Ai-NET 対応オーディオプロセッサー（光デジタル対応）およびチェンジャー、DVD プレイヤーを接続する。

システムスイッチ	DIV/EQ
----------	--------

 Memo

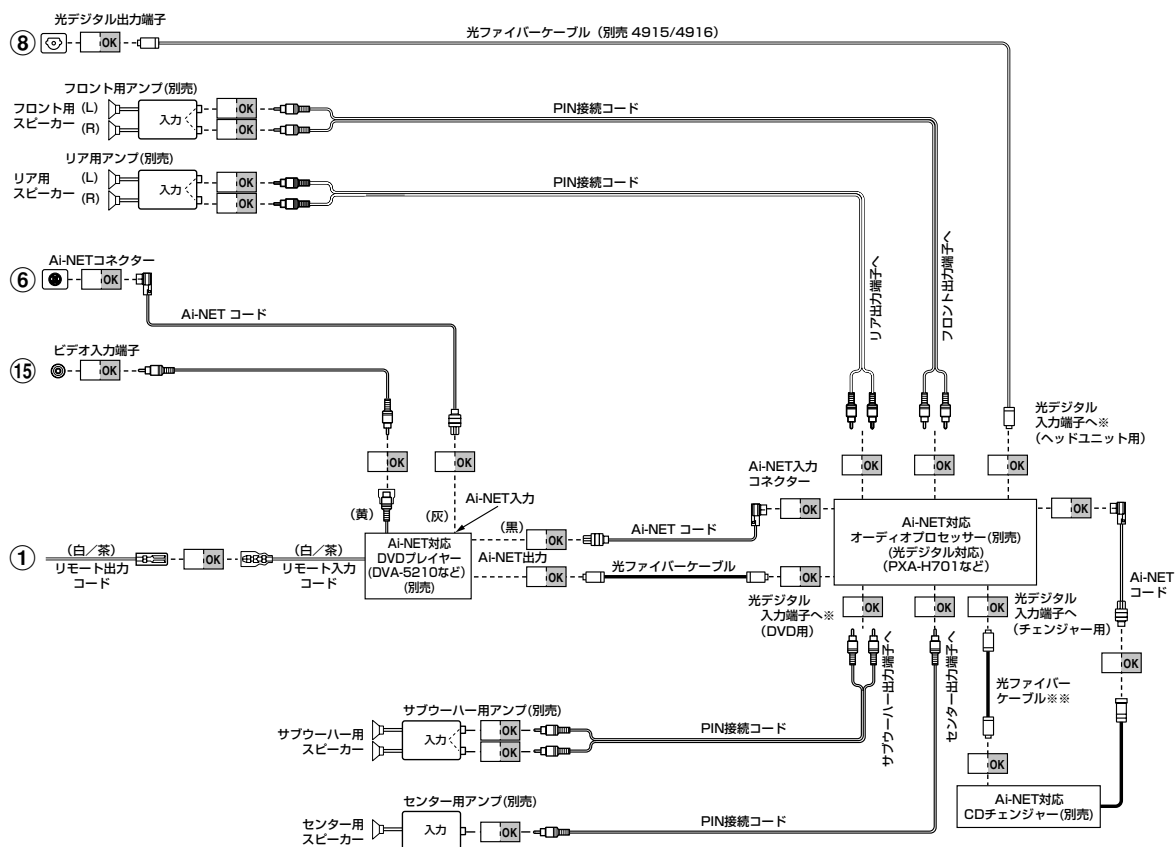
● 光デジタル対応の製品を接続した場合、本機のモード設定が必要です。「外部オーディオプロセッサの光デジタル入力切りかえ設定」(36ページ)を参照し、設定を切りかえてください。

※ PXA-H510と組み合わせる場合:

- ・光デジタル入力端子はDVD用へ接続してください。
- ・本機とDVA-5-200、DVA-5205JまたはDVA-5210との光デジタルを使用しての同時接続はできません。

※※ 光デジタル対応

- ・ CDチェンジャーのみ接続。



⚠ 注意

光ファイバーケーブルをご使用になるときは、次の点に注意してください。

- 光ファイバーケーブルを束ねるときには、小さく束ねないでください。(最小曲げ半径は、30mmです)
- 光ファイバーケーブルに製品などを載せないでください。

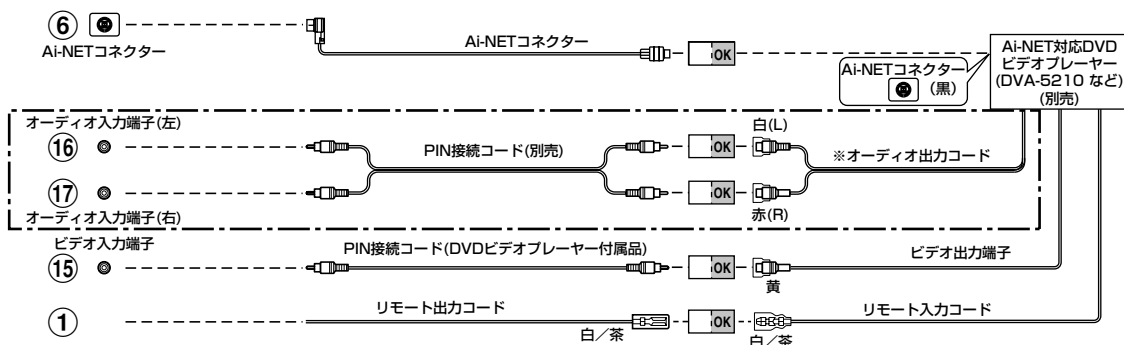


取り付けと接続

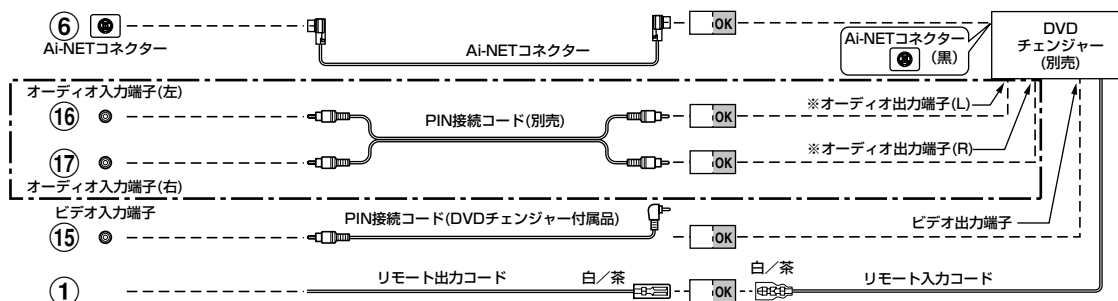
4) Ai-NET 対応 DVD ビデオプレイヤーまたは、DVD チェンジャーを接続する。

システムスイッチ NORM

● DVD ビデオプレイヤーの接続図



● DVD チェンジャーの接続図

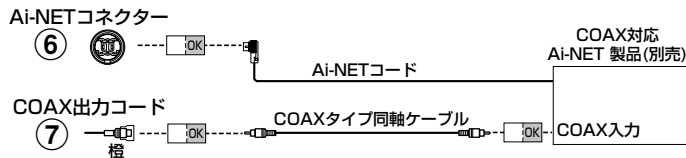


- 本機+DVDビデオプレイヤー/DVDチェンジャー+デジタルオーディオプロセッサを組み合わせる場合は、本機のシステムスイッチを「DIV/EQ」ポジションに設定してください。(接続については、DVDビデオプレイヤー/DVDチェンジャー側の説明書をご覧ください。)
- 本機では、DVDプレイヤーまたは、DVDチェンジャーの2台接続はできません。1台のみの接続になります。
- ※ リアモニターを接続する場合：
リアモニターへDVDビデオプレイヤーまたはDVDチェンジャーの音声を出させるには、DVDビデオプレイヤーまたはDVDチェンジャーのオーディオ出力コードを本機のオーディオ入力端子⑩、⑪へ接続してください。
- DVA-5210と接続した場合：
接続終了後、DVA-5210のシステム設定が必要になります。
製品を固定する前に、システム設定を変更してください。
システムスイッチ： 1 (Ai-NET)
Ai-NET設定： FULL
詳細は、DVA-5210側の取扱説明書をご覧ください。



5) COAX 対応・Ai-NET 製品を接続する。

システムスイッチ	NORM
----------	------



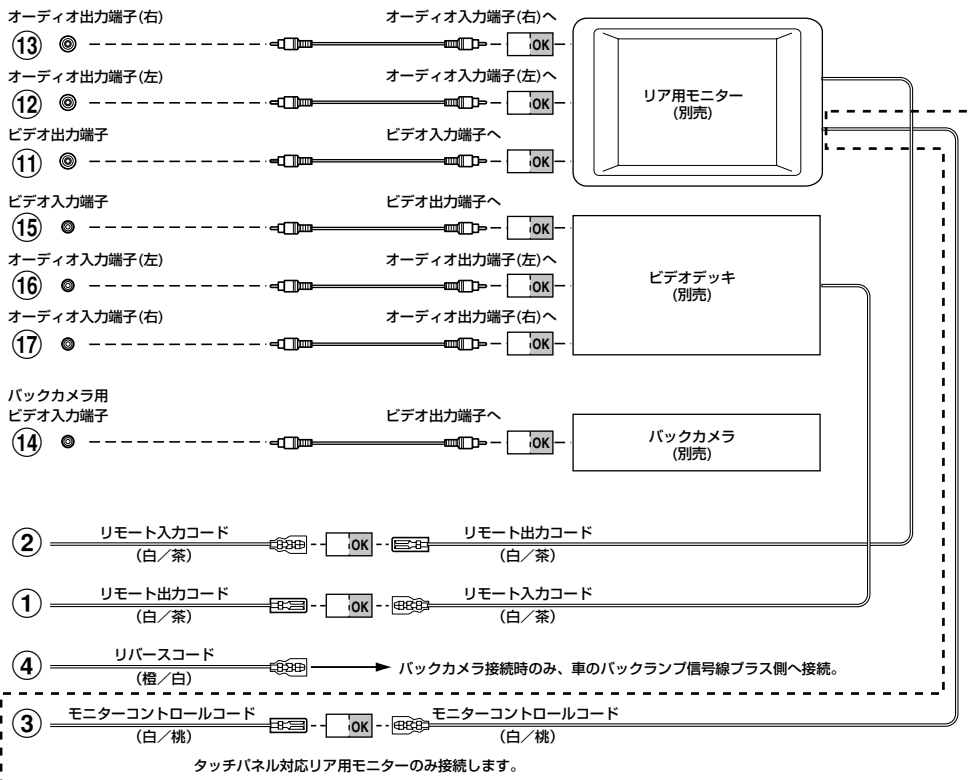
- HDA-5460MS、HDA-5465MSまたはMDA-5060MS、MDA-5065MSと接続した場合のリッピング方法については、
 - ・ HDA-5460MS、HDA-5465MS取扱説明書「CDの曲をHDD/”MGメモリースティック”に録音する」
 - ・ MDA-5060MS、MDA-5065MS取扱説明書「CDの曲を”MGメモリースティック”に録音する」をご覧ください。
- COAXタイプ同軸ケーブルが未接続状態では、COAX対応製品側のHDD/MD/MSに録音することはできません。

NVA-HD55Sをお使いのお客様へ
NVA-HD55Sに別売のHDA-5460MS、HDA-5465MSまたはMDA-5060MS、MDA-5065MSのいずれかを組み合わせることはできません。



6) リアモニターおよびビデオとバックカメラを接続する。

システムスイッチ	NORM
----------	------

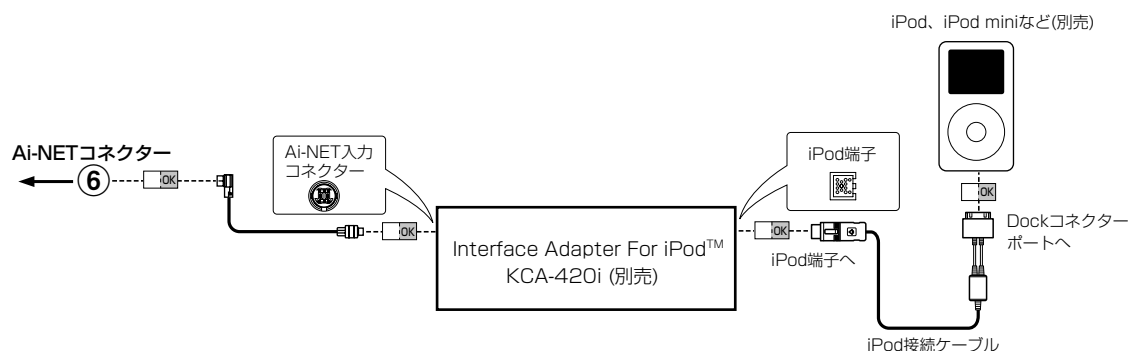




取り付けと接続

7) iPod と Interface Adapter For iPod™ を接続する。

システムスイッチ	NORM
----------	------

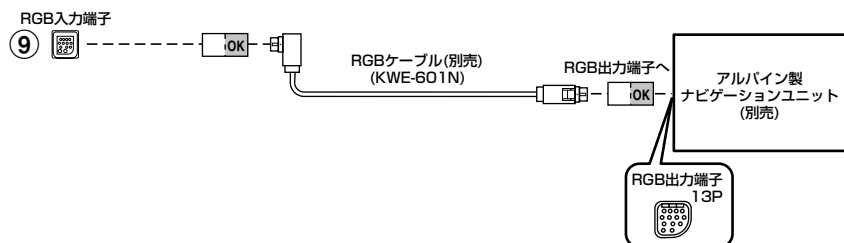


8) ナビゲーション（RGB 出力端子 13P）を接続する（RGB 接続）。

システムスイッチ	NORM
----------	------



- 本機とナビゲーションシステムを接続する場合、別売またはナビゲーション製品付属のRGBケーブルを使用してください。もし、RCAで接続した場合には、本機からのナビゲーションや割り込み機能の操作はできません。
- NV7-N099S/NV7-N099SSと接続した場合は、リアモニターへのナビゲーション映像出力はされません。



代表的なシステム例は、
「<http://www.alpine.co.jp>→
Support (サポート)→システム接続」を参照
にしてください。



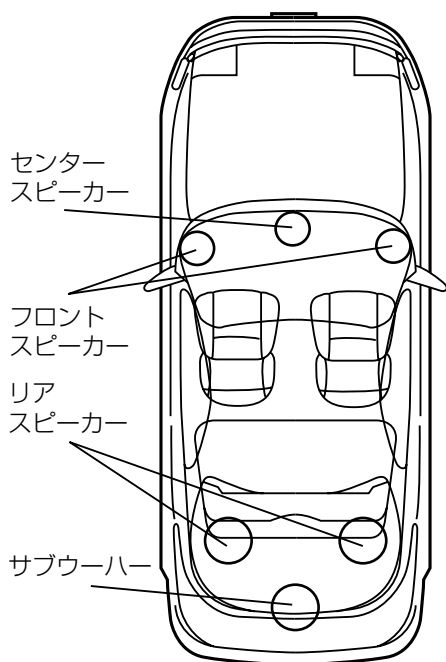
用語解説

ドルビーデジタル

ドルビーデジタルはドルビー研究所が開発したデジタルオーディオ圧縮技術で、大量のオーディオデータを効率的にディスクに記録できるようにします。モノラル(1チャンネル)から5.1チャンネルのサラウンドサウンドにいたるすべてのオーディオ信号に適合しています。異なるチャンネルへの信号は完全に独立し、さらに高品質のデジタルサウンドのため音質の低下はまったくありません。

※完全な5.1チャンネル・サラウンドサウンドを楽しむには、別売のデジタルオーディオプロセッサ(PXA-H900/PXA-H510/PXA-H701など)が必要です。

本機は、ドルビーデジタルのデコードを行い、アナログオーディオ信号を出力します。その場合は2チャンネルオーディオで5.1チャンネルではありません。



ドルビーデジタル/DTSを楽しむための
スピーカーレイアウト

DTS

デジタル・シアター・システムズ社が開発した映画館用の高音質サラウンドシステム「DTSサウンドシステム」の家庭用デジタルサラウンドフォーマットです。

DTSは6本の独立した音声トラックを持ち、劇場公開映画などで使われている高品位の臨場感あふれるDTSサラウンドを楽しめます。

DTSはDigital Theater Systemの略。

※DTSサラウンドを楽しむには別売のDTSデジタルオーディオプロセッサ(PXA-H900/PXA-H701など)が必要です。また、DVDビデオソフトもDTSに対応したものをご使用ください。

本機は、DTS 2チャンネルデコーダーを内蔵しており、アナログ信号を出力します。

PRO LOGIC

PRO LOGICは、ドルビーサラウンドでエンコードされたプログラムをデコードするときに用いられる技術です。PRO LOGICデコーディングによって、2チャンネル(ステレオ)のソースから4チャンネル(フロント左右、中央、およびモノラルリアサラウンド)のサウンドを提供します。

※PRO LOGICサウンドを楽しむには、別売のデジタルオーディオプロセッサ(PXA-H900/PXA-H510)が必要です。

Dolby PRO LOGIC II

Dolby PRO LOGIC II は、2チャンネルソースを5チャンネルで全帯域再生します。それを行うのが、ソースにない音や音の色付けを加えることなく、オリジナル録音の空間的特質を引き出す先進的で高音質のマトリックスサラウンドデコードです。

※Dolby PRO LOGIC II サウンドを楽しむには、別売のデジタルオーディオプロセッサ(PXA-H701など)が必要です。

リニアPCM音声(LPCM)

音楽CDに用いられている信号記録方式。音楽CDでは44.1kHz/16bitで記録されているのに対し、DVDでは48kHz/16bit～96kHz/24bitで記録されていますので、音楽CDよりも高音質の再生ができます。

視聴規制 (パレンタルロック)

国ごとに規制した視聴年齢制限をするためのDVDの機能。DVDにより制限のしかたは異なり、全く再生できない場合や、過激な場面をとばしたり、差し替えたりして再生をします。

言語コード表

(詳しくは30ページをご覧ください。)

記号	コード	言語
AA	6565	アフアル語
AB	6566	アブバジア語
AF	6570	アフリカーンス語
AM	6577	アムハラ語
AR	6582	アラビア語
AS	6583	アッサム語
AY	6589	アイマラ語
AZ	6590	アゼルバイジャン語
BA	6665	バシキール語
BE	6669	ベラルーシ語
BG	6671	ブルガリア語
BH	6672	ビハーリー語
BI	6673	ビスラマ語
BN	6678	ベンガル語、バングラ語
BO	6679	チベット語
BR	6682	ブルトン語
CA	6765	カタロニア語
CO	6779	コルシカ語
CS	6783	チェコ語
CY	6789	ウェールズ語
DA	6865	デンマーク語
DE	6869	ドイツ語
DZ	6890	ブータン語
EL	6976	ギリシャ語
EN	6978	英語
EO	6979	エスペラント語
ES	6983	スペイン語
ET	6984	エストニア語
EU	6985	バスク語
FA	7065	ペルシャ語
FI	7073	フィンランド語
FJ	7074	フィジー語
FO	7079	フェロー語
FR	7082	フランス語
FY	7089	フリジア語
GA	7165	アイルランド語
GD	7168	スコットランドゲール語
GL	7176	ガルシア語
GN	7178	グアラニ語
GU	7185	グジャラート語
HA	7265	ハウサ語
HI	7273	ヒンディー語
HR	7282	クロアチア語
HU	7285	ハンガリー語
HY	7289	アルメニア語
IA	7365	国際語
IE	7369	国際語

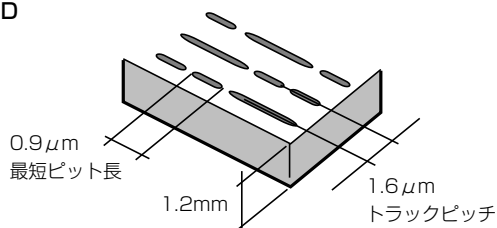
記号	コード	言語
IK	7375	Inupiak語
IN	7378	インドネシア語
IS	7383	アイスランド語
IT	7384	イタリア語
IW	7387	ヘブライ語
JA	7465	日本語
JI	7473	イディッシュ語
JW	7487	ジャワ語
KA	7565	グルジア語
KK	7575	カザフ語
KL	7576	グリーンランド語
KM	7577	カンボジア語
KN	7578	カナダ語
KO	7579	韓国語
KS	7583	カシミール語
KU	7585	クルド語
KY	7589	キルギス語
LA	7665	ラテン語
LN	7678	リンガラ語
LO	7679	ラオス語
LT	7684	リトアニア語
LV	7686	ラトビア語、レット語
MG	7771	マダガスカル語
MI	7773	マオリ語
MK	7775	マケドニア語
ML	7776	マラヤーラム語
MN	7778	モンゴル語
MO	7779	モルダビア語
MR	7782	マラータ語
MS	7783	マレー語
MT	7784	マルタ語
MY	7789	ミャンマー語
NA	7865	ナウル語
NE	7869	ネパール語
NL	7876	オランダ語
NO	7879	ノルウェー語
OC	7967	プロバンス語
OM	7977	(アフアン)オロモ語
OR	7982	オリヤー語
PA	8065	パンジャブ語
PL	8076	ポーランド語
PS	8083	パシュトー語
PT	8084	ポルトガル語
QU	8185	ケチュア語
RM	8277	ラエティ＝ロマン語
RN	8278	キルンディ語
RO	8279	ルーマニア語

記号	コード	言語
RU	8285	ロシア語
RW	8287	キニヤルワンダ語
SA	8365	サンスクリット語
SD	8368	シンド語
SG	8371	サンゴ語
SH	8372	セルビアクロアチア語
SI	8373	シンハラ語
SK	8375	スロバキア語
SL	8376	スロベニア語
SM	8377	サモア語
SN	8378	ショナ語
SO	8379	ソマリ語
SQ	8381	アルバニア語
SR	8382	セルビア語
SS	8383	シスワティ語
ST	8384	セストゥ語
SU	8385	スندا語
SV	8386	スウェーデン語
SW	8387	スワヒリ語
TA	8465	タミール語
TE	8469	テルグ語
TG	8471	タジク語
TH	8472	タイ語
TI	8473	ティグリニヤ語
TK	8475	トゥルクメン語
TL	8476	タガログ語
TN	8478	セツワナ語
TO	8479	トンガ語
TR	8482	トルコ語
TS	8483	ツォンガ語
TT	8484	タタール語
TW	8487	トウィ語
UK	8575	ウクライナ語
UR	8582	ウルドゥー語
UZ	8590	ウズベク語
VI	8673	ベトナム語
VO	8679	ボラビュク語
WO	8779	ウォロフ語
XH	8872	コーサ語
YO	8979	ヨルバ語
ZH	9072	中国語
ZU	9085	ズール語

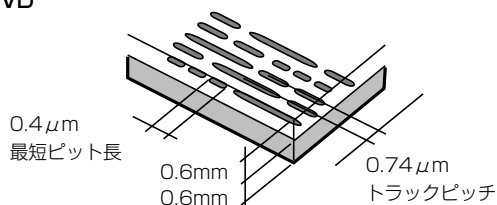
DVD について

音楽CDやDVD等のディスクには、情報を記録するための溝（トラック）があります。そこに、0と1のデジタル情報を凹凸で表した細かいピットが作られ、それをレーザー光で読み取り再生します。DVDは、トラック間隔をCDの半分以下に狭め、ピットもより細かくして高密度でより多くの情報を記録させています。

CD



DVD



12cmのディスクに映画なら1本分、音楽なら約4時間を収録できます。

さらに水平解像度500本以上の高画質により透明感のある画質、鮮やかな色合いを再現します。また、別売りのデジタルオーディオプロセッサ（PXA-H900/PXA-H510/PXA-H701など）と組み合わせることによりドルビーデジタル5.1chサラウンドで劇場の迫力と臨場感を再現することができます。

さらに、DVDディスクにはいろいろな機能があります。

●マルチ音声機能* (21ページ)

1本の映画の中に最大8つの言語を収録できます。本機のボタン操作でお好みの音声で再生することができます。

●サブタイトル(字幕)機能* (22ページ)

映画の字幕スーパーなら32カ国語まで収録できます。本機のボタン操作でお好みの字幕で再生することができます。

●マルチアングル機能* (21ページ)

複数のアングルで撮影された映像が記録されていれば、本機のボタン操作でお好みのアングル(角度)で再生することができます。

●マルチストーリー機能*

1本の映画の中にいくつものストーリーが入っていて、お好みのストーリーを選ぶことにより何通りものストーリーを楽しむことができます。

操作方法はディスクによって異なりますが、再生中にストーリー選択画面が表示されますので、画面の指示に従って操作してください。



* これらの機能は、ディスクによって収録されている音声言語、字幕、アングルなどが異なります。詳しくはディスクの説明書をご覧ください。

MP3/WMA について

注意：

個人で楽しむ以外は、オーディオデータ(MP3/WMAデータ含む)を著作権者に無断で複製し、有料無料を問わず配布、転送、転載することは著作権法や国際協定で固く禁じられています。

MP3とは？

正式には「MPEG-1 Audio Layer3」といい、国際標準化団体のISOとIECの共同活動機関であるMPEGが定めた圧縮規格です。

MP3は音声データを圧縮した音声ファイルで、サウンドデータを非常に高い圧縮率で圧縮することができます。

また、CDクオリティに近い音質を実現しても約1/10の圧縮率を得ることができます。

(サンプリング周波数44.1kHz、ビットレート128kbpsの場合)

このような高圧縮率を実現しているMP3フォーマットは、人には聴き取れない音を消すことなどにより高圧縮を実現しています。

WMAとは？

WMAまたは「Windows Media™ Audio」は、圧縮されたオーディオデータです。

WMAはMP3オーディオデータと同様に小さいファイルサイズでCD同等の音質を実現しています。

MP3/WMAへ圧縮する方法

MP3/WMA専用ソフトを使い圧縮します。詳しくは専用ソフトの説明書を参照願います。

また、本機で再生可能なMP3/WMAファイルは、拡張子が“mp3”/“wma”です。(WMAはVer.7.1、8に対応)

再生可能なサンプリングレート・ビットレート

サンプリングレート

MP3：32kHz～48kHz

WMA：32kHz～48kHz

ビットレート

MP3：32kbps～320kbps、WMA：32kbps～320kbps

サンプリングレートまたはビットレートによっては正常に再生されない場合があります。

上記記載以外は動作を保証しかねます。

ID3タグ/WMAタグについて

MP3/WMAファイルにタグ情報が入っていれば、タイトル(曲名)、アーティスト名、アルバム名のタグ情報を表示できます(最大128文字)。

本機で表示可能な文字は半角の英数、_(アンダーバー)のみです。

ひらがな/カタカナ/漢字には対応していません。

対応文字以外の場合、「NO SUPPORT」が表示されます。

また、タグ情報によっては、文字数が制限されたり正しく表示されないことがあります。

MP3/WMAディスクを作成するには

MP3/WMAファイルを用意し、CD-Rライティングソフトを利用して、CD-R・CD-RW(DVD-R・DVD-RW)メディアに書き込みます。

ファイルが1024個フォルダ数(ルートフォルダを含めて)は、256個までです。ただしライティングソフトによっては再生できない場合があります。

MP3作成ソフトの一部にはライティングソフトが同梱されているものもあります。このようなソフトを使用した場合、本機で再生ができないことがあります。このような場合には、他のライティングソフトを使用してMP3ファイル(フォルダ)のみを記憶してください。

フォルダやファイルの構成によってはディスクの読み込みに時間がかかる場合があります。その場合は、フォルダ数またはファイル数を減らすことをおすすめします。

対応メディア

再生できるメディアは、CD-ROM、CD-R、CD-RWです。

対応ファイルシステム

ISO9660レベル1、レベル2でフォーマットされたディスクに対応しています。

ISO9660規格では、フォルダのディレクトリ階層(最大8階層)やフォルダ/ファイル名の文字数、フォルダ/ファイル名で使用できる文字(A～Z、0～9、_(アンダースコア))などの制限があります。

また、Romeo、JolietなどのISO9660準拠であれば、再生は可能です。但し、ファイル名/フォルダ名などは正しく表示されない場合があります。

対応フォーマット

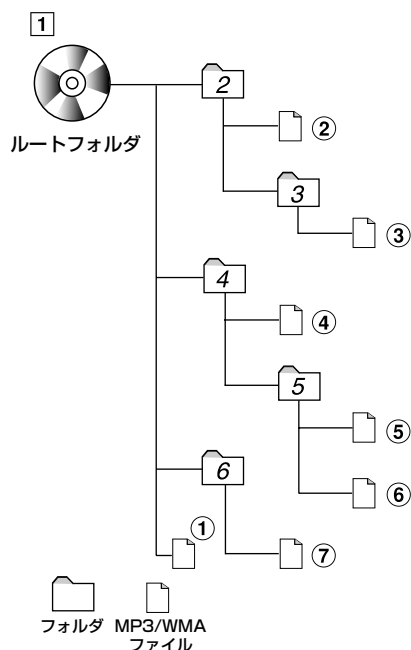
CD-ROM、CD-ROM XA、Mixed Mode CD、Enhanced CD (CD-Extra)、及びマルチセッションに対応しています。

但し、Track At Onceやパケットライトで作成されたCDの場合、正常に再生できません。

演奏される順番

演奏される順番はライティングソフトで書き込まれた順番になります。このため、記録しようとした順番と再生される順番が一致しないことがあります。

下図のようなフォルダ・ファイル階層のメディアでの演奏順は次の通りです。(実際に表示される番号ではありません)



用語説明

ビットレート

エンコードするときに指定する「音」の圧縮率で、ビットレートが高いほど高音質になるが、ファイルサイズも大きくなる。

サンプリングレート

データを1秒間に何回サンプリング(記録)するかを示す値のことで、たとえば、音楽CDは44.1kHzで、1秒間にデータを4万4100回サンプリング(記録)していることとなります。高ければ高いほど音質は向上しますが、それだけデータ量も増えます。

エンコード

音楽CD やWAVEファイルなどの音声ファイルを、特定の音声圧縮フォーマットに変換すること。

タグ

曲名やアルバム名、アーティスト名など、MP3/WMAファイルに書き込まれた楽曲情報。(MP3：ID3タグ、WMA：WMAタグ)

ルートフォルダ

ファイルシステムの最上階層のフォルダ。全てのフォルダ／ファイルはルートフォルダに含まれています。

知っておきたい豆知識

周波数帯域と音質について

一般的に、周波数には次のような音質の特徴があり、各帯域を強調/減衰することにより、さまざまな音質が楽しめます。調整の際の参考にしてください。



故障かな？と思ったら

操作ミスや勘違いを故障と間違えていませんか？

→ 接続・配線は正しく行われていますか？

→ 下の表をもう一度ご確認ください。

→ それでも直らないときは、お買い上げ店、またはお近くのお問い合わせ窓口(P94)にご相談ください。

● 操作中に停止したままになったり正常に動作しなくなった場合は、一度電源をOFF→ONしてください。それでも正常に動作しない時は、下表を参照して処置を行なってください。

共通部

動作しない。

ディスプレイに何も表示されない。

- ヒューズが切れている。
 - ・ 規定容量のヒューズと交換する。(→P74)
- 内部のマイコンが、ノイズなどの原因で誤動作してしまった。
 - ・ リセットスイッチをボールペンの先などで押す。(→P10、11)
- BLACK OUT機能が動作している。(ディスプレイが暗くなっている)
 - ・ BLACK OUT機能を解除する。(→P27)
- 電源が入るが音が出ない。
 - 音量レベルが最小になっている。
 - ・ 音量レベルを上げる。(→P12)
 - MUTEがONになっている。
 - ・ MUTEを解除する。(→P12)
 - フェダーの設定が適切でない。
 - ・ 2スピーカーで聴くときは、スピーカーのバランスを前または後に設定する。(→P25)
 - ナビ音声が入り込まない。
 - ・ NAV.MIXの音量調整を行う。(→P25、35)

記憶させた内容が消えてしまった。

- リセットスイッチを押した。電源コードまたはバッテリーをはずした。
 - ・ もう一度記憶する。
- バッテリーコードの接続ミス
 - ・ 接続を確認する。(→P74、75)

ディスプレイが暗い。

- 気温が低いときは、電源を入れた後、しばらく暗いことがある。
 - ・ しばらく待つ。

ディスプレイが表示しない。

- 音声と映像があわない。
 - ・ サイマル機能になっている。(→P27)

MX、EQの設定ができない。

- DEFEATの設定がONになっている。
 - ・ DEFEATの設定をOFFにする。(→P25)

サブウーハーの音が出ない。

- サブウーハーの設定がOFFになっている。
 - ・ サブウーハーの設定を0° または180° にする。(→P44)
- サブウーハー出力レベル調整を行っていない。
 - ・ サブウーハー出力レベル調整を行う。(→P25)

表示が勝手に切りかわる。

- デモンストレーション機能がONになっている。
 - ・ OFFに設定する。(→P33)

タッチスイッチがグレーになり操作できない。

- パーキングブレーキコードが接続されていない。
 - ・ 取付説明書を参照して正しく接続する。

ナビ画面が割り込む。

- ナビゲーション側のシステム割り込みの設定が「システム」に設定されている。
 - ・ システム割り込みの設定を「しない」に切りかえる。(詳しくは、ナビゲーション側の取扱説明書をご覧ください。NVA-HD55Sをお使いのお客様へ：本設定はありません。)

ナビゲーション音声割り込み中、オーディオのボリュームが下がる。または、ボリュームが小さくなってしまふ。

- ナビゲーション音声割り込み中に、オーディオ音量を調整する。(「ナビゲーション音声の割り込み設定」(35ページ参照)のMemoを参照してください。)

リモコン(別売)が効かない。

- リアエンター機能のリモコン受光部が本機以外になっている。
 - ・ リアエンター機能のリモコン受光部を切りかえる。(→P26)

CD/MP3/WMA 部 /DVD/ ビデオ CD 部

ディスクが入らない。

- すでに別のディスクが入っている。
 - ・ ディスクを取り出してから入れ直す。

演奏が始まらない。／音がとぶ。／音が歪む。／早送り／早戻しができない。

- 車内温度が50℃以上ある。
 - ・ 車内温度を常温まで下げてから、演奏させる。
- ディスクに傷が付いている。ディスクがひどく汚れている。録音状態が良くない。本機対応のディスクでない。
 - ・ 他のディスクを再生してみる。
- 結露している。
 - ・ しばらく放置してから使う。
- ピックアップレンズが汚れている。
 - ・ メンテナンスをする。(お問い合わせ窓口へ)(→P94)
 - ・ ご自分でメンテナンスをする場合は、必ずアルバイン専用の「KAE-125C」(別売)のレンズクリーナーを使用してください。

ディスクが勝手にイジェクトする。

- ディスクの側面／センターホールにバリがある。
 - ・ ボールペンなどでセンターホール外側の縁をなぞって突起箇所を取り除く。



CD-R/CD-RW が再生できない。

- クローズセッション(ファイナライズ処理)を行っていない。
 - ・クローズセッション(ファイナライズ処理)を行い、再度、試してみる。

MP3/WMA が演奏されない。

- 書き込みに失敗している／対応フォーマット以外で書き込まれている。
 - ・書き込みに失敗していないか確認する。または、「MP3/WMAについて」を参照し本機対応のフォーマットで書き込みを行う。(→P86、87)

5.1ch が再生されない。

- 外部オーディオプロセッサ／光デジタル入力切りかえをしていない。
 - ・光デジタル入力切りかえの設定をする。(→P36)

動作しない。

- 結露している
 - ・しばらく放置(1時間程度)してから使う。
- パーキング・ブレーキ・コードを接続していない。
 - ・パーキング・ブレーキをかけていない。
 - ・パーキング・ブレーキ・コードを接続し、パーキング・ブレーキをかける。

再生が始まらない。

- ディスクを裏返しに入れている。
 - ・ディスクを確認し、ラベル印刷面を上にして入れる。
- ディスクが汚れている。
 - ・ディスクをきれいにする。
- 本機で再生できないディスクが入っている。
 - ・再生できるディスクを確認する。(→P5、6)
- 視聴制限がされている。
 - ・視聴制限を解除、または規制レベルを変更する。

映像が不鮮明になったり、雑音が入ったりする。

- 早送り/早戻しをした。
 - ・多少乱れることはありますが、故障ではありません。
- 車のバッテリー電源が低下している。
 - ・バッテリー電源及び配線を確認する。(負荷状態で11ボルトを下回ると誤作動の原因となります。)
- モニターの蛍光灯が消耗している。
 - ・モニターの蛍光灯を交換する。

映像が時々止まる。

- ディスクにキズがある。
 - ・キズのないディスクと交換する。

ラジオ部

受信できない。

雑音が入る。

- アンテナが接続されていない。
 - ・アンテナが確実に接続されているか確認する。
- アンテナが伸びていない。
 - ・アンテナを伸ばす。
 - ・パワーアンテナ/ブースターコードが接続されているか確認する。
- 放送局の周波数が合っていない。
 - ・周波数を正しく合わせる。(→P23)
- 周りに障害物などがあり、受信状態が良くない。
 - ・見通しが良いところに移動する。
- アースコードが接続されていない、ゆるんでいる。
 - ・アースコードが接続されているか確認する。または、接続場所を変更する。

自動的に放送局が選べない。

- 電波の弱い地域にいる。
 - ・ディスタンスモードまたはマニュアルモードで受信する。(→P23)

メッセージが表れたら… (CD/MP3/WMA 部)

- NO DISC**
- ディスクが入っていない。
 - ・ディスクを入れる。
 - ディスクは入っているが、「NO DISC」と表示され、演奏または、イジェクトができない。
 - ・次の方法でディスクを取り出す。「▲」を3秒以上押す。

- HI-TEMP**
- 車内温度が高すぎる。
 - ・車内温度を常温まで下げる。
 - ・本機の電源をOFFにし、温度が下がるまでしばらく待つ。その後再び電源をONさせる。

- LOADING ERROR**
- メカニズムエラー。
 - ・①「▲」を押して、ディスクを取り出す。
イジェクトできないときは修理ご相談窓口へ。
 - ② ディスクを取り出してもエラー表示が消えない場合は、もう一度「▲」を押す。
 - ③ 何度押してもエラー表示が消えない場合は修理ご相談窓口へ。

- DISC ERROR**
- ディスク傷、ディスク汚れ。／録音状態が良くない。／本機対応のディスクでない。
 - ・「▲」を押して、ディスクを交換する。

- NO SUPPORT**
- 本機(チェンジャー)で対応していない文字情報が入力されている。
 - ・本機で対応している文字情報が入力されたディスクを使用する。(本機では、「漢字」／「ひらがな」などは、表示されない。)

- PROTECT**
- コピープロテクト(著作権保護)されているWMAファイルを演奏した。
 - ・コピープロテクトされていないファイルを演奏する。

- UNSUPPORTED**
- 本機指定のMP3/WMAフォーマットで書き込みされていない。
 - ・本機指定のフォーマットで書き込みを行う。

メッセージが表れたら ... (iPod® 部 (オプション))

- NO iPod**
- iPodが接続されていない。
 - iPodが正しく接続されているか確認する。また、コードが極端に折れ曲がっていないか確認する。
 - iPodバッテリーの残量が少ない。
 - iPodユーザズガイドを参照して、iPodを充電する。

- NO SONG**
- iPodに曲(ファイル)が入っていない。
 - iPodに曲(ファイル)を転送してから接続する。

- ERROR01**
- 通信エラー。
 - 一度イグニッションキーを「OFF」にしてから、もう一度「ACC」または「ON」にする。
 - iPodとiPod接続ケーブルを接続しなおして表示を確認する。

- ERROR02**
- 本機で対応していないiPodソフトウェア・バージョンである。
 - KCA-420i取扱説明書「本機対応のiPodについて」を参照し、本機対応のiPodソフトウェア・バージョンにアップデートする。

メッセージが表れたら…
(チェンジャー部 (オプション))

- NO MAGAZINE**
- マガジンがCDチェンジャーにセットされていない。
 - マガジンをCDチェンジャーにセットする。

- NO DISC**
- ディスクが入っていない。
 - ディスクを入れる。

- HI-TEMP**
- 車内温度が高すぎる。
 - 車内温度を常温まで下げる。

- ERROR01**
- ディスクがマガジンに戻っていない。
 - ① 「▲」を押す。
 - ② 空のマガジンを入れ、もう一度「▲」を押しディスクを回収する。
 - メカニズムエラー。
 - ① 「▲」を押す。
 - ② 表示が消えたら、ディスクを入れ直したマガジンを再度挿入する。
 - ③ それでも復旧しない…修理ご相談窓口へ。

- ERROR02**
- ディスクがマガジンに戻っていない。
 - ① 「▲」を押す。
 - ② 空のマガジンを入れ、もう一度「▲」を押しディスクを回収する。

メッセージが表れたら… (DVD/ ビデオ CD 部)

- HI-TEMP**
- 車内温度が高すぎる。
 - 車内温度を常温まで下げる。
 - 本機の電源をOFFにし、温度が下がるまでしばらく待つ。その後再び電源をONさせる。

- NO DISC**
- ディスクが入っていない。
 - ディスクを入れる。
 - ディスクは入っているが、「NO DISC」と表示され、演奏または、イジェクトができない。
 - 次の方法でディスクを取り出す。「▲」を3秒以上押す。

- 
- リモコン(別売)操作を受け付けない。
 - ディスクまたは再生状態によっては、その操作を受け付けられない場合があります。故障ではありません。

- REGIONAL CODE VIOLATION**
- ディスクの地域コード番号が合っていない。
 - 地域コード番号が対応しているディスクを入れる。(→P6)

- VIDEO SIGNAL SYSTEM IS NOT CORRECT**
- PAL対応のディスクを入れた。
 - NTSC対応のディスクを入れる。

- LOADING ERROR**
- メカニズムエラー。
 - ① 「▲」を押して、ディスクを取り出す。イジェクトできないときは修理ご相談窓口へ。
 - ② ディスクを取り出してもエラー表示が消えない場合は、もう一度「▲」を押す。
 - ③ 何度押してもエラー表示が消えない場合は修理ご相談窓口へ。

- DISC ERROR**
- ディスク傷、ディスク汚れ。／録音状態が良くない。／本機対応のディスクでない。
 - 「▲」を押して、ディスクを交換する。

- STOP OR EJECT DISC BEFORE USING DVD-SETUP**
- ディスクが再生停止されていない状態でDVDセットアップの操作を行った。
 - ディスクを再生停止または、ディスクを取り出してから操作を行う。

規格

モニター部

画面サイズ	7.0インチ
液晶	透過型TN液晶
駆動方式	TFTアクティブマトリックス
画素数	336.960個(1.440×234)
有効画素数	99.99%以上
照明方式	冷陰極蛍光管
外形寸法	178(幅)×165(奥行)×50 (高さ)mm(収納時)
重量	2.2kg

ラジオチューナー部

受信周波数	AM ; 522~1,629kHz, FM ; 76.0~90.0MHz
実用感度	AM ; 22.5 μ V, FM ; 0.8 μ V (75 Ω): 9.3dBf(新IHF)
ステレオセパレーション	FM ; 45dB以上
SN比	FM ; 80dB以上
イメージ妨害比	FM ; 80dB以上
IF妨害比	FM ; 80dB以上

CD/DVD部

方式	光学式(コンパクトディスク 方式)
量子化ビット数	1ビット
チャンネル数	2チャンネル(ステレオ)
ダイナミックレンジ	95dB(1kHz)以上
高周波歪率	0.008%(1kHz)以下
チャンネルセパレーション	85dB(1kHz)以上
ワウフラッター	測定限界以下
信号システム	NTSC
水平解像度	500本以上
画像出力レベル	1Vp-p(75 Ω)
画像SN比	DVD ; 60dB
音声SN比	105dB以上
周波数特性	5~20kHz

TVチューナー部

アンテナ入力	4chダイバー(75 Ω)
受信方式	NTSCカラー方式
回路方式	PLL周波数シンセサイザー
受信チャンネル	VHF1~12ch, UHF13~62ch
S/N比(ビデオ)	40dB
(オーディオ)	50dB
実用感度	40dB μ V
外形寸法	220(幅)×170(奥行)×30 (高さ)mm
重量	950g

一般

使用電源	DC14.4V (動作範囲 ; 11~16V)
アース方式	⊖アース
音声出力レベル	プリアウト : 2V/10k Ω (最大) (サブウーハー) AUX OUT:1.2V/10k Ω Ai-NET:850mV
動作温度範囲	0℃~45℃

アンプ部

最大出力	45W×4
------	-------

- 蛍光管は保証期間内であっても、消耗品につき有償交換となります。
- 製品の規格および外観は、改良のため予告なく変更する場合があります。
- 本説明書のイラストは、印刷条件により、印象が異なる場合があります。
- 本書の一部または全部を無断で転載しないでください。



Memo

- 液晶パネルは、非常に精度の高い技術で作られており、99.99%以上の有効画素数がありますが、0.01%の画素欠けや常時点灯する画素があり得ますので、あらかじめご了承ください。

保証について

保証書について

- この製品には保証書が添付されています。お買上げの際、お受け取りください。
- 必ず「販売店印・お買上げ日」が記入されていることをご確認ください。
- 保証書は再発行できませんので、大切に保管してください。

アフターサービスについて

- 調子が悪いとき
まず、この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。
- それでも調子が悪いとき
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。お買上げ店、または94ページの「お問い合わせ窓口」にあるお近くの修理ご相談窓口へ、修理を依頼してください。

- 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは、保証書をご覧ください。
- 保証期間経過後の修理
修理によって機能が維持できる場合は、ご希望により有料で修理させていただきます。
- 補修用性能部品
製造打ち切り後、最低6年間保有しています。
- アフターサービスについての詳細、その他ご不明な点はお買上げ店、または94ページの「お問い合わせ窓口」にお問い合わせください。
- 一部の付属部品は補修部品も用意しています。部品を無くしたり壊したりしたときは、お買上げ店にお問い合わせください。

お問い合わせ窓口

- 製品に関するご相談／お問い合わせは、お買い上げ店または下記の「製品ご相談窓口」をご利用ください。
- 修理に関するお問い合わせは、下記「修理ご相談窓口」をご利用ください。
- ご相談窓口の名称・電話番号・所在地は、変更になる場合があります。



製品ご相談窓口

お問い合わせはインフォメーションセンターへ

- インフォメーションセンター
 <一般回線ご利用のお客様用>
 TEL:0570-006636
 ※全国どこからでも市内通話料金でご利用頂けます。
 <携帯電話等、移動体通信ご利用のお客様用>
 TEL:048-662-6636



- 電話受付時間 9:30~17:30
 (土日、祝日、弊社休業日を除く)
- 電話は混雑が予想されます。FAXでのお問い合わせをおすすめします。
 FAX:048-662-6676
- アルパイン ホームページ <http://www.alpine.co.jp>

営業所・販売名	電話番号	住所	担当 都道府県
北日本エリア 仙台オフィス 札幌オフィス 郡山オフィス	022-239-5331 011-621-4485 024-925-3811	〒983-0031 宮城県仙台市宮城野区小鶴字羽黒 104-1 〒064-0821 北海道札幌市中央区北 1 条西 22 丁目 2 番 1 号 上野ビル 〒963-8051 福島県郡山市富久山町八山田字土布池 11 番 5 号	宮城県 / 山形県 / 秋田県 / 青森県 / 岩手県 北海道全域 福島県
北関東エリア 北関東オフィス 松本オフィス 新潟オフィス	048-664-7701 0263-26-0783 025-257-8680	〒331-0812 埼玉県さいたま市北区宮原町 2 丁目 7 番 2 号 〒390-0487 長野県松本市世部 1 丁目 3 番 7 号 オフィス GB205 号 〒950-0852 新潟県新潟市石山 1 丁目 3-6 エクセレント石山	東京都北・西部 / 埼玉県 / 群馬県 / 栃木県 長野県 / 山梨県 新潟県
東関東エリア 東関東オフィス	03-5666-5226	〒133-0061 東京都江戸川区篠崎町 2-406-1	東京都東部 / 千葉県 / 茨城県
南関東エリア 南関東オフィス	045-541-7261	〒223-0057 神奈川県横浜市港北区新羽町 1767 番地 アルプス電気横浜事業所内 5F	東京都中・南部 / 神奈川県 / 静岡県(大井川以东)
中部圏エリア 中部オフィス 北陸オフィス	052-779-5655 076-240-8111	〒465-0021 愛知県名古屋市中東区猪子石 3 丁目 108 〒921-8066 石川県金沢市矢木 3 丁目 72 番 1 号	愛知県 / 三重県 / 岐阜県 / 静岡県(大井川以西) 石川県 / 富山県 / 福井県
近畿圏エリア 大阪オフィス	06-6386-4136	〒564-0041 大阪府吹田市泉町 3 丁目 18 番 14 号	大阪府 / 奈良県 / 和歌山県
中四国エリア 岡山オフィス 広島オフィス	086-243-8257 082-846-1175	〒700-0975 岡山県岡山市今 4 丁目 5 番 2 号 〒731-0138 広島県広島市安佐南区祇園 2 丁目 11 番 16 号	岡山県 / 島根県 / 鳥取県 / 徳島県 / 香川県 / 愛媛県 広島県 / 山口県
九州エリア 福岡オフィス 長崎オフィス	092-452-8870 095-727-1581	〒816-0093 福岡県福岡市博多区那珂 3 丁目 23 番 2 号 ヒロタビル 7 号 〒854-0074 長崎県諫早市山川町 3 の 13	福岡県 / 大分県 / 佐賀県 / 熊本県 / 鹿児島県 / 宮崎県 / 沖縄県 長崎県
アルパイン京都販売(株)	075-671-9400	〒601-8101 京都府京都市南区上鳥羽高島町 88-2	京都府 / 滋賀県
アルパイン兵庫販売(株)	0794-54-6123	〒675-0067 兵庫県加古川市加古川町河原 133 の 1	兵庫県
マークエンタープライズ(株)	088-884-6800	〒780-8122 高知県高知市高須新町 3 丁目 10 番 8 号	高知県

修理ご相談窓口

問い合わせ窓口	電話番号	住所	管轄エリア
アルパインカスタマーズサービス(株) 東日本サービスセンター	048-664-9711	〒331-0812 埼玉県さいたま市北区宮原町 2-7-2	北海道 / 青森県 / 岩手県 / 秋田県 / 山形県 / 宮城県 / 福島県 / 栃木県 / 茨城県 / 群馬県 / 東京都 / 神奈川県 / 埼玉県 / 千葉県 / 新潟県 / 長野県 / 山梨県
アルパインカスタマーズサービス(株) 西日本サービスセンター	06-6386-4130	〒564-0041 大阪府吹田市泉町 3 丁目 18 番 14 号	静岡県 / 愛知県 / 三重県 / 岐阜県 / 福井県 / 富山県 / 石川県 / 滋賀県 / 京都府 / 大阪府 / 和歌山県 / 奈良県 / 兵庫県 / 岡山県 / 島根県 / 鳥取県 / 広島県 / 山口県 / 香川県 / 愛媛県 / 徳島県 / 高知県 / 福岡県 / 佐賀県 / 大分県 / 熊本県 / 長崎県 / 鹿児島県 / 宮崎県 / 沖縄県

索引

あ 行

アクションインジケータ	10
アングル切りかえ (DVD)	21
イコライザーモード (FLAT、ROCK、POPS など) の設定	40
映像画質を調整する	46
映像コントラストを調整する	46
映像だけを切りかえる	27
映像の明るさを調整する	45
映像の色あいを調整する	45
映像の色の濃さを調整する	45
オーディオ調整	25
オートバックグラウンドの設定	38
オプションとは?	9
音声言語切りかえ	21
音声言語の設定	29
音声多重機能を使う	34
音量を調整する	12

か 行

外部オーディオプロセッサの操作 (オプション)	49
外部オーディオプロセッサの光デジタル入力切りかえ設定	36
外部入力音声レベルの調整	36
外部入力に表示名をつける	36
外部モニター出力の設定	36
外部割り込みアイコン表示の設定	35
外部割り込みモードの設定	35
カットオフ周波数	44
画面の見かた	12
カントリーコード設定	30
記憶した TV 放送局を呼び出す	24
記憶したラジオ放送局を受信する	23
曲順を変えて聴く (CD)	14
曲順を変えて聴く (MP3/WMA)	15
繰り返し聴く (CD)	14
繰り返し聴く (MP3/WMA)	16
言語コード表	84
言語設定を変更する	29
コマ送り／戻し再生 (DVD/ビデオ CD)	20

さ 行

サーチ機能	25
再生可能なサンプリングレート・ビットレート	86
再生中止 (DVD/ビデオ CD)	19
再生停止 (DVD/ビデオ CD)	19
再生データの設定	34
サイマル機能	27

サブウーハーの ON/OFF	44
サブウーハーレベル調整	25
サブタイトル切りかえ (DVD)	22
サブディスプレイ	10
サブディスプレイ表示について	66
時刻表示	12
時刻を設定する	33
視聴規制	30
自動的に TV チャンネルを記憶する	24
自動的にラジオ放送局を記憶する	23
字幕言語	22
字幕言語の設定	30
周波数帯域と音質について	88
使用状態 (DVD/ビデオ CD)	22
照光ボタンの色をかえる (IVA-D305EU のみ)	36
照光ボタンの夜間減光調整	34
ショートカット画面	13
ショートカットメニュー	12
スクロールの設定	34
スロープの調整	44
スローモーション再生 (DVD/ビデオ CD)	20
静止する (DVD/ビデオ CD)	19
操作音の切りかえ	33
ソース選択画面	12
ソースの呼び出し	12

た 行

タイトル番号で頭出し (DVD)	20
タイムコレクションについて	41
タイムコレクションの調整と記憶／呼び出し	42
ダイレクトメニュー操作 (DVD)	18
ダウンミックスモード	32
ダウンロード	47、48
タッチスイッチの操作	12
タッチパネル操作振動の ON/OFF	38
タッチパネルの調整	38
チェンジャー操作 (オプション)	62
チャプター／トラック番号で直接頭出し (DVD/ビデオ CD)	20
チャプター／トラックの頭出し (DVD/ビデオ CD)	19
ディスタンスモード (ラジオ)	23
デジタル出力設定	31
デモンストレーション機能	33
10KEY	13
10 キー入力	13
電源の ON/OFF	11
道路交通情報を受信する	25
時計を表示する	33
トップメニュー画面を表示する (DVD)	18
トラフィックインフォメーション	25

取り付けと接続	67
ドルビーサラウンドの調整手順 (オプション)	49

な 行

ナビゲーション音声の割込み設定	35
ナビゲーション画面に切りかえる (オプション)	60
ナビゲーションモードを設定する	35

は 行

背景画面を切りかえる	37
ハイパスフィルターの調整	44
パスワードを変更する	30
バックライトの明るさを設定する	37
バックライトの最低レベルを調整する	37
バックライトをOFFにする	27
早送り/早戻し (DVD/ビデオCD)	19
パラメトリックEQの調整と記憶/呼び出し	40
バランス調整	25
バランス/フェダーをダイレクトに調整する	25
パレンタルロック	30
ビデオCDを再生する	17
表示モードを切りかえる	27
ファンクションガイド	12
フェダー調整	25
フォルダを選択する	15
フォントタイプの設定	38
フォントバック表示色を切りかえる	38
プレイバックコントロール	19
本機で再生できるディスク	5
本体キーの名称	10

ま 行

ミックス (CD)	14
ミックス (MP3/WMA)	15
ミュート	12
モニター (メインディスプレイ)	10
メニュー画面を表示する (DVD)	18
メニュー言語の設定	29
メニュー操作 (DVD)	18
モニター (ディスプレイ) 自動開閉の設定	28
モニター (ディスプレイ) 前後方向の調整	28
モニター (ディスプレイ) の角度調整	28
モニター (ディスプレイ) を収納する	11
モニター (ディスプレイ) を立ち上げる	11
モニター (ディスプレイ) をフラットにする	11

や 行

用語解説	83
------------	----

ら 行

ラジオ放送局を記憶する	23
ラジオメイン画面	23
ラジオを聴く	23
リアエンター機能	26
リアカメラの設定	36
リセット	10
リップング	59、81
リピート (CD)	14
リピート (MP3/WMA)	16
リピート再生 (DVD/ビデオCD)	21
リモコン受光部	10
リモコン受光部切りかえ	26
ローカルモード (ラジオ)	23
ロータリーエンコーダー	10

A to Z

ANGLE	21
A.PROC TYPE	36
AUDIO LANGUAGE	29
AUDIO モード画面	25
AUTO BACKGROUND	38
AUTO SCROLL	34
AUX IN	35
AUX 操作 (オプション)	60
AUX モードを設定する	35
BACKGROUND	37
BAND ボタン	10
BASE COLOR	38
BASS ENGINE	40
Bass Engine 機能	40
Bass Engine の設定	40
BASS FOCUS	43
Bass Focus の調整と記憶/呼び出し	43
BASS MAX EQ	40
Bass MAX EQ モードを選ぶ	40
BEEP	33
BLACK OUT	27
BRIGHT	45
CAMERA IN	36
CD メイン画面	14
CD 録音速度の設定	35
CD を聴く	14
CLOCK	33
CLOCK ADJUST	33
COLOR	45
CONTRAST	46
COUNTRY CODE	30
Data Download	47、48
DEFEAT の ON/OFF	25
DEMONSTRATION	33

DIGITAL OUT MODE	31	P-EQ	40
DIMMER	37	P-EQ 調整画面	40
DIMMER LOW LEVEL	37	PARENTAL	30
DISPLAY SETUP	37	PBC 機能 (ビデオ CD)	19
DISPLAY セットアップ	37	PLAY MODE	34
DOWNMIX MODE	32	PRE STOP (DVD/ ビデオ CD)	19
DVD SETUP	29	PULSETOUCH	38
DVD セットアップ	29	PULSETOUCH™	12
DVD セットアップ画面	29	REPEAT (CD)	14
DVD について	85	REPEAT (MP3/WMA)	16
DVD メイン画面	17	RPT (CD)	14
DVD を再生する	17	RPT DISC (CD)	14
DX SEEK (ラジオ)	23	RPT DISC (MP3/WMA)	16
EQ (FLAT、ROCK、POPS など) のモード設定	40	RPT FLDR (MP3/WMA)	16
FLAT、ROCK、POPS などのイコライザーモードの 設定	40	RPT(MP3/WMA)	16
FLAT/SUB DISP. ボタン	10	SCREEN ALIGNMENT	38
FM CONDITION	34	SEEK (TV)	24
FONT TYPE	38	SEEK (ラジオ)	23
GENERAL SETUP	33	SETUP 選択画面	12
GENERAL セットアップ	33	SHARP	46
HDD/MD/MS プレーヤー操作 (オプション)	59	SLIDE	28
HPF	51	SOURCE/POWER ボタン	10
ID3 タグ	86	SUBT. LANGUAGE	30
ILLUMINATION COLOR	36	SUBWOOFER	44
IN INT.ICON	35	SYSTEM SETUP	34
IN INT.MUTE	35	SYSTEM セットアップ	34
i-Personalize	39	T.CORR (TIME CORRECTION)	42
iPod® 操作 (オプション)	63	TINT	45
LED DIMMER LEVEL	34	TRF	25
LEVEL	36	TUNER 音質の設定	34
LPF	51	TV SCREEN	32
MAX TUNE SQ	34	TV スクリーン設定	32
Media Xpander 機能	39	TV 放送局を選ぶ	24
MENU LANGUAGE	29	TV 放送局を記憶する	24
M.I.X. (CD)	14	TV メイン画面	24
M.I.X.FLDR	15	USER MEMORY	46
M.I.X. (MP3/WMA)	15	VISUAL EQ	45
MM DRIVER (オプション)	59	VISUAL EQ™	45
MONITOR O/C	28	VISUAL EQ 設定機能	45
MONITOR OUT	36	VISUAL EQ モードを選ぶ	45
MP3/WMA 画面	15	VISUAL EQ を記憶する	46
MP3/WMA について	86	VISUAL KEY	36
MP3 とは?	86	VISUAL 選択画面	12
MP3 を聴く	15	VISUAL タッチスイッチの設定	36
MPX	34	WMA タグ	86
MX モードの設定	39	WMA とは?	86
NAME	36	WMA を聴く	15
NAV.IN	35	X-OVER	51
NAV. LEVEL 調整	25	X-OVER 調整画面	51
NAV. MIX	35		
NAV. POS. ボタン	10		
OPEN/CLOSE ボタン	10		

[illegible]

お客様へ



このたびは、アルパイン製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

ご愛用者WEBアンケートにご協力ください

弊社ではお客様により満足いただける製品を目指して、お客様のご意見を伺うアンケートを実施しています。
お手数ですが、以下のインターネット ウェブサイト(弊社ホームページ内)にてご回答下さいますようお願い申し上げます。
尚、回答者の個人情報を弊社以外で利用することはありません。

<https://secure.alpine.co.jp/ps/>

質問事項すべてに回答して下さった方の中から抽選で粗品をお送り致します。
(なお、発表は発送をもってかえさせていただきます)

◆アルパイン個人情報保護方針◆

1. 個人情報の利用目的

- お客様の個人情報は、以下のような目的で利用されます。
- ・ 郵送及び電子メールによるお知らせやアンケートの発信。
 - ・ アンケートのご回答やプレゼント応募に対する景品・商品等の発送。
 - ・ お問合せに対する連絡・確認。

2. 個人情報の開示について

- 当社は、お客様からご提供を頂いた個人情報を適切に管理します。当社は、以下のいずれかに該当する場合を除いて、お客様の個人情報を第三者に開示することは原則としていたしません。
- ・ お客様の同意がある場合。
 - ・ お客様に明示した目的を実施するために、当社の業務委託先に開示する必要がある場合。
尚、その場合当社は業務委託先に対して機密保持契約を締結する等の方法により、その業務委託先からの漏洩、再提供の防止を図ります。
 - ・ お客様を識別することができない状態で開示する場合。

正しい取り付け
正しい操作で
安全運転



重要

- オーディオプロセッサー(PXA-H701など)と組み合わせる場合には、システムスイッチの切りかえが必要になります。
- 正しい切りかえを行わないと、爆音など、不具合が発生します。
- 詳しくは、「スイッチの切りかえについて」(72ページ)を参照してください。



<アナログテレビ放送からデジタルテレビ放送への移行について>

地上デジタルテレビ放送は、関東、中京、近畿の三大広域圏の一部で2003年12月から開始され、その他の都道府県の県庁所在地は2006年末までに放送が開始されます。該当地域における受信可能エリアは、当初、限定されていますが、順次拡大される予定です。この放送のデジタル化に伴い、地上アナログテレビ放送は2011年7月までに終了し地上デジタルテレビに完全に移行することが国の法令によって定められています。本機で地上デジタルテレビ放送をご覧頂くには、本機に専用の地上デジタルテレビチューナ、アンテナを接続することにより、ご覧頂くことができます。